中		
南		
計		
前月末現在		
累計		

建築現場係員服務規程

大正十二年十一月二十七日 達第八十號 改正 昭和六年九月三十日 達第二十八號

第一條 本規定ニ於テ現場係員ト稱スルハ建築工事現場監督及其他用務ノ爲メ現場ヘ出張ヲ命セラレタル建築係員ヲ云フ

現場係員ハ一般服務規程ニ據ルノ外本規程ニ從フヘシ

第二條 現場係員ハ嚴正潔白苟モ專横近狃ノ擧動ナク周到綿密ナル注意ヲ以テ服務スヘシ

第三條 現場係員ノ執務時間ハ左ノ區別ニ依ル但シ工事其他ノ模樣ニ依リ必要アル場合ハ時間外ト雖モ執務スヘシ

自三月一日 至四月末日 自午前七時三十分 至午後五時

自五月一日 至八月末日 自午前七時 至午後六時

自十一月一日 至二月末日 自午前八時 至午後四時三十分

第四條 現場係員執務時間内ハ常ニ現場ニ執務シ猥リニ其地ヲ離ルヽコトヲ得ス但シ病氣其他已ムヲ得サル事情ニ因リ現場ニ勤務シ能ハサルトキハ課長ヘ屬出テ其承認ヲ受クヘシ

第五條 現場係員天候其他ニ由リ現場作業不能ノ爲メ出張ヲ要セサルトキハ直ニ登廳ノ上課長ノ指揮ニ從フヘシ

第六條 現場係員ハ監督日誌ニ左記事項ヲ詳記シ其ノ工事又ハ作業ノ終了スル毎ニ取纒提出スヘシ

一、年月日、天候、七曜ノ別

二、調査又ハ監視若クハ取扱ヒタル事項

三、工事其他ニ關係アル臨時發生事項

四、上司ノ巡視又檢査ノ事項並時日

五、工事竣工期間ニ影響スヘキ事項

六、職工人夫ノ出役數及工事用品ノ數量

七、其他後日ノ考證トナルヘキ事項

第七條 現場係員ノ休日ハ左ノ通リトス

毎月第一及第三日曜日

紀元節、天長節、祝日

自十二月三十日 至翌年一月三日但シ都合ニ依リ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 工事監督ニ從事スル現場係員ハ前各條ニ據ルノ外以下各條ニ從フヘシ

第九條 天災地變其他現場ニ災害ヲ來サムトスル虞アルトキハ執務時間外若クハ休日ト雖モ直ニ出張臨機ノ措置ヲ爲スヘシ

日月	日月	

第十七號

道路占用調査報告

區擔當員 事務員 事務員

日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月

助役	課長	土木主任	庶務主任	月日	七曜	調査區域	調査件數 占用	調査件數 繼續	調査件數 廢止	占用料 占用	占用料 繼續	占用料 廢止	占用料 差引增減

日月	日月

第十八號

日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月

月分（月 日閲覽）

道路占用願屆處理件數及料金異動報告

市長	助役	土木課長	庶務主任	提出月日	主任

區名	件數 占用	件數 繼續	件數 讓渡	件數 廢止	件數 計	料金 占用	料金 繼續	料金 廢止	料金 差引增減	料金 月末現在年額
東						円	円	円	円	円
西										

第十條　現場係員ハ設計書、仕樣書、圖面、其他契約書類ニ基キ其實施方法ヲ監視シ之ニ適合セサルモノト認メタルトキハ直ニ改造又ハ矯正セシムヘシ

第十一條　左ノ場合ニアリテハ現場係員ハ遲滯ナク事件ノ顚末ヲ課長ニ報告シ其指揮ヲ承クヘシ

一、天災地變其他ノ事情ニ起因シ工事豫定ノ如ク進捗セサルトキ

二、工事實施方法カ設計書類ニ照シ適合セリト認ムルモ若之ニ據リテ實施スルトキハ工事ノ將來ニ不利ヲ來シ又ハ危害アリト認ムルトキ

三、請負人カ現場係員ノ指揮命令ヲ遵守セサルトキ

四、請負人カ不正行爲ヲ爲シ又ハ爲ムトスル虞アリト認ムルトキ

第十二條　現場係員ノ現場ニ於テ材料檢査簿ヲ作製シ檢査材料ハ每日遺漏ナク記入スヘシ

第十三條　現場係員ハ其監督工事ニ對シ每月二回（十五日末日ニ區分）工事日程報告書（一號樣式）ヲ調製シ登廳ノ上之ヲ提出スヘシ但シ工事期間十五日ニ滿タサル場合ハ省略シ第六條ノ監督日誌ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條　工事竣工シタルトキハ工事竣工報告書（二號樣式）及竣工調書ヲ調製報告スヘシ但シ建築物ニ異動ヲ生セサル修繕工事ニ限リ前項竣工調書ヲ省略スルコトヲ得

附　則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

課長	技師	工事主任	請負人氏名	代人氏名

自　月　日
至　月　日　工事日程報告

契約期間　自大正　年　月　日
至大正　年　月　日

月日	七天曜	請負人	代人	職別出面表 大工	石工	煉瓦工	左官	建具	鍛冶工	鋼鐵工	雇人	女夫	記事
月日													
月日													
月日													
月日													
月日													
計													

工事行程　全工事　既成　現在　内訳

備考

右報告候也

大正　年　月　日　現場主任　現場係員

名古屋市長　殿

（第二號樣式）

竣工濟供覽
市　長
助　役
庶務課長
課長
建築課長
技　師
月　日

工事竣工報告書

工事件名

請負人ノ氏名

契約上ノ竣工期間　自大正　年　月　日　至大正　年　月　日間

右工事大正　年　月　日竣工候ニ付此段及報告候也

大正　年　月　日　名古屋市役所建築課勤務　技手

名古屋市長　殿

精檢濟供覽
市　長
助　役
庶務課長
課長
建築課長
月　日

前記竣工報告書ニ基キ大正　年　月　日設計書仕樣書等ニ照シ檢査執行候處何レモ所定ノ要件ニ適合スルコトヲ確認シ工作物ノ受授ヲ了シ候也

大正　年　月　日　名古屋市役所建築課勤務

名古屋市長　殿

受益者負擔金徵收事務取扱規程

大正十四年十一月十八日
訓令第八號

第一條　受益者負擔金徵收ニ關スル事務ハ法令其ノ他特別ノ規定ニ從フノ外尙本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　區役所ハ受益者負擔金原簿其ノ他必要ナル帳簿ヲ設備シ負擔金徵收ニ關スル要件ヲ登記シ收納ノ基礎ト爲スヘシ

前項ノ要件其ノ他ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ附記シ加除更正スヘシ

第三條　前條ノ受益者負擔金原簿ハ市ヨリ通知シタル負擔金內譯書ヲ以テ之ニ充用スルコトヲ得

第四條　區役所ハ負擔金徵收期日ニ至リタルトキハ受益者負擔金原簿又ハ分納臺帳ニ依リ調定決裁簿ニ其ノ徵收額ヲ登記調定シ納額告知書ヲ調製スヘシ

第五條　納額告知書ニハ其ノ內譯書ヲ添付シ納期一ケ月前ニ發付スヘシ但シ分納ニ係ルモノハ此ノ限リニ在ラス

第六條　區役所ハ受益者負擔金分納ノ申請ヲ爲シタルモノアルトキハ擔保物又ハ保證人ノ適否ヲ調査シ副申書ヲ添ヘ速カニ市長ニ進達スヘシ

第七條　區役所ハ受益者負擔金分納許可ノ指令アリタルトキハ直ニ之ヲ本人ニ交付シ擔保物提供ノ者ニ對シテハ擔保物提供書及擔保物ニ納付書ヲ添ヘ市收入役ニ提出セシメ保證人ヲ附スル者ニ對シテハ保證書ヲ徵シ分納臺帳、擔保物臺帳及收納簿ヲ整理スヘシ

第八條　市收入役ハ負擔義務者ヨリ擔保物提供書及擔保物ヲ提出シタル

トキハ保管證書ヲ交付シ同時ニ區役所ニ通知スヘシ

區役所ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ擔保物臺帳ノ整理ヲ爲スヘシ

第九條　負擔金分納ノ許可ヲ受ケタル者之ヲ完納シタルトキハ請求ニ依リ擔保物保管證書ニ記名捺印セシメ之ト引換ニ保管物ヲ返還スヘシ

第十條　區役所ハ負擔金完納ニ至ラサルモ分納金ヲ納期日内ニ納付シタル者ニ限リ擔保物ヲ時價ニ換算シ既納額ノ範圍内ニ於テ一部ヲ還付スルコトヲ得

前項還付ニ關スル手續ニ付テハ第八條及第九條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　負擔金分納ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ又ハ負擔義務者ノ負擔能力若クハ連帶保證人ノ保證能力欠缺ノ虞アリト認メタルトキハ區役所ハ速カニ其ノ事實ヲ具申スヘシ

一、負擔義務者又ハ連帶保證人破産ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキ但シ法人ナルトキハ解散シタルトキ

二、指定ノ期限迄ニ負擔金及利子ヲ納付セサルトキ

三、擔保物ノ毀滅其他ニ因リ更ニ擔保ヲ供スヘキ場合又ハ增擔保ヲ供スヘキ場合ニ於テ催告スルモ之ヲ提供セサルトキ

第十二條　區役所ハ分納ノ許可ヲ取消サレタル者アルトキハ直ニ指令ヲ本人ニ交付シ未納ノ負擔金ハ一時ニ之ヲ徵收スヘシ

第十三條　區役所ハ負擔金分納ノ許可ヲ受ケタル者負擔金及利子ヲ期限内ニ納付セサルトキハ督促狀ヲ發シ仍納付セサル場合ハ左記各號ニ依リ取扱フヘシ

一、保證人ヲ附シタルモノニ付テハ保證人ニ對シ通知ヲ發シ納付セシムヘシ、但シ指定ノ期限迄ニ納付セサルトキハ先ツ負擔義務者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍不足アルトキハ調書ヲ直ニ市長ニ提出スヘシ

二、擔保物ノ提供アル者ニ付テハ其ノ擔保物ヲ處分シ仍不足アルトキハ一般財産ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第十四條　區役所ハ調定決裁簿及收納簿ニ基キ毎月分ノ徵收狀況ヲ調査シ翌月五日限リ市長ニ報告スヘシ

第十五條　帳簿其ノ他ノ樣式ハ別紙定ムル所ニ據ル

第十六條　受益者負擔金徵收ニ關シ本規程中別ニ定メナキ事項ニ付テハ明治四十五年三月訓示第六號市稅其ノ他諸收入徵收事務取扱規程ヲ準用ス

第一號樣式

負擔金內譯書

負擔者

第一地帶　一間口一間ニ付金　面積一坪ニ付金

第二地帶　面積一坪ニ付金

第三地帶　面積一坪ニ付金

土地												
町名	地番	間數	負擔金	坪數	負擔金	坪數	負擔金	坪數	負擔金	坪數	負擔金	計
		第一地帶		第二地帶		第三地帶						
		間口	面積									
	畝											
	坪											
	坪											
	円											
	坪											
	円											
	坪											
	円											
	円											

第二號樣式

大正　年度

受益者負擔金及利子收納簿

（路線名）　名古屋市何區役所

第二號樣式ノ一

大正　年度受益者負擔金　町

告知書番號	負擔義務者	調定月日 納期限	負擔金	領收月日	事由
			円		

第二號樣式ノ二

大正　年度受益者負擔金　町

告知書番號	負擔義務者	分納期	受益者負擔金額	領收月日	利子金額	領收月日	事由
		第回月日	円		円		

第三號樣式　用紙適宜　紙面　縱六寸　橫九寸

證

大正　年度

一、受益者負擔金納額告知書　壹通

右正ニ領收候也

大正　年　月　日　名古屋市　區　町　番地　戶

氏　名　㊞

第　號	大正　年度	名古屋市　區　町　番地　戶
（經濟別）	受益者負擔金	氏　名　納
受益者負擔金	受益者負擔金	受益者負擔金

納額告

一金　拾萬　千　百　拾　円　拾　錢

第回月日

第回月日

第回月日

第回月日

第回月日

第回月日

知書

但（事業名及節ヲ記入ス）

右大正　年　月　日限名古屋市何區役所市金庫派出所ヘ納付セラルヘシ

大正　年　月　日　名古屋市長　氏　名　㊞

領收證書

第　號　大正　年度

（經濟別）　受益者負擔金　受益者負擔金　受益者負擔金

名古屋市　區　町　番地　戸　氏　名　納

一金　拾萬　千　百　拾　円　拾錢

但（節ヲ記入ス）

右領收候也

大正　年　月　日　名古屋市何區役所市金庫派出所

第四號樣式　用紙適宜　紙面　縦六寸　横九寸

證

大正　年度

一、受益者負擔金分納告知書　壹通

右領收候也

名古屋市　區　町　番地　戸

大正　年　月　日　氏　名　㊞

分納額告知書

（經濟別）　受益者負擔金　受益者負擔金　受益者負擔金

雜收入　雜入　雜入

第　號　大正　年度

名古屋市　區　町　番地　戸　氏　名　納

一金　萬　千　百　拾　円　拾錢

第　分納　回

一金

右大正　年　月　日限名古屋市何區役所市金庫派出所ヘ納付セラルヘシ

大正　年　月　日　名古屋市長　氏　名　㊞

領收證書

第　號　大正　年度

（經濟別）　受益者負擔金　受益者負擔金　受益者負擔金

雜收入　雜入　雜入

名古屋市　區　町　番地　戸　氏　名　納

一金　萬　千　百　拾　円　拾錢

第　分納　回

一金

右領收候也

大正　年　月　日　名古屋市何區役所市金庫派出所

第五號樣式

分納申請書（其ノ一）

一、路線名

二、負擔金額

右受益者負擔金納額告知書第　號御交付相受ケ候處自大正　年　月至大正　年　月日間ニ於テ分納御許可相成度保證人連署此段申請候也

住所

負擔義務者　氏　名　㊞

大正　年　月　日　住所

連帶保證人　氏　名　㊞

住所

名古屋市長殿

第六號樣式

分納申請書（其ノ二）

一、路線名

二、負擔金額

右受益者負擔金納額告知書第　號御交付相受ケ候處左記擔保提供可致候間自大正　年　月　日至大正　年　月　日間ニ於テ分納御許可相成度此段申請候也

名古屋市長殿

連帶保證人　氏　名　㊞

住所

記

種類	記番號	利札ノ有無	額面	枚數	額面總額

大正　年　月　日　名古屋市長殿

第七號樣式

受益者負擔金分納ニ關スル副申書記載事項（其ノ一）

路線名	負擔金額	納額告知書番號	納額告知ノ年月日	負擔義務者
	円			

住所

連帶保證人　職業　氏　名

生年月日

一、土地

所在地	地目	坪數又ハ反別	地價	坪當時價	時價計	摘要

二、建物

所在地	種類構造	棟數	坪數	坪當時價	時價計	摘要

三、法律上能力ノ有無
四、其ノ他保證資格調査上參考トナルヘキ事項

住 所
連帶保證人 職業 氏 名
生 年 月 日

前ニ同シ

一、分納許否ニ對スル意見

第八號樣式

受益者負擔金分納ニ關スル副申書記載事項（其ノ二）

路線名	負擔金額	納額告知書番號	納額告知書ノ年月日	負擔義務者
	円			

一、擔保物

種類	記番號	利札ノ有無	額面	枚數	額面總額

二、許否ニ對スル意見

第九號樣式

指令土第　號　（其ノ一）

住 所
負擔義務者 氏 名
住 所
連帶保證人 氏 名

住 所
連帶保證人 氏 名

大正　年　月　日付納額告知書第　號ニ依ル受益者負擔金何圓ニ對スル分納申請ノ件左記條件ヲ附シ許可ス

大正　年　月　日　名古屋市長 氏 名 印

許可條件

第一條　分納期間ハ自大正　年　月　日至大正　年　月　日迄トス

第二條　分納金額納期及分納ニ對スル利子ハ末記ノ通トス

第三條　大正　年　月　日付納額告知書第　號ハ之ヲ取消ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ又ハ市長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ保證人ヲ變更セシメ又ハ分納ノ許可ヲ取消シ未納ノ負擔金ハ一時ニ之ヲ徵收スルモノトス

一、負擔義務者又ハ連帶保證人破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ（法人ナルトキハ解散シタルトキ）

二、指定ノ納期迄ニ負擔金及利子ヲ納付セサルトキ

第五條　本指令受領後五日以內ニ保證書ヲ提出スヘシ

記

分納期		分納額	利子	納付額	摘要
第回	大正 年 月 日	円	円	円	

第十號樣式

指令土第　號　（其ノ二）

住 所
負擔義務者 氏 名
住 所
連帶保證人 氏 名

大正　年　月　日付納額告知書第　號ニ依ル受益者負擔金何圓ニ對スル分納申請ノ件左記條件ヲ付シ許可ス

大正　年　月　日　名古屋市長 氏 名 印

許可條件

第一條　分納期間ハ自大正　年　月　日至大正　年　月　日迄トス

第二條　分納金額、納期、分納ニ對スル利子並提供スヘキ擔保物及其ノ價格ハ末記ノ通トス

第三條　大正　年　月　日付納額告知書第　號ハ之ヲ取消ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ又ハ市長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ分納ノ許可ヲ取消シ未納ノ負擔金ハ一時ニ之ヲ徵收スルモノトス

一、負擔義務者破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ（法人ナルトキ）

二、指定ノ納期迄ニ負擔金及利子ヲ納附セサルトキ

三、擔保物件ノ毀滅其ノ他ニ依リ更ニ擔保ヲ供スヘキ場合又ハ增擔保ヲ供スヘキ場合ニ於テ催告スルモ之ヲ提供セサルトキ

第五條　本指令受領後五日以內ニ擔保物提供書及擔保物ニ納付書ヲ添ヘ市收入役ニ提出シ保證書ヲ受領スヘシ

記

分納期		分納額	利子	納付額	摘要
第回	大正 年 月 日	円	円	円	

擔保物

種類	記番號	利札ノ有無	額面	枚數	額面計	時價計	摘要
			円	枚	円	円	

第十一號樣式

印紙

保證書

一、線路名
一、負擔金額

住 所
負擔義務者 氏 名

右大正　年　月　日付指令土第　號ヲ以テ分納御許可相受ケ候ニ付テハ指令第五條ニ依リ本書提出仕候尤モ指令第四條ニ依リ分納取消ノ上一時ニ御徵收相成候場合ハ勿論分納ノ場合ニ在テモ負擔義務者カ御指定ノ期限ニ納付セサルトキハ連帶保證人ニ於テ負擔金並利子等直ニ納入可致從テ御市ニ對シ毫モ損害相掛申間敷候後證ノ爲仍而如件

大正　年　月　日

負擔義務者 氏 名
住 所
連帶保證人 氏 名
住 所

擔保物保管書

第十二號雛式

名古屋市長殿

第八類
土
木

㊞印紙

擔保物提供書

住所
氏名 ㊞

連帶保證人
氏名 ㊞

路線名		員擔金額	円	種類	記番號	有利札ノ無ノ	額面 円	枚數 枚	額面計 円
擔保物									

右大正 年 月 日付指令土第 號ヲ以テ分納御許可相受タ候ニ付テハ指令第五條ニ依リ前記ノ通御處分ノ上貸金ハ一時ニ徴收セラルルトキハ其ノ指定納期ニ完納セサルトキハ督促手數料及處分費ニ充當セラルル擔保物ハ取消シ一時ニ徴收セラルルトキハ左記ノ通御處分ノ上貸金ハ直ニ御徴收セラルルトキハ其ノ利子ハ

第十六號樣式

擔保物還付命令	請求書
擔保物保管證書第　號	有價證券 額面 但大正　年　月　日指令土第　號分納ノ處許可ニ對スル擔保物トシテ提供ノ負擔金完納ニ付 上記ノ通還付相成度候也 大正　年　月　日 名古屋市長殿
	大正　年　月　日済納完　月　日出納簿登記
	上記ノ擔保物領收候也 大正　年　月　日 名古屋市收入役殿

助役　收入役　土木部長　會計課經理課　主任

收入役	主任

第十七號樣式

何月分受益者負擔金徴收狀況報告

大正　年　月　日　何　區　長

名古屋市長殿

路線名	調定額	收入濟額 前月分	收入濟額 當月分	收入濟額 累計	收入未濟額	同上ノ内納許可額	滯納額	調定人員	分納許可人員	滯納人員
円	円	円	円	円	円	円	円			

道路工事費受益者負擔規程

大正十四年十二月二十五日告示第百五十九號

第一條　道路ノ新設擴築又ハ鋪裝工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニ對シ其ノ工事費ノ一部ヲ負擔セシムル場合ニ於テハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

前項ニ依リ費用ヲ負擔セシムヘキ工事竝其ノ工事費豫算額ハ市長之ヲ告示ス

第二條　受益者負擔金ハ道路ノ新設及擴築工事ニ在リテハ道路ノ兩側ニ於テ各其ノ境界線ヨリ道路幅員ノ七倍以内鋪裝工事ニ在リテハ各奥行二十間以内ノ地域内ニ於ケル土地ノ所有者ニ之ヲ課ス但シ質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者、工事着手ノ日ヨリ起算シ十年ヨリ長キ期間ノ定メアル地上權、永小作權又ハ賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者、永小作人又ハ賃借人ヲ以テ費用負擔者トス

期間ノ定メナキ地上權又ハ賃借權ニ付テハ其ノ期間ハ借地法ノ規定スル所ニ依ル

同一ノ土地ニ付第一項但書ノ權利二個以上存スルトキハ最後ニ其ノ權利ヲ得タル者ヲ以テ費用負擔者トス

第三條　前條ノ區劃内ノ受益者ノ負擔額ハ左ノ各號ニ依ル

一、道路ノ新設工事ニ在リテハ其ノ工事費ノ十分ノ四、擴築ノ場合ハ工事費ノ十分ノ三トス

二、道路ノ鋪裝工事ニ在リテハ其ノ工事費ノ十分ノ五トス但シ幅員六間以上ノ道路ニ在リテハ其負擔額ハ左ノ制限ヲ超エサルモノトス

歩車道ヲ區別セサルモノニ在リテハ其幅員六間ニ對スル工事費ノ十分ノ五

歩車道ヲ區別シタル道路ニ於テ先ニ歩道ノミヲ鋪裝スル場合ニ於テハ其ノ工事費ノ十分ノ五ヲ負擔セシメ後ニ車道ヲ鋪裝スル場合歩道鋪裝ノ際既ニ負擔シタル金額ヲ控除シ其ノ殘額ヲ負擔セシム

道路擴築ノ場合ニ於テ其ノ擴築スヘキ道路ノ幅員カ舊道路ノ平均幅員ノ三倍以上（三倍ヲ含ム）ナルトキハ第一項第一號ノ適用ニ關シテハ之ヲ道路ノ新設ト看做ス

前項ノ平均幅員ハ第四條第一項第一號ノ區分毎ニ之ヲ計算ス

第四條　道路ノ新設擴築ノ場合ニ於ケル各受益者ノ負擔金額ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

一、各路線ヲ土地ノ狀況ニ依リ適當ニ區分シ其ノ區分ニ依リ第二條ノ區劃ヲ一個又ハ數個ノ負擔區トシ該當區分内ノ工事費ニ付其ノ區ノ負擔額ヲ定ム但シ橋梁費ニ付テハ別ニ負擔區ヲ定ムルコトヲ得

二、前號ノ負擔區ハ利益ヲ受クル厚薄ニヨリ一個又ハ數個ノ地帶トシ各地帶ニ前號ノ負擔額ヲ一定ノ率ニ依リ配分ス

三、各路線ニ接スル地帶内ニアリテハ其ノ地帶ニ配分セラレタル負擔額ノ三分ノ一ヲ土地ノ其ノ路線ニ接スル部分ノ長サニ比例シ其ノ三分ノ二ヲ土地ノ面積ニ比例シ其ノ他ノ地帶内ニ在リテハ其ノ地帶ニ配分セラレタル負擔ヲ土地ノ面積ニ比例シテ各受益者ニ配分ス

四、第一號ノ負擔區ハ第二號ノ地帶及率ハ市長之ヲ告示ス

道路ノ鋪裝ノ場合ニ於ケル各受益者ノ負擔金額ハ前條ノ負擔額ノ半額ヲ土地ノ其ノ道路ニ接スル部分ノ長サニ比例シ他ノ半額ヲ土地ノ面積ニ比例シテ各受益者ニ配分ス

第五條　同一ノ土地ニシテ第二條ノ規定ニ依リ重復シテ工事費ヲ負擔スヘキ關係ニ在ルモノニ付テハ其ノ負擔ノ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第六條　河川、溝渠、並行道路其ノ他土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ市長ハ前四條ノ規定ニ拘ハラス別ニ負擔區劃及負擔金額ヲ定ムルコトアルヘシ

第七條　負擔金ハ工事費豫算額ニ依リ其ノ負擔區ノ工事着手ノ日ニ於ケル土地所有者又ハ權利者ヨリ之ヲ徴收ス

工事費豫算額ト精算額ニ差額ヲ生シタル場合ハ其ノ　算額ニ依リ負擔金追徴シ又ハ還付ス但シ市長ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

負擔金ノ徴收期ハ市長之ヲ定ム但シ相當ノ利子ヲ附シ工事着手後三箇年ヲ超エサル期間ニ於テ分納ヲ許スコトアルヘシ工事着手ノ日ハ市長之ヲ告示ス

第八條　國、府縣、市町村其他ノ公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地ニ付テハ本規程ニ依ル負擔金ヲ課セス

神社、寺院、祠宇、佛堂ノ境内地、教會所、設教所ノ構内地、學校敷地其ノ他公共ノ用ニ供スル土地ノ所有者又ハ權利者ニ對シテハ本規程ニ依ル費用ノ負擔ヲ減免スルコトアルヘシ但シ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルモノハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ニ依リ負擔金ヲ減免シ若クハ課セサルコトアルモ他ノ受益者ニ對スル負擔額ハ之ヲ增加セス

第九條　本規程ニ依ル道路工事ノ費用ヲ補足スル爲メ土地物件又ハ金錢ヲ寄附シタル者ニ對シテハ其ノ寄附額ノ範圍内ニ於テ本規程ニ依ル負擔ヲ減免スルコトアルヘシ

市長カ適當ト認メタル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタルモノニ付亦同シ

前項ノ土地物件ニ對スル評價ハ市長ノ認定スル所ニ依ル

第十條　都市計畫事業トシテ執行スル道路ノ新設擴築又ハ鋪裝ニ要スル費用ヲ受益者ニ負擔セシムル場合ニハ本規程ヲ適用セス

第十一條　本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規程施行ノ際執行中ニ係ル工事ニ付テハ本規程施行ノ日ヲ以テ其工事着手ノ日ト看做ス

道路工事費受益者負擔規程施行細則

大正十五年四月二十六日
告示第五十二號

第一條　本則ニ於テ規程ト稱スルハ道路工事費受益者負擔規程ヲ謂フ

第二條　規程第二條ノ區劃内ニ在ル土地ノ位置面積及形狀ハ公簿及公簿附屬圖ニ依ル

第三條　規程第二條第一項但書ニ該當スル土地ニ付テハ其ノ契約面積ニ依ル但シ未登記ニ屬スルモノナルトキハ所有者及權利者連署申告ニ依リ之ヲ定ム

第四條　前二條ノ土地ニシテ負擔區及地帶ノ境界線ニ跨リタル土地竝工事路線ニ接スル間口間數ハ實測シテ之ヲ定ム

第五條　工事費トハ土地代、物件移轉料築造費及之ニ伴フ諸係費ヲ謂フ

第六條　同一ノ土地ニシテ重復負擔ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ輕キ負擔ヲ免除ス但シ道路新設又ハ擴築ト鋪裝トノ重復負擔ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　土地ノ形狀著シク不整ニシテ宅地トシテ利用シ難シト認メラルヽモノニ付テハ其ノ利用シ難シト認メタル部分ニ付負擔ノ一部ヲ減免スルコトアルヘシ

第八條　公認ノ神社、寺院、祠宇、佛堂ノ境内地、教會所、說教所ノ構内地、學校敷地其ノ他公共ノ用ニ供スル土地ニ對シ減免スル場合ハ中請ニ依リ實地調査ノ上詮議スルモノトス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　規程第二條ノ區劃内ニ河川、運河、溝渠、鐵道等土地ノ利用ヲ區分スヘキ地物アルトキハ之ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス

第十條　効用同等以上ト認メラルヘキ並行道路トノ間隔カ斯設又ハ擴築道路ニ在リテハ其ノ道路幅員ノ十四倍道路ノ鋪裝ノ場合ニ在リテハ四十間ニ滿タサルトキハ其ノ中央線ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス

前條ノ規程ニ依リ負擔區劃ヲ定ムヘキ場合ニ在リテハ其ノ負擔區劃内ニ限リ前項ノ規定ヲ適用ス

第十一條　街角ヲ剪除シタル部分ニ在リテハ其ノ剪除セサル部分ノ道路境界線ヲ延長シタル線ヲ以テ道路境界線ト看做ス但シ前二條ニ依リ負

擔區劃ヲ定ムヘキモノハ此ノ限リニ在ラス

第十二條　前三條ノ場合ニ於ケル一坪當負擔金ハ規程第二條乃至第四條ニ依ル一坪當負擔金ト同額トス

第十三條　負擔義務者ヨリ分納ヲ申請シタルトキハ特別ノ事情アリト認ムルモノニ限リ左ノ條件ヲ附シ許可スルコトアルヘシ

一、年七朱五厘ノ割ヲ以テ利子ヲ附スルコト

二、本市ニ住所ヲ有スル能力者ニシテ市内ニ土地又ハ家屋ヲ有シ市長ニ於テ適當ト認ムル連帶保證人二名以上ヲ附スルコト

前項保證人ニ代フルニ國庫證券、地方債證券、勸業銀行債券、興業銀行債券、農工銀行債券ヲ以テ擔保ト爲スコトヲ得其ノ價格ハ許可ノ際之ヲ指定ス

第十四條　負擔金ノ分納ヲ許ス場合ニ於テハ毎年二、五、八、十一月ノ四回ヲ分チ各月末日之ヲ徵收ス但シ初回若クハ終回ニ限リ隨時之ヲ徵收スルコトヲ得

運河監視服務心得

大正十四年十二月
達第六十九號

改正　昭和十年五月三十一日
達第十五號

第一條　新堀川運河監視（以下監視ト稱ス）本心得ニ依リ服務スヘシ

第二條　監視ハ土木部庶務課ニ屬シ上司ノ指揮監督ヲ承ケ運河用地及公共物揚場ノ監視ニ從事ス

第三條　監視ハ服務ニ際シテハ必ス手帳ヲ携帶シ且ツ制服制帽ヲ着用シ容儀ヲ亂スヘカラス

第四條　監視服務ニ際シテハ懇切丁寧ヲ旨トシ苟モ粗暴慢ノ言行アルヘカラス

第五條　監視ハ毎日其巡視スヘキ方面及發着時刻ヲ出張命令簿ニ記載シ決裁ヲ受ケ服務スヘシ

第六條　監視ノ巡視スヘキ事項概系左ノ如シ

一、許可ヲ受ケスシテ運河用地ヲ使用スルモノ

二、許可ヲ受ケタル使用區域外ニ亘リ運河用地ヲ使用スルモノ

三、許可ヲ受ケスシテ運河用地ニ工作物ヲ設置スルモノ

四、運河用地ニ於テ木撓其他運河埋廢ノ虞アル行爲ヲ爲スモノ

五、恣ニ占用目的ヲ變更スルモノ

六、公共物揚場ノ使用亂雜ニ亘リ又ハ長時間ニ亘リ獨占スルモノ

七、其他本市運河用地使用條例及本市ノ許可條件又ハ本縣堀川河岸地共同物揚場及河岸地取締規則ニ違背スルモノ

第七條　監視前條ニ該當スルモノヲ發見シタルトキハ直ニ關係人ニ交渉シ又ハ警察官署ニ通知シ適宜ノ措置ヲ求ムヘシ

第八條　前條ノ場合ニ於テ關係人其ノ交渉ニ應セス又ハ制止ヲ肯セサルトキハ速ニ土木部庶務課ニ報告シ又ハ臨機警察官吏ノ處分ヲ求ムヘシ

第九條　監視ハ公共物揚場ノ標杭明瞭ヲ缺キ又ハ紛失シ若クハ物揚場ノ掃除不十分ナルモノヲ發見シタルトキハ直ニ土木管區事務所ニ通報シ適宜ノ措置ヲ求ムヘシ

第十條　監視ハ日々ノ監視始終時刻及其ノ區域竝違反ノ有無、違反事項處理ノ顚末其他必要ナル事項ヲ日誌ニ記載シ翌日土木部庶務課長ノ閲

覽ヲ經ヘシ

第十一條　前各條ニ定ムルモノヽ外監視ノ服務時間及休暇其他ニ關シテハ土木管區事務所處務規程ヲ準用ス

土本部常設測量工夫規程

大正十一年九月二十三日
決裁

第一條　常設測量工夫ハ左ノ資格ヲ具備スル者ヨリ之ヲ採用ス

一、土木ニ關スル測量及工事施行ノ技倆經驗ヲ有シ當部勤務ノ技術者ニ於テ技倆經驗ノ證明ヲ爲シタル者

一、身體健全ナル者

一、品行方正ナル者

一、年齢滿十七歳以上五十歳以下ノ者

第二條　常設測量工夫ニ採用セラレタル者ハ別紙樣式ニ依リ誓約書ヲ提出スヘシ

第三條　身元保證人ハ本市內ニ現住シ一戶ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム成年ノ男子タルコトヲ要ス

第四條　身元保證人前條ノ資格ヲ失ヒタルトキ又ハ土木部長ニ於テ不適當ト認メタルトキハ身元保證人ノ更改ヲ命スルコトアルヘシ

身元保證人本市內ニ於テ轉居シタルトキハ直ニ屆出ツヘシ

第五條　常設測量工夫ノ執行時間ハ左ノ通トス

自四月一日　至九月十日　午前七時ヨリ午後六時迄

自九月十一日　至三月三十一日　午前八時ヨリ午後五時迄

但シ工事其他ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ土木部長ハ前項ノ時間ニ拘ラス執務ヲ命スルコトヲ得

第六條　常設測量工夫ハ所屬係員ノ指揮監督ヲ受ケ各其ノ業務ニ從事スヘシ

第七條　出勤シタルトキハ自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ

第八條　常設測量工夫ハ執務時間中所屬係主任ノ許可ナクシテ其ノ場所ヲ離ルヽコトヲ得ス若シ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ其ノ事由ヲ係主任ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第九條　疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ出勤シ難キトキハ當日午前中ニ屆出ツヘシ

疾病ノ爲引續キ缺勤七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ屆出ツヘシ

第十條　常設測量工夫ハ就業中器具、機械其ノ他物品ニ異狀アルコトヲ發見シ又ハ亡失毀損セシメタルトキハ直ニ係員ニ申告シ指揮ヲ承ケ相當ノ手續ヲ爲スヘシ但シ亡失毀損ノ原因カ故意怠慢ニ出ルト認ムルトキハ其ノ損害ヲ辨償セシムヘシ

第十一條　常設測量工夫ニ被服ヲ給與ス

品目員數及保存期限ハ左ノ通トス但シ支給上ノ都合ニ依リ保存期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

給與品目	給與員數	保存期限
袷袢纏	壹枚	着用月數八ケ年
單袢纏	壹枚	着用月數四ケ年
雨合羽	壹個	壹ケ年
帽子（日覆付）	壹個	壹ケ年

第十二條　常設測量工夫ノ給料ハ日給トシ總テ勤務日數ニ依リ支給ス但シ缺勤中ニアル休暇日數ハ勤務日數ニ加算セス

第十三條　日給ハ前月二十一日ヨリ（毎年四月ニ限リ四月一日ヨリ新規採用ノ者ハ發令ノ日ヨリ）其ノ月二十日迄ノ給料ヲ毎月二十六日以降之ヲ支給シ毎年三月二十一日ヨリ末日迄ノ給料ハ四月ニ於テ支給ス

第十四條　事務ノ都合ニ依リ休暇日ニ出勤ヲ命セラレタル者出勤セサルトキハ其ノ日ノ給料ヲ支給セス

第十五條　疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ遲參又ハ早退シタルトキハ一時間毎ニ其ノ當時ノ勤務時間數ヲ以テ日給額ヲ除シタル金額ヲ減ス但シ一時間未滿ノ端數ニ對シテハ一時間ト看做ス

第十六條　第五條第二項ノ規定ニ依リ執務ヲ命セラレタル者ニ對シテハ始業時間前二時間以內ノ早出及終業時間後午後十時迄ハ一時間毎ニ其ノ當時ノ勤務時間數ヲ以テ日給額ヲ除シタル金額ヲ支給ス但シ始業時間二時間以上ノ早出及午後十時以後ニ於テ臨時執務ヲ命セラレタル者ニ對シテハ第十七條ノ規定ヲ準用ス

第十七條　午後十時ヨリ翌日始業時間迄ハ一時間毎ニ其ノ當時ノ勤務時間數ヲ以テ日給額ヲ除シ一倍半シタル金額ヲ支給ス

第十八條　第十六條第十七條ノ時間ヲ通算スル場合ニ於テハ各其ノ支給率ニ依リ算出スルモノトス

第十九條　勤務時間數ノ最後ニ生スル一時間未滿ノ端數ニ對シテハ支給セス但シ執務ノ始終時間カ一時間未滿ナルトキハ此限ニ在ラス

第二十條　第十六條第十七條ノ規定ニ依ル給與ヲ受クル者ニ對シテハ市吏員以下賄料支給規程ニ依ル賄料ハ支給セサルモノトス

第二十一條　本規程ハ大正十一年十月十二日ヨリ施行ス

誓約書

原籍
現住　戶主又ハ續柄

氏　　年　月　日生

名

右者今般御市土木部常設測量工夫ニ御採用相成候ニ付テハ左記各項遵守可仕ハ勿論在職中本人身上ニ關スル一切ノ行爲ハ保證人ニ於テ其責ニ任シ御迷惑相懸ケ申間敷依テ以連署本書差出候也

一、常設測量工夫規程其他ノ御命令事項ハ堅ク服膺シ勤務スヘキコト

一、一ヶ年以內ニ於テ自己ノ便宜ニ依リ解傭ヲ願出サルハ勿論部ノ御都合上御解傭相成候場合ハ何等ノ異議申出サルコト

右

年　月　日　氏　名　㊞

名古屋市土木部御中

住所
保證人　氏　名　㊞

常設工夫時間外勤務手當支給方ニ關スル件

大正十年五月二十日決裁

常設工夫ノ勤務工事ノ都合ニ依リ時間外ニ渉リタルトキハ一時間毎ニ日給二割ノ手當ヲ給ス但シ一時間未滿ニハ支給セス

都市計畫法施行令第十一條ノ規定ニ依ル手續ノ件

昭和五年一月十日告示第五號

昭和四年七月一日内閣ノ認可ニ依ル名古屋市都市計畫事業街路新設擴築敷地ノ境域内ニ於テ工作物ヲ新築改築增築若ハ除去シ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ地方長官ノ指定シタル竹木土石ノ類ヲ採取セムトスル場合ニ於テ地方長官ニ提出スヘキ願書ハ別紙樣式ニ依リ當廳ヲ經由スヘシ

（別紙）

都市計畫法施行令第十一條ノ規定ニ依ル何々

（例之商店新築）　許可願

一、位　置（例之建築ニ於テハ建築スル場所）　名古屋市　區　町　番地

一、路線名　名古屋郡市計畫街路　等大路第　類第　號線

右表示ノ箇所ニ何々（例之商店新築）致度候ニ付御許可相成度別紙關係書類相添此段及御願候也

追テ御許可ニ際シ都市計畫法施行令第十二條ニ依ル條件ヲ附セラレ候場合ハ其ノ條々ハ固ク遵守可仕誓約候也

昭和　年　月　日

住所　名古屋市　區　町　番地
出願者　何　某　印
住所　名古屋市　區　町　番地
土地所有者　何　某　印

愛知縣知事　殿

添付圖書

摘　要　書

一、出願事項　何々（例之商店新築）
一、地　域　何々（例之商業地域）
一、位　置　名古屋市　區　町　番地
一、敷地面積　何　坪　都市計畫路線内ノ坪數何坪　都市計畫路線外ノ坪數何坪
一、建築面積　何　坪　都市計畫路線内ノ坪數何坪　都市計畫路線外ノ坪數何坪
一、構　造　種　別（例之日本式木造）
階　數（例之二階建）
基　礎（例之コンクリート）
壁　体（例之眞壁）
屋　根（例之瓦葺）
一、附屬設備　井　戸（有　無）
下　水（例之土管ヲ用フ）
門（例之石柱）
塀（例之板塀）
物置（坪數及構造ノ大要）

圖　面

當該都市計畫事業路線ヲ表示セル左ノ圖面ヲ添付スルコト

一、附近案内圖
二、工作物ノ敷地及其ノ配置圖　百分ノ一二百分ノ一又ハ三百分ノ一

備　考

土地ノ形質變更ニ付テハ本例ニ準スルコト

中川運河使用條例

昭和五年十月二十五日條例第十二號

第一條　中川運河及其ノ附屬設備ノ使用ニ關シテハ本條例ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本條例ニ於テ運河ト稱スルハ水路、護岸、閘門及其ノ附屬施設物ヲ謂フ

第三條　本條例ニ於テ附屬設備ト稱スルハ運河區域内ニ於ケル物揚場、倉庫敷地、上屋敷地、上屋、道路、起重機及曳船ヲ謂フ

第四條　運河及其ノ附屬設備ヲ使用セムトスル者ハ市長ノ許可ヲ受ケ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル使用料ヲ納付スヘシ

一、閘門通航料
船舶一入河ニ付噸數ニ依ルモノハ一噸迄毎ニ金五錢以内、石數ニ依ルモノハ十石毎ニ金八錢以内、間數ニ依ルモノハ一間ニ付金八錢以内
二、物揚場使用料
一坪迄毎ニ一箇月ニ付市長ノ認定スル其ノ土地ノ時價ノ千分ノ五以内
三、倉庫敷地及上屋敷地使用料
一坪迄毎ニ一箇月ニ付市長ノ認定スル其ノ土地ノ時價ノ千分ノ五以内
四、上屋使用料
一坪迄毎ニ二日迄ハ一日ニ付金十錢以内、二日ヲ超ユルトキハ超過日數一日ニ付金十五錢以内
五、道路使用料
道路占用規程ニ定ムル占用料ニ相當スル金額
六、起重機使用料
イ、浮艇式起重機　一臺一時間迄毎ニ金十圓以内但シ別ニ移動費トシテ距離ニ應シ金七圓以内ヲ徴收スルコトヲ得
ロ、陸上式起重機　一臺一時間迄毎ニ金三圓以内

七、曳船使用料

區間ヲ設ケ船舶一隻毎ニ全區間ヲ通シテ金四圓以内但シ所定時間外ハ各料金ノ五割以内ヲ增加ス荒天時ニ於ケル料金亦同シ

八、水面使用料

入河後五日ヲ超ユルトキハ超過日數一日毎ニ船舶一隻ニ付金五十錢以内

公用又ハ公共用ノ爲使用スル場合若ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ニ於テハ市長ハ前項ノ使用料ヲ減免スルコトヲ得但シ國ニ於テ運河及其ノ附屬設備ヲ使用スル場合ハ通航料及使用料ハ之ヲ徵收セス

第五條　倉庫敷地、上屋敷地及物揚場ノ使用ニ付競願者アルトキハ市長ハ適當ト認ムル方法ニ依リ使用者ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル使用料ニ付テハ前條第一項第二號及第三號ニ規定スル範圍ヲ超ユルコトヲ妨ケス

第六條　既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルヘシ

一、不可抗力ニ依リ使用シ能ハサルトキ

二、第八條第一項ニ依リ使用場所ヲ變更シ使用ヲ停止シ又ハ使用ノ許可ヲ取消シタルトキ

第七條　倉庫敷地、上屋敷地及物揚場ノ使用許可期間ハ三十年以内トス但シ市長ハ三十年ヲ超エサル期間ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

使用料ハ使用期間中ト雖三年ヲ經ル毎ニ市長ニ於テ之ヲ變更スルコトアルヘシ

上屋使用ノ許可期間ハ五日ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條　公益又ハ危險豫防上其ノ他市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ使用ヲ停止シ、使用許可ヲ取消シ又ハ使用場所ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

本條例又ハ之ニ基ク規定竝使用許可ノ條件ニ違反シタルトキハ前項ノ規定ニ從フ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル貨物ニ付テハ市長ハ之カ搬出ヲ命スルコトアルヘシ

一、運河區域内ニ放置シアルモノ

二、使用期間ノ滿了シタルモノ又ハ前條ニ依リ處分ヲ受ケタルモノニシテ尙藏置スルモノ若ハ許可ヲ受ケスシテ上屋ニ藏置シアルモノ

三、公用ニ妨害アリト認ムルモノ

四、公益上其他市長ニ於テ必要アリト認ムルモノ

第十條　運河通航ヲ妨害シ又ハ運河若ハ其ノ附屬設備ヲ毀損スル虞アル破損船、沈沒船、流失物其ノ他之ニ類スル物ハ所有者又ハ占用者ニ於テ直ニ除去スヘシ

第十一條　本條例之ニ基ク規定竝使用許可ノ條件ニ依ル處分又ハ運河若ハ其ノ附屬設備ノ使用ニ依リ使用者ニ於テ損害ヲ受ケ又ハ他ニ損害ヲ及ホスコトアルモ本市ハ賠償ノ責ニ任セス

第十二條　運河又ハ其ノ附屬設備ヲ毀損シ若ハ滅失セシメタルモノハ市長ノ命スル所ニ從ヒ之カ修補ヲ爲シ又ハ損害ヲ賠償スヘシ

第十三條　使用者ニシテ本條例若ハ之ニ基ク規定又ハ使用許可ノ條件ニ依ル義務ヲ履行セサルトキハ市長ニ於テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ要スル費用ハ使用者ヲシテ之ヲ償セシム

第十四條　運河又ハ其ノ附屬設備ニ接續シ若ハ之ヲ横斷シテ工作物ヲ造設セムトスルトキハ市長ノ許可又ハ承認ヲ受クヘシ使用者使用ノ場所ニ特殊ノ設備又ハ加工ヲ爲サムトスルトキ若ハ使用ノ目的ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十五條　使用者ハ其ノ使用ノ場所又ハ物件ヲ使用セシムルコトヲ得ス使用者ハ其ノ權利ヲ讓渡セムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條　市長ハ運河及其ノ附屬設備ノ使用ニ關シ船舶ノ種類、數量、大サヲ制限シ又ハ一定ノ行爲ヲ制限若ハ禁止スルコトヲ得

第十七條　本條例若ハ之ニ基ク規定ニ違反シタル者ニ對シテハ市長ハ五圓以下ノ過料ヲ科シ及損害賠償ヲ請求スルコトアルヘシ

第十八條　本條例ニ定ムルモノノ外運河及其ノ附屬設備ノ管理竝本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條第一項第一號ノ閘門通航料ハ市長ノ意見ニ依リ當分ノ内免除スルコトヲ得

中川運河使用條例中閘門通航料曳船使用料水面使用料ニ關スル件

昭和六年十二月二十三日
告示第三百八十三號

中川運河使用條例第四條第一項第一號閘門通航料第七號曳船使用料及第八號ノ水面使用料左記ノ通定メ昭和六年十二月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

記

一、閘門通航料　一入河ニ付一噸迄毎ニ五錢

一、曳船使用料

區別	區域	荷船一隻ニ對スル一回ノ使用料	空船一隻ニ對スル一回ノ使用料
第一區	中川橋昭和橋間	一四〇錢	七〇錢
第二區	昭和橋長良橋間	一二〇	六〇
第三區	長良橋長良川橋間	一〇〇	五〇
	又ハ堀止船溜堀川間		

但シ所定使用時間外及荒天時ハ五割增

一、水面使用料　入河後五日ヲ超ユルトキハ超過日數一日毎ニ船舶一隻ニ付五十錢

中川運河使用條例施行細則

昭和五年十月二十五日
告示第三百四十一號

改正　昭和五年十二月二十六日告示第三百七十六條　昭和六年五月一日告示第九十三號　昭和六年八月一日告示第百六十九條　昭和七年五月二十七日告示第二百九十九號

第一章　總　則

第一條　本細則ニ於テ條例ト稱スルハ中川運河使用條例ヲ謂フ

第二條　左ノ附屬設備ヲ使用セントスルモノハ使用ノ目的、期間、位置面積ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ保證人連署ヲ以テ願出テ市長ノ許可ヲ受クヘシ但シ市長ノ指示スル所ニ從ヒ保證金ヲ提供シテ保證人ニ代フルコトヲ得

一、專用物揚場、倉庫敷地、上屋敷地、道路

二、上屋、起重機、曳船

前項ノ場合一時的ノ使用ニ付テハ便宜ノ方法ニ依ルコトアルヘシ

第一項但書ニ依ル保證金ハ國債證券地方債證券勸業債證券興業債券若ハ農工債券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得其ノ價格ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第三條　前條ノ使用者其ニ繼續使用セムトスルトキハ前條第一號ノ附屬設備ニ付テハ期間滿了一箇月前迄ニ第二號ノ附屬設備ニ付テハ期間滿了一時間前迄ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第四條　第二條第二號ノ附屬設備使用ニ關シ使用出願者多數ナルトキハ市長ノ指定スル順位ニ依ルモノトス

第五條　使用者ハ第二條第一號ノ附屬設備ノ使用停止、使用許可ノ取消又ハ使用場所ノ變更若ハ使用期間滿了ノ際ハ速ニ使用場所ヲ原狀ニ回復シ清掃ノ上其ノ旨屆出テ檢査ヲ受クヘシ

第六條　使用者第二條第一號ノ附屬設備ニ工作物ノ新築、改築又ハ增築ヲ爲サムトスル時ハ工事仕樣明細書ニ圖面ヲ添附シ保證人連署ノ上願出テ市長ノ許可ヲ受クヘシ護岸又ハ地盤ニ工事ヲ施サムトスル時亦同シ

前項ノ工事竣成シタルトキハ之ヲ屆出テ檢査ヲ受ケヘシ

第一項ノ工事ニ付テハ第二條ノ願書ニ併記シテ出願スルコトヲ得

第七條　使用者第二條第一號ノ附屬設備ニ付使用期間ノ中途ニ於テ之ヲ返還シ又ハ使用ノ目的ノ變更セムトスルトキハ市長ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ但シ目的變更ノ場合ニ於テハ保證人連署ヲ以テ願出ツルコトヲ要ス

第八條　使用者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ保證人連署ノ上十日以内ニ之ヲ屆出ツヘシ

一、家督又ハ遺産相續ヲ爲シタルトキ

二、氏名又ハ名稱ノ變更ヲ爲シタルトキ

三、轉居又ハ營業所ノ位置變更ヲ爲シタルトキ

第九條　使用者本市ニ住居ヲ有セサルトキハ其ノ使用ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理スヘキ代理人ヲ定メ市長ニ屆出ツヘシ

代理人ハ本市ニ住居ヲ有スル能力者タルコトヲ要ス

第十條　保證人ハ本市ニ住居ヲ有スル能力者ニシテ土地又ハ家屋ヲ有シ市長ニ於テ適當ト認メタル者ニ限ル保證人ハ使用者ノ義務不履行ノ際合ニ於テ之ニ代リ其ノ義務履行ノ責ニ任スヘキモノトス

第十一條　保證人ヲ變更セムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ保證人ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十三條　保證人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用者ハ更ニ保證人ヲ選定シ其ノ事實ノ生シタル日ヨリ二十日以内ニ市長ノ許可ヲ受クヘシ

一、第十條第一項ノ要件ヲ缺キタルトキ

二、失踪ノ宣告アリタルトキ

三、死亡シタルトキ

第十三條ノ二　第二條第一項但書ニ依リ提供シタル保證金ハ使用者カ條例又ハ條例ニ基ク規定ニ違反シテ納付セサル金額ニ之ヲ充當ス

第二條第三項ニ依リ有價證券ヲ以テ保證金ニ代用シタル場合ニ於テ前項ノ必要ヲ生シタルトキハ市長ハ任意ニ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ所要金額ニ充當ス

前二項ノ場合ニ於テ所要金額ニ仍不足アルトキハ之ヲ追徵シ保證金ハ之ヲ塡補セシム

第十四條　保用料ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ計算ニ依ル

一、使用期間年ヲ以テ定メタルモノハ會計年度ニ依リ年額ヲ定ム但シ年額ニ依リ難キモノハ月割トス

二、使用期間月ヲ以テ定メタルモノハ暦月ニ依ル但シ始月及終月ニ於テ十五日以内ナルトキハ半月分十五日ヲ超ユルトキハ一月分トス

第十五條　使用料徵收期ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ通トス

一、年ヲ以テ定メタルモノハ會計年度ニ依リ一年度ヲ自四月至九月及自十月至三月ノ二期ニ分チ其ノ第一期分ヲ四月中第二期分ヲ十月中ニ徵收ス

但シ五月以後新ニ許可シタルトキハ當初ノ一期分ニ限リ許可ノ日ヨリ十日以内ニ徵收ス

二、月ヲ以テ定メタルモノハ其ノ許可ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徵收ス

三、日ヲ以テ定メタルモノハ其ノ許可ノ日ニ全額ヲ徵收ス

第十六條　公益又ハ危險豫防上其ノ他公共ノ用ニ供スル必要ニ依リ使用ヲ停止シ又ハ使用許可ヲ取消シタル場合ハ其ノ原狀回復ノ屆出アリタル日ヨリ月又ハ日割ヲ以テ使用料ヲ免除ス

前項ノ場合既納使用料ハ其ノ還付ヲ受ケル者ヨリ之ヲ請求スヘシ

第十七條　使用者及其ノ從業員中運河用地内ニ於テ傳染病患者發生シタルトキ又ハ火藥類若ハ危險物品ヲ運搬セムトスルトキハ其ノ旨速ニ市長ニ屆出ツヘシ

第十八條　使用者及其ノ使用人ハ本細則ニ定ムルモノノ外必要ニ應シ市長ノ定ムル事項並當該係員ノ指示ニ從フヘシ

第二章　運河及閘門

第十九條　本章ニ於テ運河トハ水路及護岸並其ノ附屬施設物ヲ謂フ

第二十條　運河ヲ左ノ通區分ス

一、中川口船溜　（中川口以北中川口閘門迄）

二、南　幹　線　（中川口閘門以北東海橋迄）

三、中　幹　線　（東海橋以北長良橋迄）

四、北幹線（長瓦橋以北小栗橋迄）
五、北支線（小栗橋以北堀止船溜口迄）
六、東支線（北支線ヨリ分岐シ松重閘門迄）
七、堀止線（溜北支線北端以北）
八、松重船溜（松重閘門以東堀川迄）

第二十一條　運河ノ航路ヲ左ノ通區分ス

一、中川口船溜、南幹線及北幹線ハ其ノ兩側ニ沿フ各幅二十三米ノ水面ヲ除キタル水面
二、中幹線ハ其ノ兩側ニ沿フ各幅十四米ノ水面ヲ除キタル水面
三、北支線、東支線及松重船溜ハ其ノ兩側ニ沿フ各幅六米ノ水面ヲ除キタル水面
四、堀止船溜ハ其ノ周圍（北支線口ヲ除ク）ニ沿フ各幅二十三米ノ水面ヲ除キタル水面

第二十二條　運河ニ於ル船舶ノ航行ハ閘門入航ノ順序ニ依ルヘシ但シ危險ノ虞ナク且他ノ船舶ノ通航ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　危險豫防其ノ他必要アリト認ムルトキハ係員ナシテ船舶ノ通航ヲ一時停止セシメ又ハ通航ノ順序ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十四條　陸揚又ハ船積ヲ了シタル船舶ニシテ荷役後尚繫留セムトスルモノハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十五條　中川口船溜及松重船溜ヲ除ク運河内ニ閘門通航後五日ヲ超エテ滯留スル船舶ニ付テハ別ニ定ムル水面使用料ヲ納付セシム但シ强風雨等ニ依リ避難ノ場合又ハ作業不能ノ場合等ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ規定スル作業不能ノ場合ニ於テハ其ノ旨事由ヲ具シ市長ニ

屬出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

第二十六條　專用物揚場使用者ニ對シテハ其ノ地先水面ニ限リ無償ニテ一定ノ區域ノ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十七條　惡臭物運輸船ハ常ニ之ヲ清潔ニシ惡臭物ヲ滲漏散逸セシムヘカラス

第二十八條　運河ニ於テ物品ヲ販賣セムトスル者ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十九條　運河ニ於テ船舶ノ修繕ヲ爲スヘカラス但シ市長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　運河ニ繫留杭又ハ張出物其ノ他ノ工作物ヲ設置スヘカラス但シ市長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　石灰其ノ他危害ヲ生スル物品ヲ積載シタル船舶ハ赤色ノ標識ヲ揚クヘシ

第三十二條　運河及閘門ニ於テハ左ノ事項ヲ禁止ス但シ市長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一、測量標、量水標、橋脚、防衝材等ニ船舶ヲ繫留若ハ接觸スルコト
二、水路ニ貯木ヲ爲スコト
三、桴筏ヲ航行セシムルコト
四、掛帆ノ儘航行スルコト
五、石油類、秡藁、茅葭、粗朶等燃燒シ易キ物品ヲ積載シタル船舶ハ裸火ヲ使用シ又ハ濫リニ焚火ヲ爲スコト
六、土砂、塵芥、灰燼、木片、木皮、汚物等ヲ投棄放流スルコト
七、釣漁ヲ爲スコト
八、遊船ノ徘徊短艇ノ競漕又ハ游泳ヲ爲スコト
九、閘門及護岸其ノ他ノ施設物ヲ毀損スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ器具ヲ使用スルコト
十、航路ニ停留シ又ハ通航ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲スコト
十一、閘門ヲ通航セムトスル船舶ノ外中川口船溜及松重船溜ニ於テ停船スルコト
十二、護岸其ノ他物揚場以外ノ場所ニ於テ荷役ヲ爲スコト
十三、其ノ他管理上必要アリト認メ停止シタル事項

第三十三條　閘門通航ノ時間、船舶ノ長、幅及吃水ニ關スル制限ハ之ヲ告示ス

第三十四條　暴風雨、出水、大潮等其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ前條ニ依ル告示ノ時間ニ拘ハラス何時ニテモ船舶ヲ通航セシメ又ハ其ノ通航ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十五條　閘門ヲ通航セムトスル者ハ係員ノ指示スル場所ニ船舶ヲ停メ其ノ出入ニ付係員ノ指示ニ從ヒ到著ノ順序ニ依リ船舶ヲ徐航セシムヘシ但シ係員ニ於テ必要ト認ムルトキハ通航順序ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第三十六條　閘門ヲ通航セムトスル者ハ係員ノ要求アリタルトキハ船舶ノ乘組員、所有者ノ住所氏名、發著地其ノ他ノ事項ヲ告ケ船鑑札又ハ船舶國籍證書ヲ提示スヘシ

第三十七條　閘門ヲ通航セムトスル者ハ入河前一入河毎ニ別ニ定ムル通航料ヲ前納スヘシ但シ頻繁ニ入河スル船舶ニ付テハ其ノ所有者又ハ使用者ヨリ後納ヲ願出テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ當日ノ集計額ニ依リ納付スルコトヲ得

第三十八條　通航料ヲ納付スル場合ニハ船鑑札又ハ船舶國籍證書ヲ提示スヘシ但シ後納ヲ許可シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ船鑑札又ハ船舶國籍證書ヲ提示セサル爲メ噸數ヲ確認シ難キ船舶ニ對シテハ市長ノ見込噸數ニ依リ通航料ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テ後日噸數ノ判明スルニ至リタルトキハ不足額ハ之ヲ追徵シ過納額ハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第三十九條　後納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ豫メ船鑑札又ハ船舶國籍證書ノ謄本ヲ添附シ願出ツヘシ

第四十條　船舶ニシテ左記第一號ニ該當シ當該官公署ノ屬出ニ依ルモノ第二號ニ該當シ當該工場主ノ屬出ニ依ルモノ又ハ第三號ニ該當スルモノハ通航料ヲ免除ス

一、公用又ハ公共用トシテ使用中ニ係ルモノ
二、船體修理試運轉又ハ解船ノ爲入河スルモノ
三、强風雨等ノ爲流流ニ堪ヘスシテ入河スルモノ

第三章　物揚場

第四十一條　物揚場ヲ分チテ共同物揚場專用物揚場トス

第四十二條　共同物揚場ヲ左ノ二種ニ分ツ

甲種　堀止船溜北岸上屋敷地ニ接續スル共同物揚場
乙種　甲種以外ノ共同物揚場

甲種共同物揚場ハ鐵道運輸ニ依ル陸揚又ハ船積ニ供用シ乙種共同物揚場ハ其ノ他ノ一般陸揚又ハ船積ニ供用スルモノトス但シ必要アル場合ハ市ニ於テ之ヲ專用スルコトアルヘシ

第四十三條　火藥類爆發質物品其ノ他容易ニ燃燒スヘキ物件又ハ不潔物ト認ムルモノハ指定區域ニ於テ揚卸スヘシ其ノ區域ハ標柱ヲ以テ之ヲ表示ス

第四十四條　使用者ハ陸揚又ハ船積ニ際シ衞生上有害ナル物品又ハ石炭土砂、荷足等ヲ水中ニ脫落セサル樣相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第四十五條　使用者重量大ナル物品ヲ揚卸セムトスルトキハ施設物ヲ毀損セサル樣築メ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第四十六條　前二條ノ場合ニ於テ設備不當ト認ムルトキハ必要ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第四十七條　物揚場ニ於テ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第四十八條　共同物揚場ハ使用者互ニ便宜ヲ與ヘ他人ノ作業ヲ妨害スヘカラス

第四十九條　共同物揚場ヲ陸揚ニ使用スル者ハ物品ヲ顚倒セサル樣相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第五十條　共同物揚場ヲ使用スル者ハ使用後清潔ニ掃除シ炎天及風日ニハ時々撒水スヘシ

第五十一條　共同物揚場ニ於テ夜間陸揚又ハ船積ヲ爲ストキハ標燈ヲ揚出スヘシ

第五十二條　共同物揚場ニ於テハ左ノ事項ヲ禁止ス

一、不潔ノ行爲ヲ爲スコト

二、荷主ノ使用ニ屬スルモノノ外牛馬ヲ繫キ諸車物品ヲ放置シ又ハ荷造其ノ他作業ヲ爲スコト

三、陸揚又ハ船積ヲ爲ス場合ノ外船舶ヲ繫留スルコト

四、濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ猥火ヲ使用スルコト

五、物品ヲ陳列シ又ハ販賣ヲ爲スコト

六、物品ヲ洗滌シ又ハ干物ヲ爲スコト

七、其ノ他管理上障害アリト認ムル事項

第五十三條　共同物揚場ニハ陸揚又ハ船積ノ物品ヲ五時間以上留置クコトヲ得ス但シ五時間以內ニ他ニ運搬スルコト能ハサル事由アルモノハ特ニ市長ノ許可ヲ得テ五日以內ノ期間ニ限リ之ヲ留置クコトヲ得

前項但書ニ依リ許可ヲ受ケタル物品ニハ其ノ許可ヲ受ケタル者ノ住所氏名及許可ヲ受ケタル年月日ヲ標榜シ置クヘシ

第五十四條　前條ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト雖モ共同物揚場ノ公用又ハ公共用ニ妨害アリト認ムルトキハ期間ヲ指定シ留置物品ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第五十五條　專用物揚場ニハ建築物ヲ施設スヘカラス但シ市長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ在リテハ第四章ヲ準用ス

第五十六條　專用物揚場ニハ其ノ場所區域並使用者ノ住所氏名ヲ記載セル標柱ヲ建設スヘシ

第五十七條　專用物揚場ニシテ倉庫敷地又ハ上屋敷地ニ接續スルモノハ當該倉庫敷地又ハ上屋敷地ノ使用者ニ對シ特ニ之カ併用ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十八條　專用物揚場ノ使用ニ關シテハ本章ニ規定スルモノノ外許可ノ際必要ナル條件ヲ附スルコトアルヘシ

第四章　倉庫敷地及上屋地

第五十九條　倉庫敷地及上屋地ノ建設物ハ倉庫又ハ上屋及之ニ必要ナル事務所並其ノ附屬施設物ニ限ル但シ倉庫敷地ニ在リテハ運河利用上必要アリト認ムル工作物ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第六十條　倉庫及上屋其ノ他工作物ノ設計ニ關シテハ市長ノ指示ニ從フヘシ

第六十一條　本章ニ規定スルモノノ外許可ノ際必要ナル條件ヲ附スルコトアルヘシ

第五章　上　屋

第六十二條　上屋ハ專ラ貨物ノ保管及荷捌ニ使用スヘキモノトス

第六十三條　使用者貨物ヲ搬入セムトスルトキハ之ヲ屆出テ係員ノ指示ヲ受クヘシ

第六十四條　上屋內ニ於テハ左ノ事項ヲ禁止ス

一、發火、引火又ハ爆發ノ虞アルモノヲ藏置スルコト

二、焚火、裸火、喫煙其ノ他火氣ノ使用ヲ爲スコト

三、建物又ハ他ノ貨物ヲ汚損又ハ毀損スル虞アルモノヲ藏置スルコト

四、腐敗セル物品ヲ藏置スルコト

五、其ノ他市長ニ於テ不適當ト認メタルモノヲ藏置スルコト

第六十五條　上屋使用ノ許可ハ使用申込ノ順位ニ依ル但シ公益上必要ト認ムルトキハ其ノ順位ヲ變更シ又ハ既ニ許可シタル使用ヲ停止若ハ制限スルコトアルヘシ

第六十六條　使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ別ニ定ムル使用料ヲ納付シタル後ニ非サレハ貨物ヲ搬入藏置スルコトヲ得ス

第六十七條　使用者使用ヲ終リタルトキハ使用シタル場所ヲ清潔ニ掃除スヘシ

第六章　道　路

第六十八條　運河用地タル道路ノ使用ニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外道路占用規程ヲ準用ス

第七章　曳　船

第六十九條　本市所屬曳船ハ主トシテ中川運河區域內ニ使用スルモノトス

第七十條　曳船使用時間ハ之ヲ告示ス

第七十一條　運河內ニ於テハ本市所屬曳船以外ハ曳船ヲ爲スコトヲ得ス但シ自家用ニシテ市長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十二條　曳船ノ速度ハ一時間五哩以內トシ曳船ト被曳船トノ總延長ハ左ノ區分ニ依リ單列航行スヘシ但シ堀止船溜ニ於テハ曳船スルコトヲ得ス

一、中川口船溜及南幹線ニ在リテハ七十六米以內

二、中幹線及北幹線ニ在リテハ五十六米以內

三、北支線、東支線及松重船溜ニ在リテハ三十五米以內

第七十三條　曳船ヲ使用セムトスル者ハ別ニ定ムル使用料ヲ前納スヘシ但シ頻繁ニ使用スル者ニ付テハ其ノ使用者ヨリ後納ヲ願出テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ當日ノ集計額ニ依リ納付スヘシ

第七十四條　後納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ所要時間及區間並船種隻數等ヲ記載シタル願書ヲ使用前四時間迄ニ提出スヘシ

第八章　起　重　機

第七十五條　起重機ハ其ノ揚力以上ノモノニ對シテハ之ヲ使用ヲ許サス

第七十六條　起重機ノ取扱者ハ使用者之ヲ出シ係員監督ノ下ニ其ノ取扱ニ當ルモノトス

第七十七條　起重機ヲ使用セムトスル者ハ別ニ定ムル使用料ヲ前納スヘシ但シ頻繁ニ使用スル者ニ付テ第七十三條但書及第七十四條ヲ準用ス

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

開門通航料ハ當分ノ内之ヲ免除ス但シ營業用乘合汽船ヲ通航セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

中川運河使用條例施行細則中曳船使用時間ニ件スル件

昭和六年十二月二十三日
告示第三百八十四號

中川運河使用條例施行細則第七十條ノ曳船使用時間ヲ左ノ通定メ昭和六年十二月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

自　日　出　至　日　没

但シ必要ト認ムル場合ニ於テハ時間外ト雖モ使用セシムルコトアルヘシ

中川運河管理事務所處務規程

昭和六年三月三十一日
達第八號

第一條　中川運河管理事務所（以下單ニ事務所ト稱ス）ハ土木部ニ屬シ中川運河及其ノ附屬設備（中川運河使用條例第二條及第三條ノ規定ニ依ル運河及其ノ附屬設備ヲ謂フ以下同シ）ノ管理及使用ニ關スル事務ヲ處理ス

第二條　事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

一、所　長
二、書　記
三、技　手
四、屋　手
五、工　手
六、監　視
七、船　員
八、運　轉　手

第三條　事務所ノ事務ヲ分チ庶務係、工務係、事業係、中川口閘門詰所及松重閘門詰所ヲ設ク

所長ハ前項ノ外管理上必要ト認ムルトキハ市長ノ決裁ヲ經テ出張所、派出所又ハ見張所ヲ設クルコトヲ得

第四條　所長ハ主事ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　所長ハ上司ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員以下ヲ指揮監督ス

所長事故アルトキハ豫メ土木部長ノ定ムル職員之ヲ代理ス

第六條　庶務係ハ運河及其ノ附屬設備ノ經營、利用、物品ノ出納保管、豫算、統計、人事等ニ關スル事項及他ノ係ニ屬セサル事項ヲ處理ス

第七條　工務係ハ運河及其ノ附屬設備ノ維持修繕、工事ノ設計並調査、工事施行監督並檢査、工事工程、浚渫作業其ノ他技術ニ關スル事項ヲ處理ス

第八條　事業係ハ運河及其ノ附屬設備ノ使用料徴收及監視、取締等使用ニ關スル事項ヲ處理ス

第九條　中川口閘門及松重閘門詰所員ハ閘門（中川口閘門詰所ニ在リテハ放水門共）ノ操作及手入、水位ノ觀測、船舶ノ出入及輪移出入貨物調査等閘門及放水門ニ關スル事項ヲ處理ス

第十條　所長ハ必要ニ應シ職員以下ヲシテ分擔事務以外ノ事務ヲ處理セシメ又ハ兼務セシムルコトヲ得

第十一條　出張巡回ヲ常務トスル者、特別勤務ノ命ヲ受ケタル者及出張所、派出所又ハ見張所ノ勤務時間左ノ如シ閘門通航料、曳船使用料、起重機使用料及上屋使用料ノ徴收ヲ掌ル者ノ勤務時間ハ第十二條ヲ準用ス

自二月一日	至二月末日	自午前七時三十分	至午後五時三十分
自三月一日	至十月三十日	自午前七時	至午後五時三十分
自十一月一日	至一月三十一日	自午前七時三十分	至午後五時

第十二條　閘門詰所員ノ勤務時間ハ別ニ定ムル閘門通航時限三十分前ヨリ同三十分後迄トス

第十三條　所員ノ休暇ハ吏員其他休暇規程ノ定ムル所ニ依ル但シ前二條ノ勤務者ハ左記各號ニ依リ事務ニ差支ナキ限リ所長ノ承認ヲ得テ定例休暇ヲ受クルコトヲ得

一、日曜日（毎月二回以内）及父母ノ祭日
二、年末及年始ニ亘リ三日以内

第十四條　所長ハ管理上ノ都合ニ依リ第十一條第十二條ノ勤務時間ヲ變更シ又ハ休暇日ニ出勤ヲ命スルコトヲ得但シ前條但書ノ休暇日ニ限リ代休ヲ與フルコトヲ得

第十五條　出勤時限迄ニ出勤シタルトキハ自ラ出勤簿ニ捺印シ病氣其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤セムトスルトキハ出勤時限前ニ所長ハ土木部長ニ其ノ他ノ職員以下ハ所長ニ屆出ツヘシ

第十六條　文書ノ符號及番號ハ左ノ定ニ依ルヘシ

符號　收受文書ニ在リテハ收運（之ニ對シ往復スルモノ亦同シ）發送文書ニ在リテ發運ノ文字ヲ冠スヘシ

番號　毎年一月ニ起リ十二月ニ止ム其ノ往復ヲ重ヌルモノハ第何號ノ一、二ト記シ完結ニ至ル迄一貫スヘシ

第十七條　所長ハ輕易ナル所務ニ關シ所名若ハ所長名ヲ以テ官公署其ノ他ニ對シ文書ノ照復ヲ爲スコトヲ得

第十八條　事務所ニハ左ノ帳簿書類ヲ備ヘ置クヘシ

一、出勤簿
二、文書收發簿

三、職員名簿
四、職員宿所名簿
五、運河用地臺帳
六、運河竣工圖書
七、工事臺帳
八、工事設計書綴
九、運河及其ノ附屬設備使用原簿（各設備ニ區分ス）
十、消耗品受拂簿
十一、郵便切手受拂簿
十二、船舶及器具機械其ノ他物品購入修繕募議簿
十三、豫算差引簿
十四、收入整理簿
十五、貨物輸移出入調表
十六、船舶出入調表
十七、船舶名簿
十八、水位觀測表
十九、日誌
二十、宿直錄
二十一、往復綴
前項ノ外適宜補助簿類ヲ設クルコトヲ得

第十九條　所長ハ職員ヲシテ輪番ニ宿直セシメ宿直中取扱ヒタル事項ハ宿直錄ニ記載セシムヘシ

第二十條　近火其ノ他非常事變ニ際シテハ土木部長ニ報告スルト共ニ應急ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十一條　本規程ニ定ムルモノノ外名古屋市處務規程ヲ準用ス

第二十二條　所定ハ本規程ニ定ムルモノ及別段ノ規定アルモノノ外市長ノ決裁ヲ經テ運河管理並本規程施行ニ付必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

事務所ハ當分ノ内都市計畫中川運河開鑿事業並建築敷地ニ關スル事務ヲ取扱フ

前項ノ事務執行ニ關シ必要ナル規程ハ市長ノ決裁ヲ經テ所長之ヲ定ムルコトヲ得

名古屋城管守以下被服規程

昭和五年十二月十七日
告示第三百六十八號
改正　昭和七年八月二十七日
告示第三百六十二號

第一條　管守及管守補ノ制服ニ關シテハ檢査員水道巡視守衛監視運轉士及自動車運轉手制服中檢査員ノ制服ニ關スル規定ヲ準用ス但シ帽章及襟章ハ左ノ通リトス

帽章　黑絨臺ニ金モール製金鯱二個ヲ以テ抱擁ノ中央ニモール製徑五分五厘丸形銀色ノ「城」ノ文字一個ヲ嵌入ス

襟章　金屬製徑四分金色ノ「管」ノ文字一個ヲ左襟ニ附ス

管守帽章　　管守襟章

第二條　管守以下ノ給與品及貸與品ニ關シテハ守衛以下給與品及貸與品規則及檢査員水道巡視被服給與規則並守衛以下給與品及貸與品規則施行細則中監視ヲ管守及管守補、使丁ヲ小使トシテ之ヲ準用ス

名古屋城拜觀料及外苑參入料減免內規

昭和六年二月六日
決裁

第一條　名古屋城管理及使用條例（以下單ニ條例ト稱ス）第五條ニ依ル拜觀料及外苑參入料ノ割引又ハ免除ハ名古屋城管理及使用條例施行細則第一條ニ定ムルモノノ外本內規ノ定ムル所ニ依ル

第二條　條例第三條第一項ノ天守閣拜觀券ハ之ヲ前賣スルコトヲ得

第三條　前條ニ依リ前賣ノ申出アリタルトキハ左記各號ニ依リ割引ス

一、五百枚以上ヲ一時ニ購求スル者ハ其ノ合計金額ノ五分引
二、二千枚以上ヲ一時ニ購求スル者ハ其ノ合計金額ノ一割引
三、一萬枚以上ヲ一時ニ購求スル者ハ其ノ合計金額ノ一割五分引

第四條　第二條ノ前賣ニ關シテハ名古屋城管理事務所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第五條　條例第四條ニ依ル團體ノ取扱者ニ對シテハ人員三十人毎ニ一人ノ割合ヲ以テ團體ト同時ニ無料拜觀ヲ許スモノトス

前項ノ無料入員ハ團體拜觀券ニ之ヲ記入ス

第六條　拜觀料又ハ外苑參入料ハ本市來賓又ハ特別ノ理由アル者ニシテ市長承認ノ者ニ限リ之ヲ免除シ其ノ都度無料拜觀券ヲ贈與ス

第七條　前條ニ依リ免除スヘキ者アリタルトキハ土木部庶務課長ヨリ名古屋城管理事務所長ニ通知スルモノトス

名古屋城拜觀券及外苑參入券取扱規程

昭和六年二月九日
達第三號
改正　昭和六年十二月三日
達第三十三號

第一條　名古屋城ノ御殿又ハ天主閣ノ拜觀券及外苑參入券ノ取扱ニ付テハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　名古屋城管理事務所長（以下單ニ所長ト稱ス）ニ於テ拜觀券及外苑參入券ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ別記第一號樣式ニ依ル請求書ヲ土木部庶務課物品保管主任ニ提出スヘシ

第三條　土木部庶務課物品保管主任ハ前條ノ請求書ニ依リ拜觀券及外苑參入券ノ必要數ヲ收入役ヨリ受領シ之ヲ所長ニ交付スルモノトス

第四條　土木部庶務課物品保管主任ハ別記第二號樣式ニ依ル帳簿ヲ設ケ拜觀券及外苑參入券ノ出納ヲ整理スヘシ

第五條　所長ハ別記第三號樣式ニ依ル帳簿ヲ設ケ拜觀券及外苑參入券ノ出納ヲ整理スヘシ

第六條　所長ハ別記第四號樣式ニ依リ拜觀券外苑參入券及收入金等ノ日表ヲ作製シ每翌日土木部庶務課長ニ提出スヘシ

第七條　所長ハ別記第五號樣式ノ一乃至三ニ依リ拜觀料及外苑參入料收入簿ヲ設ケ拜觀料及外苑參入料ノ收入ヲ明記整理スヘシ

第八條　所長ハ每月別記第四號樣式ニ準シ拜觀券、外苑參入券及收入金

等ノ月表ヲ作製シ翌月五日迄ニ土木部庶務課長ニ提出スヘシ

第九條　所長ハ拜觀券及外苑參入券ノ發賣ニ依ル收入金ヲ毎日納付書ヲ添ヘ市金庫ニ納付スルモノトス但シ市金庫休日ニ當ルトキハ其ノ休日ヲ明ケニ納付スルモノトス

別記

第一號樣式

書求請券入參苑外券觀拜城屋古名				
種類	數量	備考	交付月日	年月日　請求者職氏名㊞
物品保管主任 土木部庶務課㊞	土木部庶務課員㊞	記帳濟認印	請求者領收㊞	

第二號樣式

拜觀券（外苑參入券）出納簿

年月日	摘要	受入高	交付高	現保管高
		枚	枚	枚

備考

本簿ハ拜觀券、外苑參入券ノ種類毎ニ口座ヲ設クルモノトス

第三號樣式

拜觀券（外苑參入券）出納簿

年月日	摘要	受高	拂高	殘高
		枚	枚	枚

備考

一、本簿ハ拜觀券、外苑參入券ノ種類毎ニ口座ヲ設クルモノトス

二、本簿ハ毎日其ノ出納ヲ整理スルモノトス

第四號樣式

拜觀券、外苑參入券及收入金等日表（　年　月　日分天候　）				
種類		發賣高	收入金	備考
御殿拜觀券	第七號樣式	枚	円	外苑參入券（又ハ割引天守閣拜觀券）ヨリ引繼大人何枚小人何枚合計金何錢
	第八號樣式			大人何枚　小人何枚
天守閣拜觀券	大人			外苑參入高ヨリ引繼何枚金何錢
	小人			
	計			
割引	三十人以上ノ團体			
	百人以上ノ團体			
	下士官兵傷痍軍人			
	在郷軍人ノ團体			
天守閣	青訓生徒青年團員ノ團体			
拜觀券	中等學校生徒ノ團体			
	小學兒童、實補生徒ノ團体			
	幼稚園、保育園兒ノ團体			
	計			
外苑參入券	大人			
	小人			
	計			
其ノ他				
合計				

第五號樣式ヘ1

御殿拜觀券（第七號樣式）

年月日	所長認印	發賣高 一日分						金額 一日分						月日ヨリノ累計	
			外苑參入券ヨリ引繼		割引天守閣拜觀券ヨリ引繼		計		外苑參入券ヨリ引繼		割引天守閣拜觀券ヨリ引繼		計	發賣高	金額
			大人	小人	大人	小人			大人	小人	大人	小人			
		枚	枚	枚	枚	枚	枚	円	円	円	円	円	円	枚	円

第五號樣式ヘ二

御殿拜觀券（第八號樣式）

年月日	所長證印	發賣高 大人	小人	計	金額 大人	小人	計	月日ヨリノ累計 發賣高	金額
		枚	枚	枚	円	円	円	枚	円

第五號樣式ヘ三

天主閣拜觀券

年月日	所長認印	發賣高 大人	小人	計	金額 大人	小人	計	備考	月日ヨリノ累計 發賣高	金額
		枚	枚	枚	円	円	円	外苑參入券ヨリ引繼 大人何枚金何錢 小人何枚金何錢 計金　錢	枚	円

第五號樣式ヘ四

割引天主閣拜觀券（三十人以上ノ團体）

年月日	所長證印	團体數	人員 大人	小人	計	金額 大人	小人	計	備考	累計 人員	金額
		枚	人	人	人	円	円	円	外苑參入券ヨリ引繼 大人何人金　錢 小人何人金　錢 計金　錢	人	円

備考

一、割引天主閣拜觀券ハ種類毎ニ本樣式ニ準シ口座ヲ設クルモノトス

二、累計ハ會計年度ニ依ルモノトス

第五號樣式ヘ五

外苑參入券

年月日	所長證印	發賣高 大人	小人	計	金額 大人	小人	計	月日ヨリノ累計 發賣高	金額
		枚	枚	枚	円	円	円	枚	円

名古屋城管理及使用條例

昭和六年二月二十一日　條例第二號

改正　昭和六年五月八日條例第一號　昭和六年十一月五日條例第一七號

第一條　恩賜元名古屋離宮ノ土地及建物ヲ總稱シテ名古屋城ト稱シ管理

一、御殿（元離宮御殿ヲ謂フ）

二、天守閣（小天守閣ヲ含ム）

三、内濠（内濠ニ隣マレタル土地）

四、外苑（内濠ヲ囲ム土地）

第八類　土木

第二條　上記各部ニ區分ス

五、櫓門（各櫓及門）

六、諸建物及附屬地

七、内濠及外濠

第三條　内苑ハ御殿又ハ天守閣ノ拜觀者ノミ出入ヲ許シ外苑ハ一般ニ出入ヲ許スモノトス

第四條　御殿又ハ天守閣ヲ拜觀セントスル者ニ對シテハ左記區別ニ依リ拜觀券ヲ發行シテ拜觀料ヲ徴收ス

一、御殿拜觀料（外苑參入及天守閣拜觀ヲ含ム）一人ニ付　金一圓

二、天守閣拜觀料（外苑參入ヲ含ム）

大人（年齢十二歳以上）一人ニ付　金三十錢

小人（年齢十二歳未滿）一人ニ付　金十五錢

外苑參入料ヲ徴收スルモノニ對シテハ外苑參入券ヲ發行シテ左記

大人（年齢十二歳以上）一人ニ付　金十錢

小人（年齢十二歳未滿）一人ニ付　金三錢

前二項ノ場合ニ於テハ六歳未滿ノ幼兒ハ保護者一人ニ付一人ヲ限リ無料トス

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ天守閣拜觀料ヲ下記ノ通割引ス

一、三十人以上ノ團體

大人（年齢十二歳以上）一人ニ付　金二十五錢

小人（年齢十二歳未滿）一人ニ付　金十二錢

二、百人以上ノ團體

大　人（年齢十二歳以上）　一人ニ付　金二十　錢
小　人（年齢十二歳未満）　一人ニ付　金十　錢

第五條　市長ハ特ニ必要アリト認メタル者ニ對シテハ拜觀料及外苑參入料ヲ割引又ハ免除スルコトヲ得

第六條　市長ハ管理上必要アリト認ムルトキハ城内ニ於テ一定ノ行爲ヲ制限若ハ禁止シ又ハ拜觀及參入ヲ一時停止スルコトヲ得

第七條　市長ハ公益上必要アリト認ムルトキハ外苑ニ於テ使用料ヲ徵シテ特定ノ者ニ特定ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ使用ニシテ土地ヲ區劃シテ占據スル場合ハ公園使用條例中公園地使用ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條　既納ノ拜觀料、外苑參入料ハ之ヲ還付セス

第七條ノ規定ニ依ル既納使用料ニ付テハ公園使用條例第十八條ノ規定ヲ準用ス

第九條　本條例若ハ之ニ基ク規定ニ違反シタル者ニ對シテハ市長ハ五圓以下ノ過料ヲ科シ及損害賠償ヲ請求スルコトアルヘシ

第十條　本條例ニ定ムルモノノ外管理竝本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋城管理及使用條例施行細則

昭和六年二月十一日
告示第二十四號

改正　昭和六年十一月二十五日　告示第三百五十九號
昭和九年四月一日　告示第五十八號
昭和六年十二月二十一日　告示第三百七十九號
昭和七年三月十日　告示第二百五號
昭和十年五月十七日　告示第百九十二號

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ名古屋城管理及使用條例（以下單ニ條例ト稱ス）第五條ニ依リ天守閣拜觀料ヲ下記ノ通割引ス

一、制服ノ現役下士官兵及傷痍記章ヲ佩用スル傷痍軍人　一人ニ付　金十五錢

二、左記在鄉軍人ノ團體ニシテ其ノ身分ニ付所屬在鄉軍人分會長ノ證明アルモノ

十五人以上ノ團體　一人ニ付　金二十錢
百人以上ノ團體　一人ニ付　金十五錢

三、左記青年學校生徒又ハ青年團員ノ團體ニシテ其ノ身分ニ付所屬ノ青年學校長又ハ青年團長ノ證明アルモノ但シ引率者ヲ含ム

十五人以上ノ團體　一人ニ付　金二十錢
百人以上ノ團體　一人ニ付　金十五錢

四、中等學校生徒ニシテ教職員ノ引率スル左記團體但シ當該教職員ヲ含ム

十五人以上ノ團體　一人ニ付　金二十錢
百人以上ノ團体　一人ニ付　金十五錢

五、小學校兒童又ハ盲聾啞學校生徒ニシテ教職員ノ引率スル左記團體但シ當該教職員ヲ含ム

十五人以上ノ團體　一人ニ付　金十錢
百人以上ノ團體　一人ニ付　金八錢
六、教職員ノ引率スル十五人以上ノ幼稚園及保育園幼兒ノ團體但シ當該教職員ヲ含ム　一人ニ付　金八錢

第二條　拜觀券及外苑參入券ノ樣式ハ別記ニ依ル

第三條　內苑ニ入リテ御殿若ハ天守閣ヲ拜觀セントスル者ハ御殿拜觀券若ハ天守閣拜觀券ヲ、又外苑ノミニ參入セントスルモノハ外苑參入券ヲ買求ムヘシ

御殿拜觀券天守閣拜觀券ハ正門入口ニ於テ改鋏ヲ受ケ內苑入口ニ於テ係員ニ示シ更ニ第七號樣式ニ依ル御殿拜觀券ハ御殿入口天守閣入口ニ於テ、第八號樣式ニ依ル御殿拜觀券ハ御殿入口ニ於テ、天守閣拜觀券ハ天守閣入口ニ於テ小片ノ切斷ヲ受ケ外苑參入券ハ正門入口ニ於テ半片ノ切斷ヲ受クヘシ但シ團體ノ天守閣拜觀券ハ正門入口ニ於テ改鋏ヲ受ケ內苑入口ニ於テ係員ニ示シ天守閣入口ニ於テ係員ニ渡スヘシ

第四條　外苑參入券ニヨリ外苑ニ參入シタル者引續キ御殿若ハ天守閣ヲ拜觀セムトスルトキ又ハ天守閣拜觀券ヲ有スル者別ニ御殿ヲ拜觀セムトスルトキハ名古屋城管理事務所（以下單ニ事務所ト稱ス）ニ申出テ其ノ指定ニ從ヒ既納ノ料金ト第一條又ハ條例第三條若ハ第四條ニ規定スル料金トノ差額ヲ納付シテ天守閣拜觀券若ハ御殿拜觀券ヲ求ムヘシ

此ノ場合天守閣拜觀券ヲ有スル者ニハ第八號樣式ニ依ル御殿拜觀券ヲ發行ス

前項ノ場合拜觀券ノ改鋏ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス

第一項ノ場合ニ於テ天守閣拜觀券ノ割引ヲ受ケタル者ハ天守閣拜觀料トシテ大人ハ一人ニ付金三十錢小人ハ一人ニ付金十五錢ヲ納付シタル者ト看做ス

第八號樣式ノ御殿拜觀券ニ依リテハ天守閣ノ拜觀ヲ爲スコトヲ得

第五條　城內ニ於テハ左ノ事項ヲ禁止ス

一、樹木、土手及工作物ニ登攀シ又ハ濠、芝生地、柵內其ノ他立入禁止區域內ニ立入ルコト

二、樹木、花卉ヲ折損シ果實土石ヲ採取シ又ハ芝生等ヲ損傷スルコト

三、建物其ノ他ノ工作物ニ對シ樂書其ノ他汚損毀損ノ行爲ヲ爲スコト

四、濫ニリ諸建物及其ノ附屬物品等ニ手ヲ觸ルルコト

五、土塊、瓦礫、ボールノ類ヲ投クルコト

六、千社札、廣告類ヲ貼付、揭出又ハ撒布スルコト

七、畜類ヲ伴ヒ入ルルコト

八、魚鳥類ヲ殺傷シ又ハ捕獲スルコト

九、濫リニ焚火ヲ爲シ又ハ裸火ヲ使用シ其ノ他危險ヲ惹起スルノ虞アル行爲ヲ爲スコト

十、發火、引火燥發ノ虞アルモノヲ携帶スルコト

十一、兇器其ノ他危險物ヲ携帶スルコト

十二、泥醉者、惡疾者、心身耗弱者又ハ其ノ疑アル者ノ立入ルコト

十三、病弱者又ハ保護者ナキ六歳未滿ノ幼兒ノ立入ルコト

十四、放歌、喧騷ノ行爲ヲ爲スコト

十五、特ニ許可セラレタル場合ノ外演說、音樂、集會等ヲ催スコト

十六、內苑ニ於テ飲食スルコト

十七、不潔ノ行爲ヲ爲スコト
十八、他人ノ嫌忌シ又ハ迷惑トナルヘキ服裝又ハ行爲ヲ爲スコト
十九、許可ヲ受ケスシテ諸車ヲ乘入レ又ハ引入ルコト
二十、特ニ許可セラレタル場合ノ外營利的寫眞撮影ヲ爲スコト
二十一、特ニ許可セラレタル場合ノ外物品ヲ販賣又ハ陳列スルコト
二十二、公共ノ禮儀ヲ破リ不敬卑猥ノ言動ヲ爲スコト
二十三、風致ヲ害シ又ハ風紀ヲ紊スコト
二十四、外苑ニテハ特ニ設置スル喫煙所以外ニテ喫煙スルコト
二十五、內苑、天守閣、御殿內ニテ喫煙其ノ他火氣ヲ使用スルコト
二十六、天守閣ニ下駄穿ニテ登ルコト
二十七、天守閣及御殿內ニ杖傘其ノ他嵩マリタル物品ヲ携帶スルコト
二十八、不敬ニ亘ル如キ服裝又ハ履物ノ儘ニテ御殿內ニ立入ルコト
二十九、許可ヲ受ケスシテ御殿室內ニ立入ルコト
三十、御殿及天守閣ニ於テ寫眞ヲ取リ又ハ寫生スルコト
三十一、其ノ他管理上支障アリト認ムル事項

第六條　正門ノ開閉時刻左ノ如シ

	開門	閉門
自四月　至十月	午前八時三十分	午後四時
自十一月　至三月	午前八時三十分	午後三時

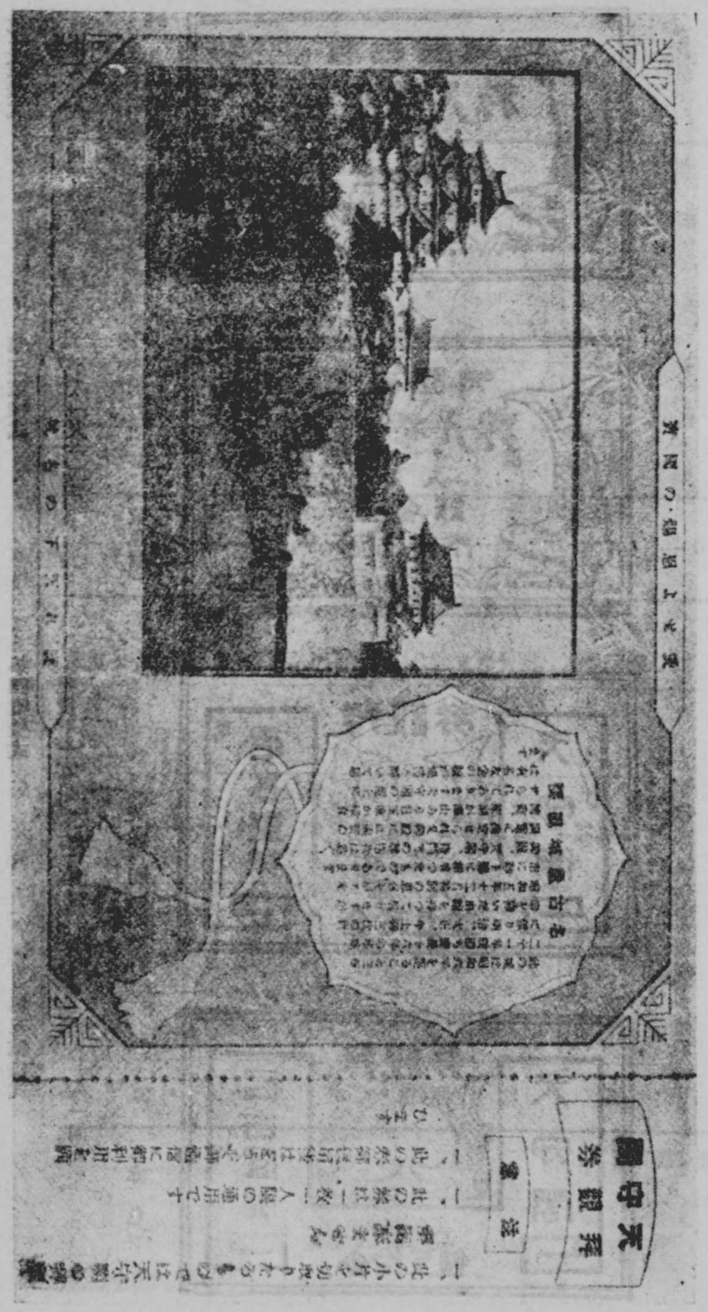
第七條　御殿ノ拜觀ハ前條ノ閉門時刻前三十分迄トス
正門內ニ在ル者ハ係員ヲ除クノ外總テ前條ノ閉門時刻一時間後迄ニ所定ノ順路ニ依リ城外ニ退出スヘシ

第八條　拜觀及參入ハ十二月二十九日ヨリ同月末日迄之ヲ停止ス、御殿ノ拜觀ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ停止ス
一、梅雨期
二、雨、雪、强風其ノ他天候不良ノトキ
三、其ノ他管理上必要アルトキ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式



第二號樣式

大人一人一回券

（紫色刷）

第三號樣式

小人一人一回券

（黃色刷）

第四號樣式

及現役下士官兵一人一回券

（茶褐色刷）

第五號樣式

小人一人一回券

（赤色）

第六號樣式

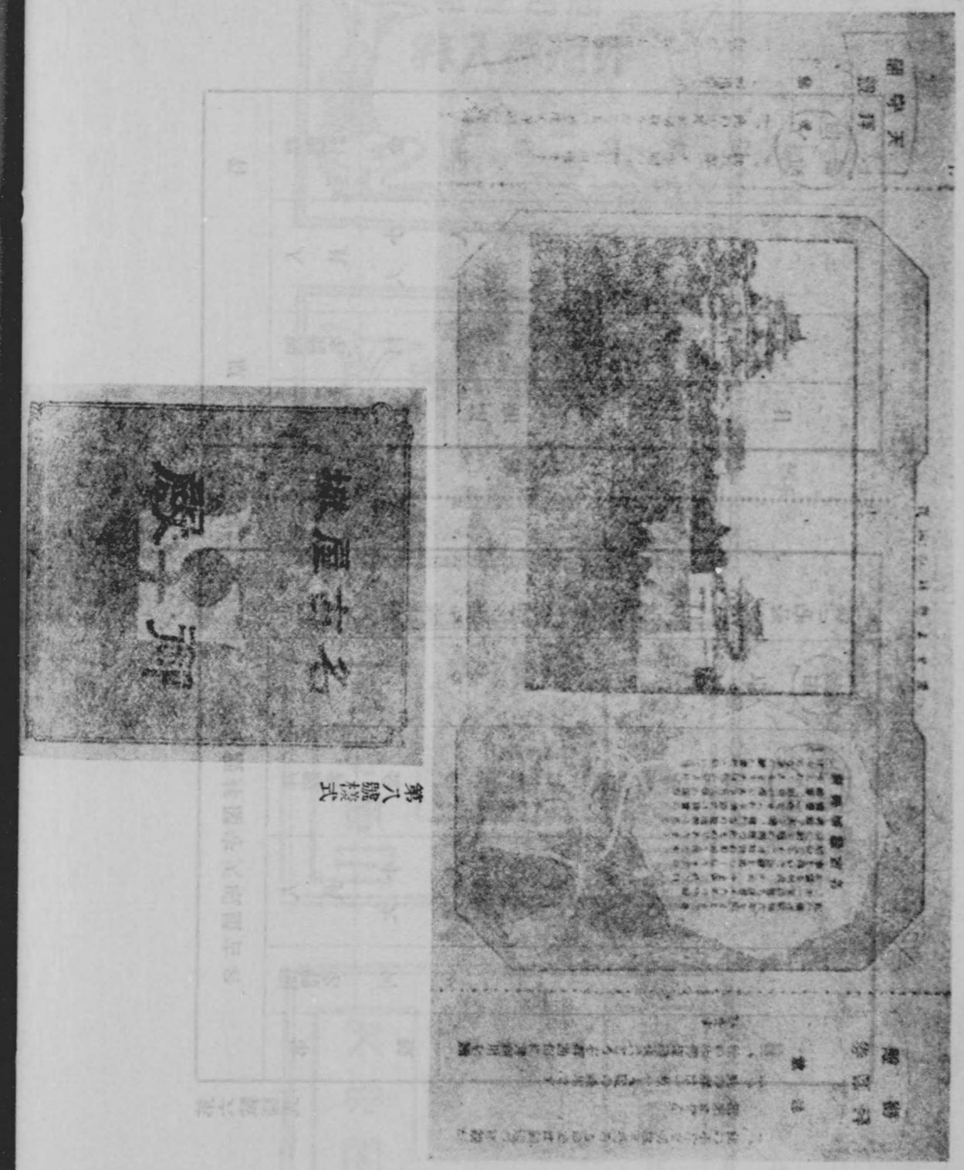
名古屋城天守閣拜觀券

第　號	昭和　年　月　日	團體名	何々	人員	大人　何人 小人　何人	拜觀料	金何程領收濟 取扱人印	名古屋市 （印章）

一、正門參入ノ際本券ヲ示シ改鋏ヲ受ケ內苑入口ニ於テ管守ニ渡サレタシ

印割

原符							
第　號	昭和　年　月　日	團體名	何々	人員	大人　何人 小人　何人	拜觀料	金何程領收濟 取扱人印



第七號式

第八號式

名古屋城管理事務所處務規程

昭和六年二月六日 達第一號 改正 昭和六年三月三十一日 達第七號

第一條 名古屋城管理事務所ハ土木部ニ屬シ名古屋城ノ管理使用及國寶史蹟ニ關スル事務ノ一部ヲ處理ス

第二條 事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

一、所　長
二、書　記
三、管　守　長
四、雇　守
五、管　守

第三條 所長ハ主事ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 所長ハ上司ノ命ヲ承ケ所內一切ノ事務ヲ掌理シ所屬吏員以下ヲ指揮監督ス

所長事故アルトキハ豫メ土木部長ノ定ムル職員之ヲ代理ス

第五條 書記ハ所長ノ命ヲ承ケ拜觀券外苑參入券ノ發賣、物品ノ出納保管、豫算、人事其ノ他所內ノ事務ヲ處理ス

第六條 管守長ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 管守長ハ上司ノ命ヲ承ケ管守以下ヲ指揮監督ス

第八條 管守ハ上司ノ命ヲ承ケ拜觀者外苑參入者其ノ他ノ出入者ノ取締來賓ノ案內、拜觀券外苑參入券ノ點檢回收、諸門ノ開閉、御殿天守閣ノ開閉清掃、苑內及諸建物ノ清掃、建造物其ノ他主要物件保存狀況ノ點檢、火氣衞生ノ取締、其ノ他城內ノ警備ニ當リ異狀ヲ認メタルトキハ直チニ上司ニ報告スヘシ若シ城內ニ於テ法令條規ニ違背シ又ハ違背セムトスル者ヲ認メタルトキハ懇切ニ之ヲ制止シ尙從ハサルトキハ上司ノ指揮ヲ承ケ警察官吏ニ其ノ處分ヲ求ムヘシ

第九條 職員以下ハ正門ノ開閉時刻三十分前迄ニ出勤シ開閉時刻一時間後管守ノ城內巡視ヲ終リ異狀ナキヲ確メタル後退出スヘシ

前項ノ規定ニ拘ラス所長ハ所管助役ノ承認ヲ承ケ職員ノ特別勤務時間ヲ定ムルコトヲ得

第十條 職員ノ條例休暇ハ左ノ通トス。

自十二月二十九日　至同月末日

職員ハ事務ニ差支ナキ限リ前項ノ外每月二日以內ノ定例休暇ヲ取ルコトヲ得

前項ノ休暇ハ豫メ所長ニ在リテハ土木部長、書記以下ニ在リテハ所長ノ承認ヲ承ケ且豫メ承認者ニ屆出ツヘシ

第十一條 出勤時限迄ニ出勤シタルトキハ自ラ出勤簿ニ捺印シ病氣其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤セムトスルトキハ出勤時限前、所長ハ土木部長ニ其ノ他ノ職員ハ所長ニ屆出ツヘシ

第十二條 管守長及管守ハ夫々別記樣式ニ依ル執務日誌ヲ携帶シテ執務ノ要領ヲ記載シ日々所長ニ提出スヘシ但シ休暇日若ハ缺勤ノ分ハ其ノ翌日提出スヘシ

第十三條 文書ノ符號及番號ハ左ノ定ニ依ルヘシ

符　號　收受文書ニ在リテハ收城（之ニ對シ往復スルモノ亦同シ）
　　發送文書ニ在リテハ發城ノ文字ヲ冠スヘシ

番　號　每年一月ニ起リ十二月ニ止ム、其ノ往復ヲ重ヌルモノハ第何

號ノ一又ハ第何號ノ二、三ト記シ完結ニ至ル迄一貫スヘシ

第十四條　所長ハ輕易ナル事務ニ關シ所名若ハ所長名ヲ以テ官公署其ノ他ニ對シ文書ノ照復ヲ爲スコトヲ得

第十五條　名古屋城管理事務所ニハ左ノ帳簿書類ヲ備ヘ置クヘシ

一、出勤簿
二、文書收發簿
三、職員名簿
四、名古屋城ニ關スル國寶臺帳寫
五、備品臺帳
六、消耗品受拂簿
七、物品購入修繕寫議簿
八、豫算差引簿
九、拜觀券外苑參入券出納簿
十、拜觀券外苑參入券及收入金等日表綴
十一、拜觀料及外苑參入料收入簿
十二、日　誌
十三、宿直錄
十四、往復綴

前項ノ外適宜補助簿類ヲ設クルコトヲ得

第十六條　夜勤ハ特別ノ場合ヲ除クノ外公舍ニ居住ヲ命セラレタル職員之ヲ擔當スヘシ

第十七條　所長ハ管守及公舍居住ノ職員ヲシテ輪番ニ宿直セシメ宿直中取扱ヒタル事項ハ宿直錄ニ記載セシムヘシ

第十八條　近火其ノ他非常事變ニ際シテハ土木部長ニ報告スルト共ニ應急ノ措置ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ職員以下非番ニ當ルモ直ニ臨付協力勤務スヘシ

第十九條　本規程ニ定ムルモノノ外名古屋市處務規程ヲ準用ス

第二十條　所長ハ本規程ニ定ムルモノ及別段ノ規定アルモノノ外市長ノ認可ヲ受ケ所屬職員以下ノ勤務ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

別記

執務日誌樣式

月　日	曜日	天候
職氏名		
執務要領		

備考　休日其ノ他職務ニ服セサルトキハ其ノ旨記載スルモノトス

名古屋都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔施行規程

昭和五年十二月二十六日告示第三百七十七號

第一條　昭和五年內務省令第二十八號（以下單ニ省令ト稱ス）ノ施行ニ關シテハ法令ニ定ムルモノヲ除クノ外本規定ノ定ムル所ニ依ル

第二條　負擔區劃內ニ在ル土地ノ位置、面積及形狀ハ公簿及公簿附屬圖ニ依ル

道路ニ接スル部分又ハ間口ノ利用カ之ト同等ト認ムル部分ノ長及土地ノ一部ノ負擔ヲ目的トスル場合其ノ他特殊ノ事由ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於ケル當該土地ノ位置、面積及形狀ハ實地調査其他適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ定ム

實地調査ノ爲關係人ノ立會ヲ要スルトキハ期日ヲ指定シテ其ノ旨通知ス

關係人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ立會ヲ爲スヘシ其ノ讓メ屆出ツルコトナクシテ期日ニ出頭セス又ハ期日ニ出頭スルモ立會ヲナサヽルトキハ立會ヲ俟タスシテ實地調査ヲ行フコトアルヘシ

第三條　省令第十一條第一項乃至第三項ノ各項ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ寄附者又ハ整理施行地區內若ハ整理施行地區タリシ區域內ノ受益者ニ對シテ其ノ負擔金ニ比例シ寄附額又ハ無償提供額ノ範圍內ニ於テ負擔金ヲ減免ス

第四條　受益者ノ負擔スヘキ金額ヲ決定シタルトキハ受益者負擔金決定通知書（第一號樣式）ニ負擔金內譯書（第二號樣式）ヲ添附シ負擔義務者ニ之ヲ交付ス

第五條　大正九年內務省令第二十八號ニ依リ指定セラレタル實權者、永小作人、地上權者及賃借人ニシテ其ノ權利カ未登記ニ屬スルトキハ土地所有者ハ其ノ旨負擔金決定通知ノ日ヨリ二十日目迄ニ當該權利者ト連署ヲ以テ市長ニ申告スヘシ期限迄ニ申告ナキトキハ土地所有者ヲ以テ負擔義務者トス

永小作權、建物ノ所有ヲ目的トスル地上權及賃借權ニシテ存續期間ノ定ナキモノ又ハ法律ノ規定ニ反スル期間ノ定アルモノニ付テハ法定期間ヲ以テ其ノ存續期間ト看做ス

建物ノ所有ヲ目的トセサル地上權及賃借權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付テハ其ノ存續期間ヲ十年未滿ト推定ス

第六條　負擔金ヲ徵收セムトスルトキハ負擔義務者ニ對シ其ノ納付金額納付期限及納付場所ヲ指定シタル納額告知書ヲ交付ス

第七條　負擔義務者納額告知書ノ交付ヲ受ケタルトキハ指定期限內ニ負擔金納額告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第八條　負擔金ノ納付期限ヲ過キ其ノ負擔金ヲ完納セサル者アルトキハ期限ヲ指定シテ督促狀ヲ發ス但シ第九條ニ依リ繰上ケ徵收スル場合ハ此ノ限リニアラス

前項ニ依リ督促ヲ受クルモ仍指定期限內ニ完納セサル者アルトキ又ハ第九條ニ依リ納期ノ到ラサル負擔金納付ノ告知ヲ受ケ之ヲ完納セサルトキハ直ニ滯納處分ヲ行フ

第九條　負擔義務者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ未タ納期到ラサルモ既ニ負擔義務ノ確定シタル負擔金ハ總テ之ヲ徵收スルコトアルヘシ

一、國稅、府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケタルトキ
二、强制執行ヲ受クルトキ
三、破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ
四、競賣ノ開始アリタルトキ
五、法人カ解散シタルトキ
六、負擔義務者負擔金ノ逃脫ヲ謀ルノ行爲アリト認ムルトキ

第十條　共有地ニ對スル負擔金、增負擔金及滯納處分費ハ共有者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔スヘシ

第十一條　負擔金決定ノ通知、納額ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ負擔義務者又ハ保證人ノ住所又ハ居所ニ送達ス負擔義務者カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第十二條　書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所居所アラサルトキ若ハ其ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第十三條　負擔金ノ分割延納ヲ求メムトスル者ハ負擔金決定通知ノ日ヨリ二十日目迄ニ擔保ノ種類及延納期間ヲ記載シタル願書（第三號樣式）ヲ負擔區劃內ニ在ル土地ノ所管區長ヲ經由市長ニ提出スヘシ

第十四條　擔保ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一、負擔金相當額以上ノ價格ヲ有スル國庫證券、地方債證券、勸業銀行債券、興行銀行債券、農工銀行債券
二、負擔金相當額以上ノ價格ヲ有スル土地又ハ火災保險ニ付シタル建物

三、本市ニ住所ヲ有スル能力者ニシテ市長ニ於テ負擔金完納ノ資力アリト認ムル連帶保證人二名以上

前項第一號及第二號ノ價格ハ願書提出ノ際市長之ヲ指定ス

第十五條　負擔金分割延納ハ市長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル者ニシテ前條第一項ニ規定スル擔保ヲ提供スル者ニ限リ左ノ各號ニ依リ之ヲ許可ス

一、分割延納金ハ省令第七條ニ規定スル增負擔金（以下單ニ增負擔金ト稱ス）ト共ニ每年二月、五月、八月及十一月ノ四回ニ分チ各月末日之ヲ徵收ス但シ初回若ハ終回ニ限リ隨時之ヲ徵收スルコトアルヘシ
二、分割延納金ハ負擔金額ヲ各分割納付期間ニ平分シテ之ヲ定ム
三、增負擔金ハ第六條ニ規定スル指定納付期限ノ翌日ヨリ分割延納金指定納付期限迄ノ日數ニ依リ算出シタル金額トシ其ノ率ハ別ニ之ヲ定ム
四、分割延納金、增負擔金ノ納額告知及納付ニ關シテハ第六條、第七條ノ例ニ依ル
五、分割延納金及增負擔金ヲ指定納付期限ニ納付セサルトキハ第八條ノ例ニ依リ處分ス
六、前號ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於ケル增負擔金ニ付テハ第三號ノ規定中分割延納金指定納付期限迄ノ日數トアルヲ分割延納金指定納付期限又ハ完納ノ日迄ノ日數トシ同規定ヲ適用スルコトアルヘシ
七、分割延納許可ノ爲登記ニ關シ費用ヲ要スルトキハ負納義務者ノ負擔トス

第十六條　負擔義務者前條ニ依リ分割延納ノ許可ヲ受ケタルトキハ許可ノ日ヨリ起算シ五日目迄ニ有價證券ニ在リテハ其ノ證券及擔保物提供書（第四號樣式）土地建物ニ在リテハ登記申請ニ必要ナル書類及擔保物提供書（第五號樣式）並建物ニ付テハ火災保險證券及保險料領收證保證人ニ在リテハ保證書（第六號樣式）ヲ提出スヘシ

第十七條　前條ニ依リ有價證券ヲ提供シタルトキハ之カ保管證書（第七號樣式）ヲ交付シ土地建物ヲ提供シタルトキハ抵當權ノ設定登記ヲ登記所ニ囑託ス

第十八條　擔保物價格ノ減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力負擔金完納ニ堪ヘサルニ至リタルト認ムルトキハ增擔保物ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトアルヘシ

第十九條　分割延納ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消シ未納額ハ一時ニ之ヲ徵收ス

一、指定納付期限迄ニ納付セサルトキ
二、擔保物又ハ保證書ヲ提出セサルトキ
三、增擔保物ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セサルトキ
四、前各號ノ外負擔ニ關スル諸規定又ハ許可條件ヲ違守セサルトキ

第二十條　分割延納ノ許可ヲ受ケタル者負擔金、增負擔金ヲ滯納シタル場合ニ於テ、擔保物アルトキハ其ノ擔保物ヲ以テ負擔金、增負擔金及滯納處分費ニ充テ、保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ負擔金、增負擔金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ負擔金、增負擔金ニ充ツヘキ場合ニ於テ擔保物ノ價格カ徵收スヘキ負擔金、增負擔金及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ負擔義務者ノ他ノ財產ニ對シ滯納處分ヲ行フコトアルヘシ

保證人ニ於テ負擔金、增負擔金ヲ完納セサルトキハ負擔義務者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第二十一條　分割延納ノ許可ヲ受ケタル者負擔金及增負擔金ヲ完納シタルトキハ擔保物カ有價證券ナルトキハ之カ還付ノ請求ニ依リ保管證書ト引換ニ保管物ヲ返還シ土地建物ナルトキハ抵當權抹消ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルモノトス

負擔金及增負擔金完納ニ至ラサルモ中途ニ於テ擔保物ノ一部返還ノ請求アリタルトキハ該擔保物ヲ時價ニ換算シ其ノ未納額ヲ超ユル場合ニ限リ既納額ノ範圍內ニ於テ一部ヲ還付スルコトヲ得

前項ノ還付ニ關スル手續ニ付テハ第一項ノ規定ヲ準用ス

擔保物ノ一部還付ヲ爲シタル後ト雖前條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十二條　負擔義務者ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨市長ニ申告スヘシ

第二十三條　本規程ニ依ル書類ノ送達ハ使者又ハ郵便ニ依ル

第二十四條　負擔金ノ徵收及滯納處分ハ負擔區劃內ニ在ル土地ノ所管區長ヲシテ之ヲ分掌セシム

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年十一月內務省令第二十五號及大正十四年四月內務省令第六號ニ基ク規定ニ依リ爲シタル處分其ノ他ノ行爲ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依

第一號樣式（用紙適宜）

昭和　年度　受益者負擔金決定通知書　壹通

右正ニ領收候也

名古屋市　區　町　番地　戸　氏　名

昭和　年　月　日

受益者負擔金決定通知書

一金　拾萬千百拾円拾錢

但名古屋都市計畫事業何々受益者負擔金ニシテ內譯別紙ノ通トス

右決定候ニ付昭和何年何月內務省令第何號第何條第何項ニ依リ通知ス

昭和　年　月　日　市長　名　印

住所

負擔義務者　氏　名　殿

注意　一、本負擔金決定ニ關シ御不審ノ點アレハ市役所土木部庶務課ニ就キ承合セラレタシ

二、別紙關係規定ヲ御熟讀下サイ

第二號樣式

負擔金內譯書　負擔義務者

負擔率　第一地帶　間口一間ニ付金　面積一坪ニ付金

第二地帶　面積一坪ニ付金

第三地帶　面積一坪ニ付金

事業名及負擔區名

土地			第一地帶		第二地帶		第三地帶		計	
町名	地番		間數	負擔金	坪數	負擔金	坪數	負擔金		
			間	円	坪	円	坪	円	円	

第三號樣式ノ一　分割延納申請書

一、事業名

二、負擔金額

右受益者負擔金決定通知書御交付相受ケ候處自　年　月　日至　年　月　日間ニ於テ分割延納御許可相成度保證人以連署此段申請候也

年　月　日

住所

負擔義務者　氏　名

住所

連帶保證人　氏　名

住所

連帶保證人　氏　名

名古屋市長　殿

第三號樣式ノ二　分割延納申請書

一、事業名

二、負擔金額

右受益者負擔金決定通知相受ケ候處末記表示ノ有價證券擔保トシテ提供可致候間自　年　月　日至　年　月　日間ニ於テ分割延納御許可相成度此段申請候也

年　月　日

住所

負擔義務者　氏　名

名古屋市長　殿

有價證券ノ表示

種類	記番號	額面總額	備考
			年月日以降利札付

第三號樣式ノ三　分割延納申請書

一、事業名

二、負擔金額

右受益者負擔金決定通知相受候處末記表示ノ不動產擔保トシテ提供可致候間自　年　月　日至　年　月　日間ニ於テ分割延納御許可相成度此段申請候也

年　月　日

住所

負擔義務者　氏　名

名古屋市長　殿

不動產ノ表示

町名丁目	番地	地目	坪數	備考
計				

第八類 土木

第四號樣式

印紙 ㊞

擔保物提供書

保管證書第　號

有價證券

額面

但　年　月　日指令土第　號

分割延納許可ニ對スル擔保物

内譯

種類	記番號	額面	枚數	總額
		円		円

上記ノ通提供致候間御指定ノ納期ニ納付セサルトキハ御規定ニ從ヒ御處理相成異議無之候也

年　月　日

住所

負擔義務者　氏名　㊞

名古屋市長　殿

擔保臺帳登記濟印

第五號樣式

擔保物提供書

印紙

一、事業名

二、負擔金額

右昭和　年　月　日付指令土第何號ヲ以テ分割延納御許可相受キ候ニ付テハ負擔義務者カ御指定ノ期限ニ納付セサルトキハ連帶保證人ニ於テ受益者負擔金增負擔金等ハ直ニ之ヲ納入可致從テ御市ニ對シ毫モ損害相掛申間敷候後證ノ爲仍而如件

年　月　日

住所

負擔義務者　氏名

住所

第六號樣式

印紙 ㊞

保證書

一、事業名

負擔義務者

二、負擔金額

……

……

名古屋市長　殿

不動產ノ表示

記表示ノ不動產擔保トシテ提供候間御指定ノ期限內ニ納付セサルトキハ受益者負擔金增負擔金等御規定ニ從ヒ御處理相成異議無之候也

年　月　日

住所

負擔義務者　氏名

第八類 土木

第七號樣式

擔保物保管證書

雜部

有價證券

額面

但　年　月　日指令土第　號

分割延納許可ニ對スル擔保物

內譯

種類	記番號	額面	枚數	總額
		円		円

納人住所氏名　印鑑

上記ノ分保管候也

年　月　日

名古屋市　區收入役　㊞

本證書ハ私權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

名古屋市長　殿

連帶保證人　氏名

住所

連帶保證人　氏名

注意　一、擔保物ノ還付ハ此ノ證書ト引換ニナリマスカラ大切ニ保存シテ下サイ

第八類 土木

名古屋都市計畫事業道路新設擴築並路面改良受益者負擔金徵收事務取扱規程

昭和五年十二月二十六日 訓令第三號

第一條　區長ハ名古屋都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔金徵收事務ニ關シテハ名古屋都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔施行規程（以下單ニ施行規程ト稱ス）ニ從フノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　負擔金徵收原簿其ノ他必要ナル帳簿ヲ設備シ徵收ニ關スル要件ヲ登記シ異動ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ附記シ加除更正スヘシ

第三條　前條ノ負擔金徵收原簿ハ市長ヨリ交付スル負擔金內譯書又ハ分割延納金臺帳副本ヲ以テ之ニ充用スルコトヲ得

第四條　市長ヨリ負擔金徵收ノ通知ヲ受ケタルトキハ收納簿（第一號樣式）ニ依リ之カ調定ヲ爲シ納額告知書ヲ調製スヘシ分割延納ニ係ル徵收時期ノ到リタルトキ亦同シ

前項ノ納額告知書ハ納付期限前二十日目迄ニ負擔義務者ニ交付スヘシ但シ前項後段ノ場合ハ納付期限前十日目迄トス

前項ノ規定ハ第五條及第十條ニ依ル納額告知書ノ交付ニハ之ヲ適用セス

第五條　施行規定第九條ニ該當スル者アルトキハ速ニ繰上ケ徵收スヘシ

前項ノ場合市長ヨリ負擔金徵收額ノ通知ヲ受クル前ナルトキハ速ニ其ノ旨報告スヘシ

第六條　負擔金分割延納ノ申請ヲ爲シタル者アルトキハ其ノ擔保物件又ハ保證人ノ適否ヲ調査シ副申書（第二號樣式ノ一、二）ヲ添ヘ速ニ進達スヘシ

第七條　負擔金分割延納許可ノ指令アリタルトキハ直ニ之ヲ本人ニ交付シ擔保物件ニ關シテハ施行規定ノ定ムル所ニ從ヒ手續ヲ爲スヘシ分割延納ノ許可ヲ受ケタル者負擔金及增負擔金ヲ完納シタルトキ亦同シ

第八條　施行規程第十八條該當ノ事實アルコトヲ認メタルトキハ增擔保物ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシメ其ノ旨報告スヘシ

負擔金及增負擔金完納ニ至ラサルモ中途ニ於テ擔保物ノ一部返還ノ請求アリタルトキハ該擔保物ヲ時價ニ換算シ其ノ未納額ヲ超ユル場合ニ限リ既納額ノ範圍内ニ於テ之ヲ還付シ其ノ旨報告スヘシ

第九條　施行規程第十九條各號ノ一ニ該當ノ事實アルトキハ速ニ之ヲ具申スヘシ

第十條　分割延納ノ許可ヲ取消サレタル者アルトキハ直ニ其ノ指令ヲ本人ニ交付シ未納額ハ一時ニ之ヲ徵收スヘシ

第十一條　每月ノ徵收狀況ハ第三號樣式ニ依リ之ヲ翌月五日迄ニ報告スヘシ

第十二條　受益者負擔金徵收ニ關シ本規程中別ニ定ナキ事項ニ付テハ明治四十五年三月訓示第六號市稅其他諸收入徵收事務取扱規程ヲ準用ス

第十三條　名古屋都市計畫事業路面改良受益者負擔金徵收事務ニ關シテハ第一款ノ規定ヲ準用シ之ヲ取扱フヘシ

第一號樣式

昭和　年度

受益者負擔金及增負擔金收納簿

事業名

名古屋市何區役所

番號	告知書 義務者	負擔 納付期限	負擔金 金額	負擔金 領收月日	增負擔金 金額	增負擔金 領收月日	事由
			円		円		

備考

一、分割延納金ニ關シテハ事由欄ニ其分納回數ヲ記載スヘシ

受益者負擔金分割延納ニ關スル副申書

年　月　日　何區長

名古屋市長　殿

事業名	負擔金	負擔義務者

一、保證人及保證資力（土地建物）

所在地	地目又ハ建物ノ構造	坪數	坪當時價	時價計	連帶保證人 住所	職業	氏名	生年月日

二、法律上能力ノ有無

三、分割延納許否ニ對スル意見

受益者負擔金分割延納ニ關スル副申書

年　月　日　何區長

名古屋市長　殿

事業名	負擔金	負擔義務者

一、擔保物

（イ、有價證券ノ場合）

種類	記番號	利札ノ有無	額面	枚數	額面總額

（ロ、不動產ノ場合）

所在地	地目又ハ建物ノ構造	坪數	坪當時價	時價計

二、分割延納許否ニ對スル意見

第三號樣式

年　月　日　　何區長

名古屋市長　殿

何年度何月分受益者負擔金徴收狀況報告

路線名	區分	受益者負擔金						增負擔金					
		調定額及人員			收入額及人員			滯納額及人員	調定額及人員		收入額及人員		滯納額及人員
		本月分	累計		本月分	累計			本月分	累計	本月分	累計	

備考

一、區分欄ハ路線別ニ即納、分納竝繰越（前年度ヨリ繰越）ニ區分スヘシ

二、累計ハ前月分累計ニ當月分ヲ加算計上スヘシ

三、人員ハ負擔金又ハ增負擔金ノ左ニ傍書スヘシ

四、誤謬其ノ他事由ニヨリ前月分ノ報告ニ異動ヲ生スル場合ハ當該數額ヲ本月分欄ニ朱書シテ累計ヲ調理シ備考ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

名古屋都市計畫事業路面改良受益者負擔施行規程

昭和五年十二月二十六日
告示第三百七十八號

第一條 昭和五年内務省令第三十七號（以下單ニ省令ト稱ス）ノ施行ニ關シテハ法令ニ定ムルモノヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 負擔區劃内ニ在ル土地ノ位置面積及形狀ハ公簿及公簿附屬圖ニ依ル

土地ノ一部ノ負擔ヲ目的トスル場合其ノ他特殊ノ事由ニ依リ前項ノ規程ニ依リ難キ場合ニ於ケル當該土地ノ位置面積及形狀ハ實地調査其ノ他適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ定ム

實地調査ニ關シテハ名古屋都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔施行規程第二條第三項及第四項ヲ準用ス

第三條 省令第十一條第一項ニ該當スル場合ニ於テハ寄附者ニ對シ其ノ負擔金ニ比例シ寄附額ノ範圍内ニ於テ負擔金ヲ減免ス

第四條 本規定ニ定メナキ事項ニ付テハ名古屋都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔施行規程第四條乃至第二十四條ヲ準用ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

德川園管理及使用條例

昭和七年十一月三日
條例第十三號　改正　昭和九年四月一日告示第七號

第一條 本條例ニ於テ德川園ト稱スルハ元德川邸ノ土地建物及其ノ他ノ施設物ヲ謂フ

第二條 入園セントスル者ハ左ニ揭クル入園料ヲ納付スヘシ但シ保護者ノ伴フ六歲未滿ノ幼兒ハ一人ヲ限リ之ヲ無料トス

大人（十二歲以上ノ者）　一人一回ニ付　金五錢

小人（十二歲未滿ノ者）　一人一回ニ付　金二錢

入園者ハ第三條第二號ニ規定スル建物内ニ入ルコトヲ得ス

第三條 土地建物ヲ專ラ使用セントスル者ハ市長ノ承認ヲ受ケ左ノ使用料ヲ納付スヘシ

一、土地使用料　一日一坪ニ付　金五十錢以内

二、建物使用料

清流軒　一日ニ付　金十圓以内

本館　一日ニ付　金三十圓以内

第四條 市長ハ特ニ必要アリト認メタルトキハ入園料又ハ使用料ヲ減免スルコトヲ得

第五條 既納ノ入園料ハ之ヲ還付セス

既納使用料ニ付テハ公園使用條例第十八條ノ規定ヲ準用ス

第六條 第三號ニ依ル使用ニ付テハ公園使用條例第八條第九條第十一條乃至第十三條第十五條乃至第十七條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

第七條 市長ハ管理上必要アリト認ムルトキハ園内ニ於テ一定ノ行爲ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ入園及使用ヲ一時停止スルコトヲ得

第八條 本條例若ハ之ニ基ク規定ニ違反シタル者ニ對シテハ市長ハ五圓以下ノ過料ヲ課シ及損害賠償ヲ請求スルコトアルヘシ

第九條 本條例ニ定ムルモノノ外管理及本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

德川園管理及使用條例施行細則

昭和七年十一月三日
告示第四百二十號　改正　昭和九年四月一日告示第五十九號　昭和九年九月十七日告示第百九十四號

第一條 入園料ヲ納メタル者ニハ別記樣式ノ入園券ヲ發行シ入口ニ於テ改鋏ス

第二條 土地建物ヲ專用セムトスル者ハ左記事項ヲ具シタル書類ヲ提出スヘシ

一、使用ノ目的

二、使用スヘキ土地建物ノ種類但シ土地ニ付テハ其位置及坪數

三、使用ノ日時

四、參集スヘキ豫定人員

五、使用者ノ住所氏名

第三條 土地建物使用料ハ承認ヲ受ケタルトキハ直ニ左記區別ニ依リ納

ムヘシ

一、土地使用料　一日一坪ニ付

イ、兒童遊園地　金三十錢

ロ、本館周圍地　金二十錢

ハ、山林其ノ他ノ土地　金十錢

園遊會其ノ他ノ目的ニ依リ三十坪以上使用ノ場合ハ承認ノ際之ヲ定ム

二、建物使用料　一日一回ニ付

建物名稱	晝間料金（自午前九時至午後五時）	夜間料金（自午後六時至午後十時）	晝夜間料金（自午前九時至午後十時）
本館	二三、〇〇	二五、〇〇	三〇、〇〇
本館ノ內前館	一五、〇〇	一七、〇〇	二〇、〇〇
表書院	一二、〇〇	一四、〇〇	一六、〇〇
前館ノ內 應接室	五、〇〇	六、〇〇	七、〇〇
前館ノ內 第一控室	二、〇〇	二、五〇	三、〇〇
前館ノ內 第二控室	一、五〇	二、〇〇	二、五〇
本館ノ內後館	一六、〇〇	一八、〇〇	二二、〇〇
後館ノ內 奥書院	一〇、〇〇	一二、〇〇	一三、〇〇
後館ノ內 西洋室	八、〇〇	一〇、〇〇	一二、〇〇
後館ノ內 控室	一、五〇	二、〇〇	二、五〇
清流軒	晝間ノミノ使用トシ六圓		
本館及清流軒控室以外ノ二室以上併用ノ場合	晝間ノミノ使用トシ二十六圓		

前掲該當使用料

合計金額ノ十分ノ八ニ該當スル金額

第四條　左ノ各條ノ一ニ該當スル者ニハ入園料ヲ減額シ左ノ通トス

一、三十人以上百人未滿ノ團體

大人（十二歲以上ノ者）　一人一回ニ付　金三錢

小人（十二歲未滿ノ者）　一人一回ニ付　金一錢

二、百人以上ノ團體又ハ第二條ノ參集者

大人（十二歲以上ノ者）　一人一回ニ付　金二錢

小人（十二歲未滿ノ者）　一人一回ニ付　金一錢

第五條　園內ニ於テハ左ノ事項ヲ禁止ス

一、魚鳥ヲ殺傷シ又ハ捕獲スルコト

二、濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ裸火ヲ使用シ其ノ他危險ヲ惹起スノ虞アル行爲ヲ爲スコト

三、他人ノ嫌忌シ又ハ迷惑トナルヘキ行爲ヲ爲スコト

四、樹木花卉ヲ折傷シ果實土石ヲ採取シ又ハ芝生等ヲ損傷スルコト

五、樹木工作物等ニ登攀シ又ハ柵內ニ立入ルコト

六、廣告類ヲ揭出シ又ハ撒布スルコト

七、建物其ノ他工作物ニ對シ汚損毀損ノ行爲ヲ爲スコト

八、設備アル場所以外ニ於テ喫煙スルコト

九、公共ノ儀禮ヲ破リ又ハ風紀ヲ紊ス言動ヲ爲スコト

十、許可ヲ受ケスシテ物品ヲ販賣シ又ハ演說、音樂、集會等ヲ催スコト

十一、其ノ他管理上支障アリト認ムル事項

第六條　本園ノ開閉時刻左ノ如シ但シ德川園管理及使用條例第二條ニ依リ建物ヲ專ラ使用スルトキ其ノ他特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

月別	開門	閉門
一、二、十一、十二	午前八時二十分	午後四時
三、四、九、十	午前八時三十分	午後五時
五、六、七、八	午前八時三十分	午後六時

入園者ハ特ニ承認ヲ受ケタル者ヲ除クノ外閉門時刻三十分後迄ニ退出スヘシ

第七條　建物ノ使用ハ十二月二十九日ヨリ同月末日迄之ヲ停止ス

附則

本細則ハ德川園管理及使用條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記

第一號樣式

大人　一人一回券（緣色）

第二號樣式

小人　一人一回券（赤色）

第三號樣式

德川園入園券	
第何號	昭和何年何月何日
團體又ハ使用者名	何々
人員	大人何人 小人何人
入園料	金何程 取扱者印
名古屋市	

一、入園ノ際本券ヲ示シ入口ニ於テ改鋏ヲ受ケラレタシ

名古屋市都市計畫建築敷地處分規程

昭和四年三月二十七日
告示第三十九號

第一條　都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ賣却ニ付テハ同法施行令第二十三條乃至第二十五條ノ規定ニ依ルノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　賣却ハ工區毎ニ其ノ工區ノ換地處分後之ヲ行フ

第三條　都市計畫法施行令第二十四條第一項第一號ノ賣却ヲ爲ス土地ノ附近地ハ運河ニ向ツテ其ノ土地ノ兩側境界線（道路ニ接スルトキハ其ノ道路ノ中心線又ハ對側境界線）ヲ延長シタル線ト運河ノ中心線（對岸ニ賣却ヲ爲ス土地ナキトキハ運河ノ對側境界線）トヲ以テ圍マレタル土地トス

土地ノ形狀ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第四條　賣却ニ依リ生スル收入ハ都市計畫事業費ニ充ツルノ外他ノ費途ニ充ツルコトヲ得ス

第五條　都市計畫法施行令第二十四條第一項ノ競爭入札ニ於テ豫定價格ニ達セサルトキハ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條　賣却ニ付テハ市長ノ承認ヲ受ケタル設計ニ依リ其ノ他建築物ヲ賣却ノ時ヨリ五年以内ニ完成スヘキ條件ヲ附スルモノトス但シ市長ハ事情ニ依リ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得

第七條　前條ノ條件ニ違反シタルトキハ市ハ賣却代金ヲ以テ買戻スコトヲ得

前項ニ依リ買戻シタル場合ニ於テハ被買戻人ハ遲滯ナク地上物件ヲ收去スル義務アルモノトス其ノ義務ノ履行ニ依リ生スル損害ハ義務者ノ負擔トス

第八條　本規程ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市都市計畫建築敷地處分規程施行細則

昭和四年三月二十七日
告示第四十號

第一條　名古屋市都市計畫建築敷地處分規程（以下單ニ規程ト稱ス）第八條ニ依ル必要ナル事項ハ本細則ニ定ムル所ニ依ル

第二條　都市計畫法施行令第二十四條ニ規定スル競爭入札ヲ行ハムトスルトキハ入札期限前十五日目迄ニ左ノ事項ヲ公告ス

一、競爭入札ニ付スヘキ土地

二、入札加入ノ資格

三、入札ニ必要ナル文書圖面等ヲ示スヘキ場所

四、入札場所及期限

五、開札場所及日時

六、其ノ他入札ニ關シ必要ナル事項

前項ノ公告事項ハ入札加入ノ資格ヲ有スル者ニ對シ之ヲ通知スルコトアルヘシ

第三條　規程第五條ノ再度ノ入札ニ於テ仍豫定價格ニ達セサルトキハ一般ノ競爭入札ニ依ル

第四條　落札人ハ別記樣式ニ依ル土地賣買契約ト共ニ保證金トシテ賣買價格ノ百分ノ十以上ヲ現金ヲ以テ市ニ提供スヘシ

第五條　賣却ニ關シ規程竝本細則ニ定ムルモノノ外市長ハ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第六條　入札及契約ニ關シ規程竝本細則ニ別段ノ定ナキ限リ大正四年四月告示第五十一號入札及契約規程ヲ準用ス

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別　記

土地賣買契約書樣式

名古屋市都市計畫建築敷地賣買ニ付賣渡人名古屋市長（以下單ニ市長ト稱ス）ト買受人某（以下單ニ買受人ト稱ス）トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　賣買契約土地ハ名古屋市何區何町何番宅地面積何坪トス

第二條　前條土地ノ賣却代金ハ何程也トシ何年何月何日迄ニ市長ニ納付スルモノトス

第三條　第一條ノ土地ニ對シテハ市長ノ承認ヲ受ケタル設計ニ依リ工場其ノ他建築物ヲ何年何月何日迄ニ完成スルモノトス

第四條　前條ニ違反シタルトキハ賣却ノ時ヨリ十年以内ニ於テ市長ハ隨時第二條ノ賣却代金ヲ以テ買戻スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ買戻ニ要スル登錄稅其ノ他ノ費用ハ被買戻人ノ負擔トス

前項ニ依リ買戻シタル場合ニ於テハ被買戻人ハ遲滯ナク地上物件ヲ收

去スルノ義務アルモノトス其ノ義務履行ニ依リ生スル損害ハ義務者ノ負擔トス

第五條　前二條ハ轉得者ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

第六條　買受人ハ本契約ノ締結ト同時ニ保證金トシテ金何程也ヲ現金ヲ以テ市長ニ提供スルモノトス

前項ノ保證金ハ賣却代金ニ之ヲ充當ス但シ買受人第二條ニ違反シタルトキハ保證金ハ市ノ所得ニ歸ス

第七條　第一條ノ土地ハ第二條ノ賣却代金完納ノ後所有權移轉登記ヲ爲シ其ノ登記ヲ以テ引渡ヲ完了シタルモノトス

前項登記ニ要スル登錄稅其ノ他ノ費用ハ買受人ノ負擔トス

第八條　第一條ノ土地ハ公簿登記坪數ニ依ル但シ坪數ニ付不足ヲ生シ又ハ其ノ他ノ損害ヲ生シタル場合ト雖市長ニ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第九條　第一條ノ土地ニ對スル公租公課其ノ他ノ負擔ニ付テハ契約締結ノ日ヨリ買受人ノ負擔トス

第十條　買受人本契約ヲ履行セサルトキハ市長ハ履行ノ催告ヲ爲サスシテ直ニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ市ニ損害アルトキハ之ヲ賠償セシム

第十一條　本契約ニ關スル一切ノ文書ニ付見解ヲ異ニスルトキハ買受人ハ總テ市長ノ認定ニ從フ

第十二條　前各條ニ依ルノ外買受人ハ名古屋市都市計畫建築敷地處分規程竝同規程施行細則ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第十三條　本契約書ニハ第一項ノ土地ノ位置ヲ表示スル爲見取圖ヲ添付ス

右契約ヲ證スル爲本證貳通ヲ作成シ各壹通ヲ所持ス

昭和何年何月何日

名古屋市長　氏　名

住所

買受人　氏　名

道路損傷負擔規程

昭和八年一月九日
告示第二號

第一條　道路法第四十條ノ規定ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業者ニ對シテハ道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ負擔セシム

一、自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營ム者

二、前號ノ外特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲スモノニシテ市長ノ指定シタル者

第二條　前條事業者ノ負擔金總額ハ其ノ事業ノ爲ニ損傷スル道路ノ區域內ニ於ケル維持又ハ修繕ノ費用ノ三分ノ二以內トス

各事業者ノ負擔金ハ前項ノ金額ニ各事業者ニ付算出シタル損傷率ヲ乘シテ之ヲ定ム

損傷率ハ當該道路ノ區域ニ於テ使用スル車輛ノ種類、重量、速度、數等ニ依リ之ヲ算出ス

第三條　負擔金ハ工事費精算額ニ依リ毎年四月ヨリ九月ニ至ル迄ノ分ハ之ヲ十一月末日ニ十月ヨリ翌年三月ニ至ル迄ノ分ハ之ヲ五月末日ニ徵收ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ本條ノ期限ニ依ラサルコトアルヘシ

第四條　道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ヲ補足スル爲物件、勞力又ハ金錢ヲ寄附シタル者ニ對シテハ其ノ寄附額ノ範圍內ニ於テ負擔金ヲ減免スルコトアルヘシ

前項ノ物件又ハ勞力ニ對スル評價ハ市長ノ認定スル所ニ依リ之ヲ第二條第一項ノ維持又ハ修繕ノ費用ニ算入ス

第二條第一項ニ規定スル負擔金總額ハ前項ノ評價額竝ニ道路ノ維持修繕ノ爲金錢ノ寄附アリタル場合ニ於ケル其ノ金額ヲ控除シタル維持修繕費精算額ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公益事業ノ爲道路ヲ損傷シタル場合又ハ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ負擔金ハ之ヲ減免スルコトアルヘシ

第六條　本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ昭和七年度ヨリ之ヲ施行ス

道路損傷負擔規程施行細則

昭和八年一月九日
告示第三號

第一條　道路損傷負擔規程（以下規程ト稱ス）ニ依ル道路ノ維持又ハ修繕ニ要スル費用ハ步道車道ノ區別アル道路ニ付テハ車道ノ分ニ依ル但シ特ニ步道ヲモ損傷スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　規程第二條第一項ニ依ル道路ノ區域ハ毎年三月及九月中ニ市長之ヲ告示ス

第三條　規程第二條第三項ニ依ル道路損傷率ハ左ノ比率及交通量ヲ參酌シテ之ヲ定ム

車輛ノ種類	區分	比率
乘用自動車	甲　乘用定員（乘務員トモ）二十人以上ノモノ	二、六〇
乘合自動車	乙　乘用定員（乘務員トモ）二十人未滿ノモノ	一、八〇
貨物自動車	甲　車輛ノ積載定量　二千瓩以上ノモノ	四、一〇
	乙　車輛ノ積載定量　二千瓩未滿ノモノ	三、一〇
乘用自動車		一、二〇

第四條　各事業者ノ負擔金ハ同一ノ路線又ハ區間ニ依ル乘合自動車業者二以上アルトキハ車輛ノ區分ニ依ル乘入車輛數（許可車輛數ヲ其ノ他ノ事業者ニ在リテハ乘入車輛ノ種類區分ニ依ル走行哩數ニ比例シテ之ヲ定ム

第五條　前二條ニ依ル車輛ノ種類、區分、數及走行哩數ハ事業者ノ申告ニ依リ市長之ヲ認定ス但シ其ノ申告ナキトキ又ハ申告不當ト認ムルトキハ市長之ヲ決定ス

事業者ハ前項ノ事項ヲ別記第一號樣式又ハ第二號樣式ニ依リ前月分ヲ毎月五日迄ニ市長ニ申告スヘシ

第六條　事業ヲ開始又ハ廢止シタル者ニ對スル負擔金ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第七條　事業ノ開始、廢止其ノ他ノ異動アリタルトキハ直ニ別記第三號樣式ニ依リ市長ニ申告スヘシ

第八條　事業者本市內ニ現在セサルトキハ本市內ニ現住スル者ニ就キ負擔金納付人ヲ定メ市長ニ申告スヘシ

附　則

本細則ハ昭和七年度ヨリ之ヲ施行ス但シ乘合自動車業者以外ノ事業者ニ對シテハ當分ノ內之ヲ適用セス

昭和七年四月ヨリ九月ニ至ル迄ノ負擔金ハ規程第三條ノ納期ニ拘ハラス

昭和八年三月末日限トス

乘合自動車業者ノ本細則公布ノ日以前ニ於ケル車輛ノ種類、區分、數ハ本細則第五條ノ規定ニ拘ハラス市長之ヲ決定ス

本細則第二條ニ依リ九月中ニ爲ス告示ハ昭和七年度ニ限リ昭和八年二月中ニ之ヲ告示ス

別　記

第一號樣式

乘合自動車使用申告書　（昭和何年何月分）

一、車輛ノ區分
二、配車數
（許可車輛數）
三、通過路線名
四、通過區間
五、車輛ノ番號

第何號　第何號

右申告候也

昭和何年何月何日

住所
營業所
氏名印

市長宛

備考

一、本屆書ハ車輛ノ區分ニ依リ通過路線、區間別ニ提出スルコト
二、車輛ノ區分欄ニハ乘用定員（乘務員ヲ含ム）ヲ記載スルコト
三、通過路線名、區間ハ市ノ告示セルモノニ依ルコト

第二號樣式

乘用、貨物自動車使用申告書　（昭和何年何月分）

一、車輛ノ種類
二、車輛ノ積載定量、又ハ乘用定員（乘務員トモ）
三、車輛ノ番號
四、走行哩數

路線名	走行哩數	走行哩數內譯	走行回數	一回平均走行哩數
計				

右申告候也

昭和何年何月何日

住所

營業所
氏名印

市長宛

備考

一、本屆書ハ車輛一臺每ニ提出スルコト
二、車輛ノ種類欄ニハ乘用又ハ貨物自動車ノ區分ヲ記載スルコト
三、路線名ハ市ノ告示セルモノニ依ルコト
四、走行回數ハ片道ヲ一回トシテ計算スルコト

第三號樣式

申告書

一、車輛ノ種類
二、車輛ノ積載定量、又ハ乘用定員（乘務員トモ）
三、車輛ノ番號

右昭和何年何月何日事業開始（休止、廢止、變更、讓受、相續、停止、取消）ニ付申告候也

昭和何年何月何日

住所
營業所
氏名印

市長宛

備考

一、本屆書ハ車輛一臺每ニ提出スルコト
二、車輛ノ種類欄ニハ乘合、乘用、貨物自動車ノ區分ヲ記載スルコト
三、休止、停止ノ場合ハ其ノ期間ヲ記載スルコト
四、乘合自動車業者ニ在リテハ通過路線、區間ノ擴張、縮少等ニ依ル異動ヲモ申告スルコト

道路損傷負擔規程第二條第一項ニ依ル道路ノ區域ニ關スル件

昭和八年二月三日
告示第二十號

路線名	區間
押切線	自名古屋驛菊井町 至菊井町押切町
	自菊井町押切町 至押切心淨
	自名古屋驛名古屋橋 至名古屋驛明治橋
	自明治橋大門前 至大門前稻葉地
	自稻葉地大稻葉橋 至大稻葉橋正
片端線	自菊道井橋町 至明道井橋名古屋城
	自明道井橋名古屋城 至名古屋城津町
	自大津町東片端
名古屋長野線	自東新町東片端 至東片端清水口
	自清水口赤塚 至赤塚口
	自赤塚口山田街道 至山田街道彩江橋界
	自彩江橋曾根 至曾根町大山
	自大山曾口根町 至曾口根町清水川橋
	自清水川橋黑 至黑川水口
山口街道	自兵器口廠町 至兵器口水道濾過池
	自水道濾過池 至水道濾過池
清水線	自清水川橋口 至清水川橋口
布袋線	自山田街道東 至山田街道東
廣小路線	自名古屋城橋 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋驛名古屋橋 至名古屋驛赤塚口
	自赤塚口山田街道 至山田街道
	自山田街道 至山田街道
	自山田街道 至山田街道
	自山田街道 至山田街道
	自山田街道 至山田街道
瀬戸線	自山田街道 至山田街道
廣小路線	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
覺王線	自覺王 至覺王
高岳南線	自高岳 至高岳
江川線	自淨心橋 至淨心橋
	自淨心橋 至淨心橋
	自淨心橋 至淨心橋
	自淨心橋 至淨心橋
	自淨心橋 至淨心橋
	自淨心橋 至淨心橋
	自淨心橋 至淨心橋
國道二十號線	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
川線	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城
	自名古屋城 至名古屋城

路線名	區間
大津町線	自大津町 至大津町榮
	自榮町 至榮町矢
	自矢場町 至矢場上
	自上津前 至上津前澤
	自澤田驛 至澤田熱
	自熱田橋 至熱田內
公園線	自赤塚榮町 至赤塚榮新
	自新榮松町 至新榮老
	自老松前 至老松病
	自病院前園 至病院公
八事街道	自西古井坂裏 至西古井坂
	自古井坂界 至古井坂郡
平針街道	自牛電前卷界 至牛電卷市
	自牛電卷市界 至牛電卷郡
車道線	自榮場町津 至榮場矢
	自矢場前津町 至矢場上
	自上津前 至上津前澤
	自澤田驛上 至澤田熱
	自熱田橋驛 至熱田內
千早線	自赤塚榮町 至赤塚新
	自新榮松町 至新榮老
	自老松田 至老松丸
	自丸田町松 至丸田矢
	自矢場田町 至矢場丸
	自丸田町松 至丸田病
	自病院前路 至病院廣
	自廣小路來 至廣小路新
	自新來出町道 至新來出小
	自出來小路 至出來小路
	自出來小路 至出來小路
	自出來小路 至出來小路

第九類

衛生

掃除監視吏員服裝心得

明治三十三年九月十四日　改正　昭和九年七月二十八日　達第十一號

第一條　監視吏員ノ服裝トハ帽衣袴手套及下襟ヲ着裝スルヲ云フ

第二條　制服ハ左ノ期節ニ依リ交換着用スルモノトス但シ氣候ノ模樣ニ依リ清掃主事ニ於テ變更スル事ヲ得

一、自六月一日至九月三十日　夏服

二、自十月一日至五月三十一日　冬服

第三條　外套ハ雨雪ノ時ノ外防寒ノ爲メニ着用スルハ左ノ期間ニ限ルモノトス

一、自十二月一日至三月十五日

第四條　雨覆ハ雨雪ノ時之ヲ用ユルモノトス

第五條　日覆ハ夏服着用ノ期間内之ヲ着用スルモノトス

第六條　靴ハ總テ黑革製ニ限ルモノトス

第七條　制服ヲ着シタル時ハ特ニ姿勢ヲ正スヘキモノトス

第八條　制服及外套ハ必ス總釦ヲ閉ツルモノトス

第九條　手套、下襟ハ白色ヲ用ヒ肌着ハ成ルヘク色合ノ目立タサルモノヲ用ユヘシ

第十條　事務室内ニ於テハ外套ヲ着用スルコトヲ許サス

第十一條　規定ノ服裝ヲ爲シタルトキハ左ノ所爲ヲ禁スルモノトス

一、襟卷草履等ヲ用ユルコト

二、職務ニ關セサル物品ヲ携帶スルコト

三、制服ノ袖又ハ袴ヲ捲上ケ若クハ之ヲ折返スコト

四、雨雪ノ際ニアラサルニ雨覆ヲ用ユルコト

五、破損シタル靴ヲ用ユルコト

六、泥路ニ短靴ヲ用ヒ乾道ニ長靴ヲ穿ツコト

第十二條　眼病ノ爲メ色眼鏡ヲ用ヒ足痛ニ因リ草履ヲ用ヒントスルモノハ清掃主事ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　制服ハ常ニ保存方ニ注意シ及不潔ナラサルヲ要ス

掃除巡視志願者試驗手續

改正　大正九年四月十日　達第二十六號　昭和九年七月二十八日　達第十三號

第一條　試驗ハ缺員ヲ生シタル場合ニ於テ臨時之ヲ執行ス

第二條　試驗ハ各科目毎ニ左ノ時間内ニ應答セシム

衛生ニ關スル法規　一問題毎ニ三十分

作文　論文又ハ記事文　同　四十分

普通往復文　同　二十分

算術　加減　十五分　乘除　二十分　書　作文ノ書體ニ依リ能否ヲ定ム

第三條　身體ハ强壯ニシテ缺所ナキモノト認ムルニ非ラサレハ採用セス

但シ體格ハ臨時市醫ヲシテ檢査セシムルコトアルヘシ

第四條　試驗問題ハ其部度清掃主事ニ於テ撰擇シ市長ノ認許ヲ受クヘシ

第五條　試驗ノ成績ハ平均六十點以上ヲ以テ合格者トシ六十點未滿及一科零點ナルモノハ不合格トス

第六條　試驗ノ成績ヲ左ノ三種ニ區別ス

（甲）平均八十點以上

（乙）平均六十點以上

（丙）平均六十點ニ滿タサルモノ

第七條　採點法ハ左ノ各號ニ據ル

一、衛生ニ關スル法規（一問題ナルトキハ百點二問題以上ナルモ通シテ百點ニ計算ス）

二、作文論文又ハ記事文七十點尊通往復文三十點

三、算術

四、書　百點

前各號中一、二號ハ一失毎ニ一點乃至十點ヲ減シ三號ハ假令答數ニ相違アリト雖モ算法合式ノ者ハ半數ヲ減ス四號ハ一、二號ニ準シ減點スルモ斟酌ヲ加フルモノトス但シ減點數ハ問題毎ニ豫定シ置クモノトス

第八條　學術試驗ニ不合格ノ者ハ滿六ヶ月間再ヒ試驗ヲ行ハサル旨ヲ志願人ニ指示スヘシ

第九條　試驗結了シタルトキハ採用試驗成績表ヲ作リ清掃主事及立會清掃監督之ニ認印シ關係書類ヲ添付シ市長ノ決裁ヲ受クヘシ

第十條　試驗立會ノ清掃監督ハ市長ニ於テ其都度之ヲ命スルモノトス

雛形

清掃監視採用試驗成績表

住所身分	府縣	市町郡村	士族	平民
氏名年齡				

雛形

體格								

學術						

右調査ノ通　合格ト確認候也

年　月　日

試驗係清掃主事

同　立會清掃監督

同　立會清掃監督

掃除監視吏員禮式心得

明治三十三年九月十四日　改正　昭和九年七月二十八日　達第十二號

第一條　監視吏員ニシテ制服ヲ着シタルトキハ本規程ニ依リ禮式ヲ行フモノトス

第二條　本規程中上司ト稱スルハ清掃監視ノ清掃監督以上清掃監督ノ清掃主事以上清掃主事ノ市長助役保健部長ヲ云フ

第三條　上司ニ對シテハ總テ禮式ヲ行フヲ例トス但シ同僚間ハ勿論一般市吏員及市會議員タルコトヲ認知シタルトキハ禮式ヲ行フヘシ

第四條　禮式ヲ別テ室內禮式室外禮式ノ二種トス

第一　室內禮式ハ敬スヘキ人ニ對シ正面シ姿勢ヲ正シ其眼ニ注目シ右手ニ帽子ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ軀上體ヲ前ニ傾クヘシ但シ帽子ヲ携帶セサルトキハ本項ニ準シ單ニ兩手ヲ垂トスヘシ

二、　室外禮式ハ敬スヘキ人ニ對シ姿勢ヲ正シ右手ヲ擧ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ左手ハ垂下スヘシ但シ物品ヲ携帶セシトキハ之レヲ左手ニ移シ若クハ左脇ニ挾ムヘシ

第五條　室內ニ入ルトキハ帽ヲ脫スヘシ

第六條　室內ニ於テ上司ヨリ書類其他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スルトキハ二三歩ノ所ニ於テ禮式ヲ行フノ後適宜前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ若クハ呈シ舊位ニ復シテ再ヒ禮式ヲ行ヒ退去スヘシ

上司ヨリ命令ヲ受ケ或ハ事ヲ申告スルトキ亦同シ

第七條　上司居室ニ來臨ノトキハ相當ノ敬意ヲ表スヘシ其室ヲ去サルトキ亦同シ

第八條　同僚居室ニ來リ禮式ヲ行フトキハ其儘答禮スヘシ

第九條　乘車ノ儘ニテ行フ禮式ハ其敬スヘキ人ニ注目シテ擧手ノ禮ヲ行フヘシ

第十條　上司ト同行スルトキハ其左側或ハ後方ニ就クヲ例トスレトモ爲メニ上司ニ不便ヲ與ヘサル樣斟酌注意スヘシ

第十一條　廊下階子段等ニ於テ上司ニ出會スタルトキハ適宜通路ヲ讓リ便利ヲ與フヘシ

第十二條　職務上人民ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタルトキハ必ス之レニ答禮スヘシ

第十三條　職務上民家ニ入ルトキハ其場合ニ應シ便宜相當ノ禮ヲ行フモノトス

掃除巡視休暇心得

明治三十三年九月十四日

第一條　巡視ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許ササルヲ例トス然レトモ其勤務上差支ナキニ於テハ皆勤者ニ限リ慰勞ノ爲メニ特ニ休暇ヲ與フル事ヲ得

第二條　半ヶ年以上皆勤者ハ半ヶ年毎ニ一週間ノ休暇ヲ與フ

第三條　皆勤日數ノ計算方ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一、新任者ハ其辭令接受ノ日缺勤者ハ其出勤ノ日ヨリ起算シ三百六十五日ヲ以テ一ヶ年トシ百八十日ヲ以テ半ヶ年トス

二、非番父母祭日及內勤ニ屬スル一般ノ休日ハ總テ皆勤日數中ニ算入

ス

三、忌引慰勞休暇職務上ノ疾病及傳染病ノ爲メ交通遮斷ヲ受ケ出勤ヲ停止セラレタル日數ハ之ヲ控除シテ其前後ヲ通算ス

第四條　休暇ハ其皆勤半ヶ年ニ滿チタル翌日ヨリ起算シ滿一ヶ年ヲ經過スルトキハ之ヲ給與セサルモノトス

第五條　事務繁劇ノ場合ニ於テハ全ク休暇ヲ與ヘス若ハ之ヲ與ヘタル後モ半ニシテ出勤ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　休暇ヲ與ヘタルトキハ監督長ヨリ市參事會ヘ報告スヘシ

屠場處務規程

昭和三年五月二日
達第四十四號

第一條　屠場ニ左ノ職員ヲ置ク

一、場長

二、書記

前項ノ外必要ナル職員ヲ置クコトヲ得

第二條　場長ハ市長ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌理シ書記以下ヲ指揮監督ス

場長事故アルトキハ特ニ指定シタル者之ヲ代理ス

第三條　場長ハ屠場使用者ノ使用料納付證ヲ檢閲シタル後屠殺解體セシムヘシ

第四條　場長ハ毎年一月十五日限前一箇年ノ事務成績ヲ市長ニ報告スヘシ

第五條　宿直ハ一名トシ書記又ハ場長ニ於テ特ニ命シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ市長ノ認可ヲ經テ場長之ヲ定ム

第七條　本規程ニ定ムルモノヽ外名古屋市處務規程ヲ準用ス

城東病院處務規程

大正六年三月三十一日
達第九號

廢止　大正九年三月三十一日達第二十一號　昭和三年四月二十日達第二十九號

第一條　院長ハ市長ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

院長事故アルトキハ醫長又ハ上席醫員之ヲ代理ス

醫長及醫員ハ院長ノ命ヲ承ケ患者ノ診療病毒傳播ノ豫防並ニ消毒ニ從事ス

藥劑員ハ院長ノ命ヲ承ケ調劑及藥品鑑定ニ從事ス

書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務會計及院內ノ取締等ニ從事ス

看護婦長ハ上司ノ命ヲ受ケ患者ノ看護病室ノ整理及看護婦附添人等ノ取締ニ從事ス

第二條　院長ハ毎年一月十五日限リ前一ヶ年ノ事務成績ヲ市長ニ報告スヘシ

第三條　宿直ハ醫員一名書記一名其他院長ニ於テ必要ト認メタル者ヲシテ之ヲ爲サシムルモノトス

第四條　本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ市長ノ認可ヲ經テ院長之ヲ定ム

第五條　本規程ニ定メタルモノヽ外名古屋市處務規程ヲ準用ス

附則

第六條　本規程ハ大正六年四月一日ヨリ施行ス

城東病院處務細則

大正六年六月十八日
決裁

第一章　職務分掌

第一條　本院ニ醫務室、藥室、事務室ヲ置ク其分掌左ノ如シ

醫務室

一、患者診療ニ關スル事項

二、細菌檢査病理檢査ニ關スル事項

三、病床日誌ニ關スル事項

四、患者飲食物ノ指定並ニ之カ檢査ニ關スル事項

五、清潔及消毒其他衛生方法ノ指定監督ニ關スル事項

六、病室ノ整理ニ關スル事項

七、患者配當ニ關スル事項

八、病室ノ非常準備ニ關スル事項

九、統計ニ關スル事項

藥室

一、調劑及製煉ニ關スル事項

二、藥品其他ノ鑑定ニ關スル事項

三、飲食物ノ試驗ニ關スル事項

四、處方錄保管ニ關スル事項

五、器具機械及藥品其他物品ノ受拂並ニ保管ニ關スル事項

六、藥室及附屬室ノ整理並ニ取締ニ關スル事項

七、藥物ノ統計及報告材料ニ關スル事項

事務室

一、患者入退院患者名簿及付添人、面會人ニ關スル事項

二、患者並ニ付添人所持金品ノ保管ニ關スル事項

三、文書ノ收受發送及保管ニ關スル事項

四、公印保管ニ關スル事項

五、院內取締ニ關スル事項

六、清潔及消毒其他衛生方法ノ實施ニ關スル事項

七、職員其他ノ進退身分ニ關スル事項

八、勤怠簿ノ調査ニ關スル事項

九、雇傭員ノ勤惰監督ニ關スル事項

十、調度ニ關スル事項

十一、營繕（電燈、水道ヲ含ム）ニ關スル事項

十二、物品ノ受拂及保管ニ關スル事項

十三、晌監督ニ關スル事項

十四、統計及報告ニ關スル事項

十五、他室ニ屬セサル事項

第二章　醫務室

第二條　醫員ハ患者診療、細菌檢査、病理檢査、病床日誌作製其他豫防消毒一般衛生事務ニ從事スヘシ

第三條　醫員ハ院長回診ノ際各患者ニ就キ病床經過及其他必要事項ヲ申告スヘシ

第四條　醫員回診ハ毎日午前午後各一回トス但シ重症患者ニ對シテハ此限リニアラス

第五條　醫員ハ各患者ノ病床日誌ヲ作製シ醫長ノ閲覽ニ供スヘシ

第六條　醫員ハ細菌檢査及病理檢査ヲ行ヒタル場合ハ其成績ヲ檢査簿ニ記載スヘシ

第七條　醫員ハ患者ノ食品ヲ檢査シ其適否ヲ指示スヘシ

第八條　患者入院ニ際シテハ醫員ハ直ニ之カ診察シ其收容スヘキ病室ヲ指定シ看護婦ナシテ之カ準備ヲ爲サシムヘシ

第九條　醫員新入院患者ヲ診察シタルトキハ左記各項ノ手續ヲ爲スヘシ

一、處方錄及病床日誌ヲ調製スルコト

二、患者ニ對シ特ニ注意スヘキ點ハ之ヲ看護婦ニ指示シ置クコト

第十條　醫員ハ特ニ病室ノ清潔竝ニ整頓ニ注意スヘシ

第十一條　醫員ハ非常事變ノ場合患者ノ處置ニ關シ常ニ左記各項ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

一、入院患者中擔送ヲ要スルモノハ其病室入口又ハ寢臺ニ赤札ヲ護送ヲ要スルモノハ青札ヲ掲ケ置クコト

二、非常用擔架及背負紐ハ常ニ各病室ノ入口ニ備ヘ置クコト

三、患者及付添人ニハ豫メ非常立退所ヲ知ラシメ置クコト

四、非常事變ノ場合患者ニ對スル處置ハ看護婦ヲシテ常ニ之ヲ演習セシムルコト

第十二條　醫員ハ患者病勢增進危篤死亡ノ場合ハ直ニ其氏名ヲ事務室ニ通報スヘシ

第十三條　醫員院內感染者ヲ診斷シタルトキ又ハ患者死亡シタルトキハ直ニ屆書ヲ作製シ事務室ニ回付スヘシ但シ全治亦ハ事故退院ノ場合又同シ

第十四條　入院患者ヲ轉室セシメタルトキハ直ニ事務室ヘ通知スヘシ

第十五條　病室ニ必要ナル器具機械ハ帳簿ニ依リ看護婦長ニ捺印セシメ置クヘシ

第十六條　隔離者收容ノ場合ハ一日二回（午前午後）健康診斷ヲ施行シ其狀況ヲ記載捺印シ院長ニ報告スヘシ

第十七條　醫員ハ常ニ看護婦ニ對シ修得シアル學科竝ニ術科ニ付テ之ヲ練習セシムヘシ

第十八條　醫員ハ常ニ小使及消毒人夫竝ニ洗濯婦等ニ對シ傳染病大意消毒法大意等ヲ講話スヘシ

第十九條　醫員ハ治療竝ニ衛生記事ノ統計ヲ作製シ翌年一月十日迄ニ院長ニ提供スヘシ

第三章　藥　室

第二十條　藥室ハ治療及檢査用藥品ヲ貯藏シ調劑員之カ出納ヲ爲スモノトス

第二十一條　調劑員ハ藥品ノ調劑、鑑定、飲食物、化學的檢査ニ從事スルモノトス

第二十二條　調劑員ハ藥室及附屬室ノ取締ノ責ニ任シ調劑器具等ハ一定ノ場所ニ整置スヘシ

第二十三條　調劑ハ總テ醫員ノ處方ニ依ルヘシ

第二十四條　內服藥、外用藥、消毒藥等ハ調劑員之ヲ看護婦ニ交付シ一々其用法ヲ指示スヘシ

第二十五條　調劑員調劑シタルトキハ之ニ捺印スヘシ

第二十六條　調劑員ハ退院患者ノ處方錄ヲ取纏メ保管スヘシ

第二十七條　調劑員鑑定竝ニ藥品及飲食物檢査ヲ爲シタルトキハ其成績ヲ檢査簿ニ記入シ院長ニ報告スヘシ

第二十八條　調劑員ハ常ニ院內各所配置ノ消毒藥ニ注意シ空乏ナカラシムヘシ

第二十九條　調劑員ハ治療及調劑器具受拂簿竝藥品、治療用消耗品受拂簿ヲ備ヘ其出納ヲ詳記スヘシ

第三十條　調劑員ハ藥物消費統計（價格ヲモ記入セル）ヲ作製シ之ヲ月表及年表ニ區分シ月表ハ翌月五日マテニ年表ハ翌年一月十日迄ニ院長ニ提出スヘシ

第四章　事　務　室

第三十一條　事務室ハ院內ニ於ケル庶務、會計及雇傭員ノ勤惰ヲ監督スルモノトス

第三十二條　事務室ニ主任ヲ置キ主席書記之ニ任ス

第三十三條　患者ノ入退院ハ左ノ手續ニ依リ處置スルモノトス

一、患者入院シタルトキハ患者送付狀ニ依リ患者臺帳ニ記入シ入院時刻ヲ添記シ醫務室ニ回付スヘシ

二、患者ノ住所氏名年齡竝ニ入院月日ヲ記シタル名標ヲ看護婦ニ交付シ之ヲ病院入口ニ掲ケシムヘシ

三、患者ノ轉歸及院內感染者ノ通知ヲ受ケタルトキハ臺帳ニ記入シ市衛生課ニ通報ノ手續ヲ爲スヘシ但シ患者全治ノ場合ハ家族或ハ其知己ニ渡シ未治ノ患者ニシテ他病院ヘ轉送ノ者ハ其筋ノ許可ヲ受クヘシ死亡者ハ別ニ定ムル內規ニ依リ之ヲ取扱フ

第三十四條　書記ハ公印ヲ保管スヘシ公印ハ左ノ如シ

名古屋市
城東病院
長之印

名古屋市
城東病院
長之印

第三十五條　書記ハ病院ニ關スル細大ノ事項ニ注意シ之ヲ日誌ニ記載スヘシ

第三十六條　書記ハ時々院內ヲ巡視シ一般ノ取締ニ任スヘシ

第三十七條　書記ハ患者滋養品、食品ノ受入及交付簿ヲ備ヘ醫員ノ處方ニ依リ各廚人ヨリ納入セシメ之カ受拂ヲ明記スヘシ

書記ハ入院患者ノ食費、藥價ヲ毎月末日竝ニ退院ノ際精算シ本市收入役ニ納入セシムルモノトス但シ其納入ニ堪ヘサル者アリタルトキハ之カ手續ヲナサシムヘシ

第三十八條　書記ハ備品受拂簿消耗品受拂簿ヲ作製シ其出納ヲ詳記スヘシ

第三十九條　書記ハ器具機械竝ニ消耗品等ノ購求修理ヲ要スルトキハ院長ノ決裁ヲ經テ市長ニ請求スヘシ

第四十條　書記ハ院內一般營造物ニ注意シ修繕竝ニ改造新設ヲ要スルトキハ院長ノ決裁ヲ經テ市長ニ請求スヘシ

第四十一條　本院ニ到達ノ文書ハ總テ書記ニ於テ收受シ其取扱ハ最迅速確實ヲ旨トシテ普通文書ハ直ニ開封シ文書收受簿ニ登錄シ本書ニハ收

受月日及番號ヲ記シ院長ノ閲覧ニ供シ關係文書ハ醫員調劑員ノ回覧ニ付スヘシ但シ親展文書ハ封緘ノ儘文書收受簿ニ登錄シ院長ニ差出スヘシ

第四十二條　電報ヲ受ケタルトキハ他ノ文書ニ先タチ前條ノ手續ヲナスヘシ

第四十三條　患者及付添人宛文書ヲ受ケタル場合ハ受授簿ニ發信人及受信人ノ氏名ヲ記シ看護婦長ニ交付捺印セシムヘシ電報收受ノ場合亦同シ

第四十四條　書記ハ雇傭員ノ勤務ヲ監督シ時々其狀況ヲ院長ニ申告スヘシ

第四十五條　書記ハ賄所ヲ監督シ特ニ清潔ニ注意スヘシ

一、病室其他病毒汚染ノ疑ヒアル場所ヨリ持チ來タリタル食物竝ニ器具ハ消毒施行ノ上ニアラサレハ取扱ハシムヘカラス

二、厨夫ニ對シテハ特ニ身體ノ清潔ヲ保持セシメ時々健康診斷ヲ受ケシムヘシ

第四十六條　患者携帶金品ノ取扱ハ左ノ手續ニ依ルヘシ

一、患者ハ金錢其他貴重品及病室ニ必要ナキ物品ヲ病室内ニ携帶スルコトヲ得サルモノトス

二、患者ノ病室内ニ携帶セサル物品ハ一々帳簿ニ記入シ消毒ノ上事務室ニ於テ之ヲ保管スヘシ但シ帳簿ヘ記入ノ際ハ患者又ハ付添人ヲ立會ハシムルヲ要スルモ患者無意識ナルカ或ハ付添人ナキトキハ書記ニ於テ調査ノ上其旨帳簿ニ記入シ保管スルモノトス

三、保管スヘキ物品ハ木札ヲ付シ之ニ氏名入院番號ヲ記シ置クヘシ

四、患者ノ携帶品ニシテ汚染甚シク再ヒ其用ニ堪ヘスト認メタル物ハ患者或ハ付添人ニ承諾セシメ之ヲ燒却スルコトヲ得但シ燒却シタル場合ハ其事由ヲ帳簿ニ明記シ置クヘシ

五、事務室保管ノ携帶品ヲ還付セントスルトキハ帳簿ト對照シ正當受領人タルコトヲ調査シタル上交付捺印セシムヘシ

第四十七條　書記ハ患者ノ病狀增進危篤死亡等ノ通知ヲ受タルトキハ適宜ノ方法ニ依リ可及的速ニ其家族若クハ關係人ニ通知スヘシ

第四十八條　隔離者收容ノ場合ハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第四十九條　書記ハ毎年一月十日迄ニ前一ヶ年間ノ所管事務成績ヲ院長ニ提出スヘシ

第五十條　事務室ニ院内簿冊目錄ヲ備ヘ置クヘシ

第五章　機關手

第五十一條　機關手ハ事務室ニ屬シ書記ノ命ヲ承ケ火夫ヲ使役シ蒸汽消毒器及機關ノ取扱竝ニ運用ニ從事スルモノトス

第五十二條　機關手ハ機關ノ使用期間ニ注意シ檢査上遺漏ナキヲ期スヘシ

第五十三條　機關手ハ機關室及消毒室ノ整理清潔ニ注意シ特ニ火氣ノ取扱ニ注意スヘシ

第五十四條　機關手ハ燃料蒸氣等ノ節約ニ注意シ毎月一回燃料ノ使用高其他必要ナル事項ヲ事務室ニ報告スヘシ

第六章　看護婦

第五十五條　看護婦中看護婦長一名同副長一名ヲ置ク副長ハ婦長ヲ保佐シ婦長事故アルトキハ代理スルモノトス

第五十六條　婦長ハ患者ノ看護病室其他看護婦付添人等ノ取締ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第五十七條　婦長ハ治療機械器具其他病室備付物品保管ノ責ニ任スヘシ

第五十八條　婦長ハ患者ノ看護及病室ノ整理ニ關シテハ醫員ノ指揮ヲ受ケ其他ノ事務ニ關シテハ書記ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十九條　婦長ハ醫員ノ指示ニ依リ看護婦ニ勤務ノ割當ヲ爲シ患者ノ看護及豫防消毒上ノ注意ヲ與ヘ之カ實行ヲ督勵スヘシ

第六十條　婦長ハ時々病室ヲ巡視シ物品ノ整否及看護婦ノ勤怠ニ注意スヘシ

第六十一條　婦長ハ醫員回診ノ節隨從スヘシ

第六十二條　看護婦ハ時々病室ノ内外ヲ掃除シ常ニ清潔ヲ保持シ猶醫員ノ命ヲ受ケ檢査室ノ整理清潔ニ任シ雜務ニ從事スヘシ

第六十三條　看護婦ハ病室ノ火氣ニ注意シ蹂虞ノコトナカラシムヘシ

第六十四條　看護婦患者入院ニ際シテハ醫員ノ命ヲ受ケ病室ヲ準備シ速ニ收容ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十五條　看護婦重症患者ニ對シテハ常ニ其看侍ヲ怠ラス時々醫員ニ其病狀ヲ申告スヘシ

第六十六條　患者死亡シタルトキハ當該看護婦ハ直ニ醫員及事務室ニ報告シ死體ハ別ニ定ムル内規ニ依リ處置スヘシ

第六十七條　看護婦患者及附添人ヨリ信書又ハ物品ノ發送ヲ委託セラレタルトキハ消毒ノ上事務室ニ提出スヘシ看護婦自己ノ書信發送ノ場合亦同シ

第六十八條　看護婦ハ院内ト雖モ猥リニ無用ノ箇所ニ出入スヘカラス

第七章　宿　直

第六十九條　看護婦外出セントスルトキハ消毒ノ上醫員ノ承認ヲ得テ事務室ニ屆出ツヘシ歸院シタルトキ亦同シ

第七十條　看護婦ノ外出ハ勤務時間外トス但シ止ムヲ得サル場合ハ此限ニ非ス

第七十一條　臨時雇入看護婦ハ婦長ノ指揮監督ヲ受ケ本細則ヲ遵守スヘシ

第七十二條　宿直員ハ院内ニ非常時變アルトキハ同心得ニ依リ處置スヘシ

第七十三條　宿直醫員ハ在院患者ニ注意シ重症者ニ對シテハ殊ニ看護治療ニ遺漏ナキヲ期スヘシ

第七十四條　宿直醫員竝書記ハ宿直中ノ事項ヲ宿直日誌ニ記載スヘシ

第七十五條　宿直書記ハ院内ヲ巡視シ警火ニ注意シ且ツ雇傭人ノ風紀ヲ取締ルヘシ

トラホーム治療所規程

昭和四年三月十五日告示第三十五號

改正　昭和五年四月一日告示第百六十四號　昭和七年三月三十一日告示第二百三十七號

第一條　「トラホーム」治療所ハ本市住民中「トラホーム」患者ニシテ醫療ノ資力乏シキ患者ノ診療ヲ爲ス所トス

第二條　本治療所ハ往診ヲ行ハス

第三條　「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受ケムトスルモノハ名古屋市

無料診療規程又ハ診療上ノ食費藥價徴收規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四條 診療時間ハ日曜日及大祭祝日ヲ除キ左ノ通トス

四月一日ヨリ七月二十日迄及九月一日ヨリ十月三十一日迄ハ午前八時ヨリ午後五時迄但シ土曜日ハ午後一時迄トス

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ハ午前八時ヨリ午後一時迄、十一月一日ヨリ三月三十一日迄、ハ午前九時ヨリ午後五時迄但シ土曜日ハ午後一時迄トス

附則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

トラホーム治療所處務規程

昭和四年三月十五日 達第四號

第一條 「トラホーム」治療所ハ市役所保健部ニ屬シ「トラホーム」治療ニ關スル事務ヲ處理ス

第二條 本治療所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人
醫員 若干人
書記 若干人
看護婦 若干人

前項ノ必要ニ應シ雇傭人ヲ置クコトヲ得

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ上司ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督ス

所長事故アルトキハ上席ノ醫員之ヲ代理ス

第四條 醫員ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

醫員ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務ニ從事ス

臨時必要アルトキハ醫員ヲ囑託スルコトアルヘシ

第五條 書記以下ハ所長ノ命ヲ承ケ所内ノ庶務ニ從事ス

第六條 本規程ニ定ムルモノヽ外名古屋市處務規程ヲ準用ス

城東病院規則

大正九年六月一日 告示第七十號

改正 昭和三年四月二十日 告示第百九十號

第一條 市立城東病院ハ法定傳染病及其他市長ニ於テ特ニ必要アリト認ムル傳染病患者若クハ其ノ疑ヒアル者ヲ隔離收療並傳染病ニ關スル病原檢索ノ爲メ之ヲ設置スルモノトス

第二條 城東病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 一人
醫長 一人
醫員 若干人
藥劑員 若干人
書記 若干人
看護婦長 若干人

第三條 傳染病流行ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ分院ヲ設置スルコトヲ得

第四條 前條分院ハ臨時之ヲ開設シ其ノ開設中左ノ職員ヲ置ク

醫員 若干人
藥劑員 若干人
書記 若干人

第五條 病院及分院ニハ必要ニ應シ看護婦、使丁、火夫、消毒夫其ノ他雜役婦等ヲ置クコトヲ得

第六條 市内ノ醫師ハ病院長ノ許諾ヲ受ケ院内指定ノ場所ニ於テ傳染病ニ關スル病原ノ檢索ヲ爲スコトヲ得

第七條 入院患者ハ病院長ノ許可ヲ受ケ特ニ院外醫師ノ來診ヲ求メ又ハ附添ノ看護人ヲ使用スルコトヲ得

第八條 病院ハ必要ニ應シ看護婦ノ養成ヲ爲スコトヲ得

八事療養所規則

大正十年三月五日 告示第二十號

昭和三年四月二十日 告示第百九十二號

第一條 市立八事療養所ハ法令ノ定ムル結核患者ノ診療ヲ爲ス所トス

第二條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク

一、所長 一人
二、事務長 一人
三、醫長 一人
四、醫員 若干人
五、藥劑員 若干人
六、技手 若干人
七、書記 若干人
八、看護婦長 若干人

第三條 本所ハ必要ニ應シ看護婦ノ養成ヲ爲スコトヲ得

第四條 市内ノ醫師ハ所長ノ許諾ヲ受ケ所長指定ノ場所ニ於テ結核診斷上必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第五條 入所患者ハ所長ノ許可ヲ受ケ特ニ所外醫師ノ來診ヲ求メ又ハ附添看護人ヲ使用スルコトヲ得

附則

本則施行期日ハ市長之ヲ定ム

傳染病豫防救治者手當支給規則

明治三十四年度 第四十五號議決

改正 昭和七年四月一日 告示第二百四十二號

第一條 傳染病豫防救治ニ從事スル有給吏員以下ニシテ執務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ本規則ニ定ムル處ニ依リ手當金ヲ給ス

第二條 前條ノ手當金ハ左ノ四種トス

一、療治料
二、給助料

三、弔　祭　料

四、遺族扶助料

第三條　療治料ハ病毒ニ感染シタル者ニ療養ニ要スル實費ノ範圍内ニ於テ之ヲ給與ス

本市ノ施設ニ係ル治療所ニ於テ無料ニテ治療シタルトキハ前項ノ費用ヲ給與シタルモノト看做ス

第三條ノ二　市ハ療治料ヲ受クル者ニ對シ診療ノ醫師又ハ病院ヲ指定スルコトアルヘシ

前項ノ指定ニ從ハサルトキハ療治料ヲ給與セス

第四條　給助料ハ感染者ノ治癒シタル者ニ給ス其額ハ年俸十二分ノ三以内月俸三ヶ月分以内又ハ日給九十日分以内ニ於テ市長之ヲ定ム

第五條　弔祭料ハ死亡者ノ遺族ニ給ス遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ給ス其額ハ年俸十二分ノ一月俸一ヶ月分又ハ日給三十日分トス

第六條　遺族扶助料ハ感染者ノ死亡シタルトキ其遺族ニ給ス其額ハ年俸一ヶ年分以内月俸十二ヶ月分以内又ハ日給三百六十五日分以内ニ於テ市長之ヲ定ム

第七條　名譽職員公務ノ爲メ傳染病ニ感染シタルトキ療治料一日參圓及全快ノ後金百五拾圓若死亡シタルトキハ祭資料參百圓ヲ給ス

第八條　削除

第九條　傳染病豫防救治ニ從事スル有給吏員以下ニシテ專ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ其從事中特ニ月手當ヲ給スルコトヲ得其額ハ受クル者ノ給料額三分ノ一以内ニ於テ市長之ヲ定ム

第十條　削除

附　則

第十一條　明治二十八年八月十日市會ノ決議ニ係ル傳染病豫防救治吏員手當ノ件ハ此規則ノ實施ト同時ニ之ヲ廢止ス

汚物掃除規則

明治三十三年度第二十九號議決

第一條　汚物ハ左ノ區別ニ依リ掃除ス

一、掃除義務者ノ蒐集シタル塵芥ハ毎月五回汚泥ハ毎月一回但シ土地狀況其他ノ原由ニ依リ必要ナル場合ハ毎日若クハ隔日一回

二、魚鳥及青物市場ハ毎日一回

三、市ノ義務ニ屬スル場所ハ隨時公共溝渠ノ汚泥浚渫ハ毎年二回

第二條　汚物運搬ハ本市ニ於テ人夫ヲ使役シ又ハ本市入札受負規則ニ據リ受負人ヲシテ運搬セシムルコトアルヘシ

第三條　汚物掃除ハ主務吏員ヲ派出シ之ヲ監視セシムヘシ

第四條　汚物運搬ニ付實際上不都合アルトキハ掃除義務者ハ主務吏員又ハ市役所ヘ申出ヘシ

附　則

第五條　本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

掃除監視吏員事務所ノ名稱、位置管轄區域

大正十年三月七日告示第二十一號

改正　大正十年八月二十七日告示第百六號　大正十一年十二月十九日告示第百七十號　昭和六年四月十六日告示第八十一號　昭和十年五月三十一日告示第二百八號

名稱	位置	管轄區域
名古屋市保健部	名古屋市東區清掃課東部出張所	名古屋市東區ノ内、萩岡町、仁座町、四谷通、不老町、田代町、鍋屋上野町、北千種町、弦月町、松軒町、若水町、振甫町、千種町、石神本町、赤萩町、高松町、花田町
同	名古屋市東區西部出張所	名古屋市東區ノ内
同	名古屋市東區役所構内	東區東部出張所管轄區域ヲ除ク
同	名古屋市西區出張所	名古屋市西區ノ内
同	名古屋市西區役所構内	名古屋市西區一圓
同	名古屋市中區東部出張所	名古屋市中區ノ内
同	名古屋市中區役所構内	中央線鐵道線路及新堀川以東
同	名古屋市中區中部出張所	名古屋市中區ノ内
同	名古屋市中區役所構内	鐵魂町、末廣町、門前町、橋町、及古渡町ヲ除ク以東、但シ中區東部出張所管轄區域ヲ除ク
同	名古屋市中區西部出張所	名古屋市中區ノ内
同	名古屋市中區水主町三丁目十一番地	鐵魂町、末廣町、門前町、橋町、及古渡町ヲ含ム以西
同	名古屋市南區南部出張所	名古屋市南區ノ内
同	名古屋市南區東築地五十九番地	惟信町、寶神町、鴨浦、稲永新田、錦町、寛政町、當知町、土古町、小碓町、築地三號地、築地四號地、鰹町、佐野町、幸町、中ノ島通、中川本町、金船町、新川町、玉船町、日砂町、玉川町、港町、新船町、眞本町、磯端町、金川町、中川町、濱鳥町、河倉町、北倉町、寶來町、西倉町、千鳥町、南倉町、元船町、高砂町、海岸通、熟田前、入船町、熱田新田、東築地、千年町、東築地、五號地、潮見町、大江町、明治町、昭和町、豊田町、組町、船町、新堀川以北ノ院、上田町、元浮島、繰通、中通町、豊本通、蒲屋敷町、太郎町、繰出町、熱田東町、以東全部、熱田町、東町内濱、熱田前町、熱田東町、田東町、新開、熱田町、櫻町、呼續町、西櫻町、本町、濱新町、若草町、春日野、扇田町、櫻田町、貝塚町、彌生町、見晴町、元櫻町、白雲町、鳴尾町、笠寺町、本星崎町、星崎町、鶴見通、鳴濱町、三吉町、松下町、源兵衛町
同	名古屋市南區南部出張所役所構内	名古屋市南區ノ内南區南部出張所管轄區域ヲ除ク

斃鼠捕鼠買上手續

大正五年十月十七日告示第八十三號

改正　大正五年十一月十一日告示第九十八號　大正六年一月二十九日告示第一二十號　大正七年六月十一日告示第七十一號　昭和三年四月二十日告示第百九十三號　昭和四年九月二十六日告示第百四十號

一、鼠一頭金壹錢ニテ買入レ直ニ現金ヲ交付ス

二、買入場所

名古屋驛附近

名古屋驛前、鵜垂、六ノ内、牧野町各巡査派出所

熱田驛附近

熱田驛前巡査派出所、市保健部清掃課南區出張所

千種驛附近

千種驛前、塚越町各巡査派出所

大曾根驛附近

大曾根驛前巡査派出所

堀川兩岸附近

壗町、傳馬橋、江川町、正木町、白鳥町、大瀬子町、下廣井町、西古渡町、新尾頭町、神宮東門、蘇鐵町、千年、南外堀町、新柳町各巡査派出所

市保健部清掃課西區出張所、同中區西部出張所

新堀川兩岸附近

大池町、傳馬町、明治新田各巡査派出所

市保健部清掃課中區東部出張所

西築地

築地口、海岸通各巡査派出所、熱田前新田巡査駐在所、築地署

東築港

東築地巡査派出所

鼠買上代金並奬勵金現金前渡取扱手續

大正五年十月三十日 達第二一二十二號

改正 大正六年一月二十九日 達第一號 昭和七年十月六日 達第十六號

第一條 鼠買上代金並奬勵金ハ保健部ニ於テ調定シ仕拂手續ヲ爲シ現金ヲ保健部長ニ前渡ス

第二條 保健部長ハ別ニ定ムル所ニ依リ鼠ノ處理ヲ爲シ買入臺帳（第一號樣式）ニ買入頭數其ノ他ノ事項ヲ記載スヘシ

第三條 奬勵金ハ當籤シタル籤札持參人ニ籤札ト引換ニ交付スヘシ

第四條 保健部長ハ出納簿（第三號樣式）ヲ調製シ其出納ヲ整理シ毎月精算書（第四號樣式）ヲ翌月一日市長ニ提出スヘシ

第一號樣式

番號	現金受渡	買入月日	買入頭數 乾鼠	買入頭數 鼠生鼠	支拂高	差引殘高
何々第號						

附　則

第六條　本規程ハ明治四十五年四月一日ヨリ施行ス

徴兵適齢者身體豫備檢診取扱手續

明治四十五年三月二十六日
訓示第三號

第一條　徴兵適齢者身體豫備檢診ノ場所ハ其區内便宜ノ位置ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條　豫備檢診期日ハ徴兵檢査期日二ケ月前ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ明治四十五年ハ特ニ四月一日ヨリ同十日迄ニ之ヲ定ムヘシ

第三條　區長ニ於テ徴兵適齢者身體豫備檢診規程第二條ノ通達ヲ爲シタルトキハ直チニ日時場所及豫備檢診ヲ受クヘキ者ノ數ヲ市長ニ報告スヘシ

第四條　被檢診者中檢診ノ期日參集セサル者アルトキハ區長ハ更ニ期日ヲ定メ檢診ヲ受ケシムヘシ被檢診者中ニシテ他ノ區ニ住スル者ハ其區長ニ檢診ヲ嘱託スルコトヲ得

第五條　區長ハ檢診ノ結果疾患者アリタル場合ハ（第一號樣式）ノ治療票ヲ交付シ治療ヲ受ケシムヘシ區長ハ疾患者ヲシテ受診ノ都度治療票ニ醫師ノ認印ヲ受ケシメ徴兵檢査期日五日前ニ提出セシムヘシ

第六條　徴兵適齢者身體豫備檢診規程第五條ニ依リ市費治療ヲ出願シタル者アルトキハ其生活程度ヲ調査シ市費治療出願者調査表（第二號樣式）ヲ調製シ市長ニ提出スヘシ

第七條　區長ハ徴兵檢査開始期日迄ニ（第三號樣式）ノ檢診成績表ヲ作リ市長ニ提出スヘシ

第一號樣式　（用紙洋紙）

表面

檢診票

本籍地	名古屋市　區　町　番
病名	
氏名	
摘要	

檢診ノ結果無病ノ者ハ本票ヲ返還シ疾患者ハ裏面ノ注意事項承知ノ上速カニ治療ヲ受ケラルヘシ

年　月　日　區　長

三寸　四寸五分

裏面

治療

注意

一、治療ヲ受ケタル都度左欄相當月日ニ主治醫ノ認印ヲ受クルコト

二、全治シタルトキハ其旨表面摘要欄ニ主治醫ノ記入調印ヲ受ケ速カニ當所ヘ返納スルコト

三、貧困者ニシテ施療ヲ受ケントスル者ハ至急區長ニ願出ツヘシ

四、本表ハ治療不治癒ニ拘ハラス五月　日迄ニ區役所ニ返納スルコト

月日	
月日	
月日	

備考

屠場使用料條例

明治四十三年四月二十三日
條例第四號

改正　大正三年三月三十一日條例第十三號　大正八年十二月二十七日條例第三號　昭和八年四月八日條例第七號

第一條　市制第百十三條ニ依リ屠場使用者ヨリ左ノ使用料ヲ徴收ス

一、牛　壹頭　金壹圓四拾錢
一、馬　壹頭　金壹圓貳拾錢
一、犢、羊、豚各　壹頭　金五拾錢

第二條　屠場使用料ハ屠場使用請求ノ際之ヲ徴收ス

第三條　獸畜營業者若ハ獸肉販賣業者ハ年度内ニ限リ豫メ頭數ヲ定メ其頭數ニ相當スル使用料ヲ豫納スルコトヲ得

城東病院消毒所貸與規程

大正四年六月二十六日
告示第八十號

第一條　本市傳染病院消毒所ヲ使用セントスル者ハ本規程ニ依ルヘシ

第二條　傳染病院消毒所ノ使用ハ公衆衛生上必要ナル消毒ヲ爲サントスル者ニ限ト之ヲ許可ス

第三條　傳染病院消毒所ヲ使用セントスル者ハ左記事項ヲ記載シタル願書ヲ提出シ許可ヲ受クヘシ

一、使用目的
二、使用期間

第四條　傳染病院消毒所ノ使用許可ヲ受ケタル者ハ其使用ニ要スル一切ノ費用ヲ負擔シ使用ノ爲消毒所ノ裝置ニ破損ヲ生シタル場合市ノ指揮ニ依リ之カ修繕ヲ爲スヘシ

前項ノ修繕ヲ怠リタル場合ハ市ニ於テ執行シ若クハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ使用者ヨリ徴收ス

第五條　使用期間中ト雖モ市ニ於テ必要ヲ生シタルトキハ一時其使用ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ市ノ指揮ニ違反シタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ使用者ニ損害アルモ市ハ其責ニ任セス

名古屋市墓地及葬齋場使用條例

大正三年二月四日
條例第一號

改正　大正三年九月三十日條例第九號　大正四年一月二十六日條例第一號　大正四年四月九日條例第二號　大正八年十一月十七日條例第二號　大正九年六月二十一日條例第六號　昭和三年四月一日條例第九號ノ二　昭和四年三月十四日條例第一號　昭和六年三月三十一日條例第五號　昭和十年四月八日條例第七號

第一條　墓地及葬齋場ヲ使用セムトスル者ハ市長ニ願出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ於テ葬齋場トハ火葬場、葬儀場及其ノ附屬施設物タル遺骸保管室、休憩室、葬儀自動車、燒却所等ヲ謂フ以下同シ

第二條　墓地及葬齋場使用ノ承認ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ使用料ヲ納付スヘシ

一、墓地　別表ニ定ムル所ニ依ル
二、火葬場
　遺骸　一體　一圓以上　十圓以下
三、葬儀場
　一回　一圓以上　十圓以下
四、葬儀自動車
　一回一臺　一圓以上　三圓以下
五、遺骸保管室
　一棺一日　五十錢以上　一圓以下
六、休憩室
　一回一室　五十錢以上　一圓以下
七、燒却所
　斃獸　一頭　五十錢以上　十五圓以下

第三條　市長ハ特別ノ事由アリト認ムルトキハ前條ノ使用料ヲ減免スルコトヲ得

第四條　市長ハ必要アリト認ムルトキハ墓地及葬齋場ヲ他ノ用途ニ使用ノ許可ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル使用料ニ關シテハ市長之ヲ定ム

第五條　市長ハ墓地及葬齋場ノ使用ニ關シ管理上必要ナル制限ヲ爲スノ外使用ノ承認若ハ許可ニ付必要ト認ムル條件ヲ附シ又ハ負擔ヲ命スルコトヲ得

第六條　使用料ハ承認若ハ許可ノ際之ヲ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　既納使用料ハ之ヲ還付セス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ既納使用料ノ全部若ハ一部ヲ還付スルコトヲ得

一、使用承認ヲ受ケタル墓地ヲ使用前豫メ市長ノ承認ヲ受ケ返地シタルトキ
二、第八條第一號ニ該當シタルトキ
三、其ノ他市長ニ於テ必要アリト認メタルトキ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ使用ノ承認又ハ許可ヲ取消シ使用ヲ停止シ又ハ使用箇所ノ變更其ノ他必要ナル處置ヲ命スルコトヲ得

一、管理上支障アリト認メタルトキ
二、本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタルトキ
三、使用承認又ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ
四、公益上其ノ他市長ニ於テ必要アリト認メタルトキ

第九條　本條例ニ定ムルモノノ外墓地及葬齋場ノ管理竝本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和十年五月二十八日告示第二百六號ヲ以テ昭和十年六月一日ヨリ施行）

從前ノ規定ニ依リ墓地ノ使用許可ヲ得タルモノハ本條例ニ依ル墓地ノ使用承認ヲ受ケタルモノト看做ス

墓地及葬齋場ノ使用ニシテ本條例施行前ヨリ繼續スル場合ノ使用料ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ別表第四號ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限

リニ在ラス

別　表

一、墓地使用料表

面積	單位	一等地	二等地	三等地	四等地	五等地
一平方米	一平方米ニ付	円 —	円 —	円 —	円 一、〇〇	円 〇、五〇
二〃	一平方米ニ付	—	—	—	一、一〇	〇、五五
三〃	一平方米ニ付	六、〇〇	四、〇〇	二、〇〇	一、二〇	〇、六〇
四〃	一平方米ニ付	六、五〇	四、二〇	二、二〇	一、三〇	〇、六五
五〃	一平方米ニ付	七、〇〇	四、六〇	二、四〇	一、四〇	〇、七〇
六〃	一平方米ニ付	七、五〇	四、九〇	二、六〇	一、五〇	〇、七五
七〃	一平方米ニ付	八、〇〇	五、二〇	二、八〇	一、六〇	〇、八〇
八〃	一平方米ニ付	八、五〇	五、五〇	三、〇〇	一、七〇	〇、八五
九〃	一平方米ニ付	九、〇〇	五、八〇	三、二〇	一、八〇	〇、九〇
一〇〃	一平方米ニ付	九、五〇	六、一〇	三、四〇	一、九〇	〇、九五

二、使用面積十平方米以上一平方米ヲ超ユル毎ニ使用料單位ハ一平方米ニ付一等地ニ在リテハ五十錢、二等地ニ在リテハ三十錢、三等地ニ在リテハ二十錢、四等地ニ在リテハ十錢、五等地ニアリテハ五錢ヲ追增ス

三、市長ノ定メタル地割ノ爲一平方米未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ親地ノ標準ニ依リ使用料額ヲ算定ス

四、擴張使用ニ對スル使用料ニ關シテハ市長之ヲ定ム

名古屋市墓地及葬齋場使用條例施行細則

大正三年二月十二日
告示第十號

改正　大正三年八月六日告示第九十九號　昭和十年五月二十七日告示第二百四號

第一條　墓地及葬齋場ノ使用承認又ハ許可ヲ願出テムトスルモノハ別記樣式（第一號、第二號、第三號）ニ依ル願書ヲ墓地及葬齋場事務所長（以下所長ト稱ス）ニ提出スヘシ

第二條　墓地ハ本地ニ本籍若ハ住所ヲ有スル者ニ限リ之ガ使用ヲ承認シ其ノ使用面積ハ左ノ範圍内トス但シ特別ノ事由アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一、一等地及二等地　三平方米以上　百平方米以内
二、三等地　三平方米以上　五十平方米以内
三、四等地　一平方米以上　二十平方米以内
四、五等地　一平方米以上　十平方米以内

墓地ノ位置ハ使用者之ヲ選定スルコトヲ得但シ市長必要アリト認ムル場合ハ位置及面積ノ指定ヲ爲スコトアルヘシ

第三條　墓地使用ノ承認ヲ爲シタルトキハ別記樣式（第四號）ニ依ル使用券ヲ交付ス

第四條　葬齋場使用料ハ左ノ通トス

一、火葬場

寢棺	十二歳以上	遺骸一體　六圓
	十二歳未滿	遺骸一體　四圓
	死、流産兒	遺骸一體　二圓
座棺	十二歳以上	遺骸一體　三圓
	十二歳未滿	遺體一體　二圓
	死、流産兒	遺骸一體　一圓

二、葬儀場

第一種	一回（四時間以内）	七圓
第二種	一回（四時間以内）	五圓
第三種	一回（四時間以内）	三圓
第四種	一回（四時間以内）	二圓
第五種	一回（四時間以内）	一圓

三、葬儀自動車

靈柩用	一回一臺	二圓五十錢

四、遺骸保管室

寢棺	一棺一日（二十四時間以内）	一圓
座棺	一棺一日（二十四時間以内）	五十錢

五、休憩室

	一回一室（四時間以内）	五十錢

六、燒却所

1、牛、馬又ハ之ト同等大ノモノ	一頭	十二圓
2、羊、豚又ハ之ト同等大ノモノ	一頭	五圓
3、犬又ハ之ト同等大ノモノ	一頭	一圓
4、猫、幼犬又ハ之ト同等大ノモノ	一頭	五十錢

第五條　市内ニ在ル寺院等ニシテ其ノ墓地改廢等ノ爲一時ニ百平方米以上、墓石一基ニ付四平方米未滿ノ墓地ヲ使用スル場合ニ限リ其ノ位置等級、面積ヲ指定シ使用料ヲ左ノ通減額ス、面積ニ關シ制限外ノ使用ヲ爲ス場合ト雖市長特別ノ事由アリト認ムルトキ亦同シ

二等地	一平方米ニ付	四圓八十錢
三等地	一平方米ニ付	二圓五十錢
四等地	一平方米ニ付	一圓五十錢
五等地	一平方米ニ付	七十五錢

第六條　墓地ヲ擴張使用セムトスルモノハ使用券ヲ添ヘ市長ニ願出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ使用料ヲ徵收ス但シ前條ニ依ル使用ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一、同等位ニシテ接續地ナルトキハ前後ノ面積ヲ合算シ條例別表第一號及第二號ノ標準ニ依リ既納使用料ノ不足額ヲ徵收ス

二、同等位ニシテ接續セサルトキハ前後ノ面積ヲ合算シ條例別表第一號及第二號ノ標準ニ依リ擴張地ニ對スル使用料ヲ徵收ス

三、前後ノ等位異ナルトキハ其ノ面積ヲ合算シ條例別表第一號及第二

號ノ標準ニ依リ擴張地ニ屬スル等位ニ依リ計算シ擴張地ニ對スル使用料ヲ徴收ス

第七條　條例第四條ニ依ル墓地及葬齋場ノ使用ハ其ノ位置ヲ指定シ二百平方米ノ範圍内トス

前項ノ場合ニ於ケル使用料ハ左ノ範圍内ニ於テ市長其ノ都度之ヲ定ム

土地　一平方米ニ付　月額三錢以上　十錢以内

建物　一平方米ニ付　月額三十錢以上　二圓以内

第八條　墓地使用者市内ニ住所ヲ有セサルトキハ市内ニ代理人ヲ定メ連署ノ上屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條　墓地使用者墓碑、石垣、柵欄、圍障等ノ施設若ハ埋葬ヲ爲サムトスルトキハ使用券ヲ提示シ所長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條　墓地使用者ハ常ニ其ノ使用區域ヲ清掃シ墳墓其ノ他ニシテ危險顛倒ノ虞アルトキハ直ニ修理ヲ加フヘシ

使用者前項ノ義務ヲ履行セサルトキ又ハ繼承者ナキニ至リタルトキハ其ノ使用ヲ取消シ墳墓アルトキハ之ヲ六等地ニ改葬スルコトアルヘシ

第十一條　火葬場使用者ハ所長ノ指定スル日時ニ遺骨、遺物ノ引取ヲ爲スヘシ

前項ノ日時ニ遺骨、遺物ノ引取ヲ爲ササルトキハ市長ニ於テ假埋葬ニ付シ其ノ費用ヲ徴收スルコトアルヘシ

遺骨、遺物ノ引取後ニ於ケル殘骨灰ハ適宜處分スルモ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十二條　遺骸保管室ノ使用ハ一遺骸ニ付二日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ市長ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　條例第七條但書ノ規定ニ依ル還付額ハ左ノ各號ニ依ル

一、第一號ノ場合ハ返地面積ニ應シ既納使用料ノ半額

二、第二號及第三號ノ場合ハ其ノ都度事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

使用中ノ墓地ヲ改葬等ノ爲返地スルモノハ原形ニ復スヘシ

第十四條　墓地使用者使用券ヲ毀損若ハ亡失シタルトキ又ハ記載事項ニ變更アリタルトキハ書替又ハ再交付ノ請求ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ戸籍抄本又ハ宿留抄本ヲ添付スヘシ

一、相續ニ依リ墓地使用ヲ繼續セムトスルトキ

二、改氏名シタルトキ

三、本籍地又ハ住所ニ異動アリタルトキ

第十五條　墓地使用ハ相續ニ依ルノ外他人ニ承繼セシムルコトヲ得ス但シ寺院等ニ名義ノ變更ヲ要スル場合ハ連名ニヨリ相續人ナキ場合ハ親族ヨリ其ノ事由ヲ具シ市長ニ願出テ特ニ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　本市住民ニシテ墓地又ハ葬齋場ノ使用料ヲ納付スルノ資力ナシト認ムル者ニ對シテハ墓地ニ在リテハ六等地一平方米以内ヲ使用セシメ、火葬場ニ在リテハ座棺爐ヲ、葬儀場ニ在リテハ第五種一回ヲ、葬儀自動車ニ在リテハ靈柩用一回一台ノ使用ノ場合ニ限リ其ノ使用料ノ免除ヲ爲スコトアルヘシ

免除ノ願出ニハ區長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十七條　本細則施行ニ關シ必要ナル規定ハ市長ノ認可ヲ經テ所長之ヲ定ム

附　則

本細則ハ名古屋市墓地及葬齋場使用條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

八事墓地使用願

墓地豫定圖番號　第　號　（寺院等ニアリテハ住職及信徒總代ノ連署ヲ以テ願出スヘシ）

等位及面積　等地　平方米

使用料　金　圓　錢

右使用御許可相成度候也

昭和　年　月　日

本籍

住所

名古屋市長　殿

第二號樣式

八事火葬場並葬儀自動車使用願

死亡者氏名年齢			
使用年月日	昭和　年　月　日　午　時		
大人、小人及死流產兒ノ別			
棺ノ種別	寢棺、座棺		
遺骸保管室	寢棺、座棺		
葬儀自動車	臺		
使用料	圓　錢	出棺場所及目標	

右使用許可相成度候也

追而火葬骨揚ケ後ノ殘骨灰ハ御市ニ於テ適宜御處理相願度申添候

住所

氏名

死者トノ續柄

名古屋市長　殿

第三號樣式

八事墓地及葬齋場土地建物使用願

一、使用ノ目的

一、使用ノ場所並ニ面積

一、使用料

一、使用許可ノ期間

右ノ通リ使用御許可相成度保證人連署ノ上此段御願申上候也

昭和　年　月　日

住所

氏名

住所

保證人

名古屋市長　殿

第四號樣式

墓地使用券										
番號	第　號									
墓籍番號	等地　第　號									
使用者	本籍									
	住所									
	氏名									
使用面積	等地　平方米									
使用料	金　圓　錢									
許可年月日	年　月　日									
代理人住所氏名										
摘要										
名古屋市長										

墓地使用許可條件

名古屋市墓地及葬齋場使用條例竝ニ名古屋市墓地及葬齋場使用條例施行細則ヲ遵守スルモノトス

注意

一、墓地使用權ハ相續ニ因ル場合及寺院等ニ名義變更ノ場合ノ外他人ニ移轉スルコトヲ得ス相續ニ依リ墓地使用權ヲ繼承セントスルモノハ其ノ事由ヲ具シ戸籍抄本ヲ經ヘ使用券ノ書換ヲ請求スヘシ使用者ノ改氏名若クハ本籍住所ニ異動アリタルトキ亦同シ

二、墓地使用券ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ書替及ハ再下付ヲ請求スヘシ

三、墓地使用者ハ各自其ノ使用區域内ヲ掃除シ墳墓竝ニ付屬建物又ハ樹木等危險顚仆ノ虞アルトキハ直ニ修理ヲ加フヘシ

四、墓地使用ノ際ハ其ノ部度使用券ヲ墓地事務員ニ呈示スヘシ

五、墓地ニ碑墓石垣柵欄圍障ヲ設ケントスルトキハ墓地事務員ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

埋葬者

埋火葬許證番號	死亡ノ日時	埋火葬日時	死亡者住所	氏名年齢	備考
	年月日時	年月日時			
	年月日時	年月日時			
	年月日時	年月日時			
	年月日時	年月日時			
	年月日時	年月日時			
	年月日時	年月日時			
	年月日時	年月日時			
	年月日時	年月日時			

墓地及葬齋場事務所處務規程

昭和十年六月一日
達第十八號

第一條　墓地及葬齋場事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
書記
技手

前項ノ外必要ナル補助員ヲ置ク

第二條　所長ハ上司ノ命ヲ承ケ墓地及葬齋場ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬職員以下ヲ指揮監督ス

所長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

書記ハ庶務及會計事務ニ從事ス

技手ハ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第三條　宿直ハ書記、技手又ハ補助員ヲシテ之ヲ爲サシム

第四條　本規程ニ定ムルモノノ外名古屋市處務規程ヲ準用ス

第五條　所長ハ市長ノ決裁ヲ經テ本規程施行ニ關シ必要ナル細則ヲ定ムルコトヲ得

附則

本規程ハ昭和十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年達第二十二號八事墓地事務所處務規程ハ之ヲ廢止ス

城東病院使用料及手數料條例

大正九年三月三日
條例第一號

改正　大正十四年三月二十七日修例第一號　昭和二年三月十六日修例第一號　昭和三年五月二十二日修例第十二號

第一條　城東病院特別室ヲ使用セムトスル者ハ左ノ區別ニ依リ使用料ヲ納付スヘシ

甲室（本市住民ニ非サル者）　一日ニ付　金四圓
（本市住民）　一日ニ付　金五圓

乙室（本市住民ニ非サル者）　一日ニ付　金參圓
（本市住民）　一日ニ付　金四圓

丙室（本市住民ニ非サル者）　一日ニ付　金壹圓五拾錢
（本市住民）　一日ニ付　金貳圓五拾錢

第二條　診斷書又ハ證明書ノ交付ヲ請求スルモノニ對シテハ左ノ手數料ヲ徵收ス但シ法令ノ規定ニ依リ取扱フモノ及本市住民ニ對シテハ此限ニアラス

一、普通診斷書料　一通ニ付　金五拾錢
二、普通證明書料　一通ニ付　金五拾錢
三、精密診斷書料　一通ニ付　金貳圓
四、精密證明書料　一通ニ付　金貳圓

第三條　使用料ハ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムルトキハ後納ヲ許可スルコトヲ得

手數料ハ診斷書又ハ證明書請求ノ際之ヲ徴收ス

第四條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和二年四月一日ヨリ施行ス

（昭和二年三月十六日條例第一號）

城東病院使用料及手數料徴收手續

大正九年三月三日
告示第十三號

第一條　城東病院ニ入院セントスル者ハ病院長ニ其旨申出ツヘシ

病室ノ變更ノ場合亦同シ

第二條　使用料ハ毎月三回（一日ヨリ十日マテ、十一日ヨリ二十日マテ二十一日ヨリ末日マテ）ニ分チ各其期間ノ初日ニ於テ之ヲ納付スヘシ

但シ入院ノ際ニ在テハ其期間分ノ日數ニ應シ入院ノ當日納付スヘシ

第三條　使用料及手數料ハ病院長ニ於テ之カ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　徴收シタル使用料ニ過剩ヲ生シ還付ヲ要スルトキハ納人ヨリ金額事由ヲ記シタル請求書ヲ差出サシメ病院長證明シテ當廳ニ進達スヘシ

第五條　交通遮斷又ハ隔離等ノ爲メ使用料ヲ前納スルコト能ハサル者ニ對シテハ病院長ハ其解除ヲ待テ納付セシムルコトヲ得

第六條　官廳、官立ノ學校、病院、製造所又ハ町村等ノ委託ニ係ル使用料ハ事後ニ於テ徴收スルコトヲ得

八事療養所使用料條例

大正十一年四月一日
條例第四號

改正　大正十三年三月二十五日條例第一號　大正十四年三月二十七日條例第二號

第一條　名古屋市八事療養所入所患者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ使用料（食費及藥價ヲ含ム）ヲ徴收ス但シ本市住民ニシテ使用料ヲ納付スル資力ノ無キ者ニ對シテハ普通病室ニ限リ之ヲ徴收セス

一、特別病室　本市住民　一日ニ付　金貳圓五拾錢

本市住民ニ非ラサル者　一日ニ付　金參　圓

二、普通病室　本市住民　一日ニ付　金壹圓五拾錢

本市住民ニ非ラサル者　一日ニ付　金貳　圓

第二條　前條ノ料金ハ之ヲ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムルトキハ後納ヲ許可スルコトヲ得

第三條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附　則　（大正十四年三月二十七日條例第二號）

本條例ハ大正十四年四月一日ヨリ施行ス

八事療養所使用料徴收手續

大正十一年四月一日
條例第四號

第一條　使用料ハ毎月三回（一日ヨリ十日マテ、十一日ヨリ二十日マテ、二十一日ヨリ末日マテ）ニ分チ各其ノ期間ノ初日ニ於テ之ヲ納付スヘシ但シ入所ノ際ニ在テハ其期間分ノ日數ニ應シ入所ノ當日納付スヘシ

第二條　使用料ハ所長ニ於テ之カ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條　使用料滯納ノ場合ニ於テハ所長ハ市長ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ徴收ノ手續ヲ爲サシムルモノトス

第四條　徴收シタル使用料ニ過剩ヲ生シ還付ヲ要スルトキハ納人ヨリ金額事由ヲ記シタル請求書ヲ差出サシメ所長證明シテ當廳ニ進達スヘシ

第五條　所長ニ於テ徴收ニ要スル帳簿其ノ他ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

衛生試驗所手數料條例

大正十二年十月一日
條例第九號

第一條　名古屋市衛生試驗所ニ於テ依頼ニ依リ取扱フ事務ニ付テハ其ノ依頼者ヨリ左ノ範圍内ニ於テ手數料ヲ徴收ス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ減免スルコトアルヘシ

一、顯微鏡的檢査　一件ニ付三十錢以上五圓以下

二、細菌學的檢査　一件ニ付三十錢以上五圓以下

三、化學的檢査　一件ニ付三十錢以上拾圓以下

四、檢査濟封緘　百枚ニ付十錢以上二圓以下

五、身體檢査　一件ニ付三十錢以上一圓以下

六、檢査及鑑定書謄本　一通ニ付十錢以上三圓以下

第二條　特別ノ調査又ハ特ニ費用ヲ要スル事務ニ付テハ前條ノ制限ニ依ラス其ノ都度手數料額ヲ定メテ之ヲ徴收ス

第三條　特ニ期日ヲ定メ急速施行ヲ要スル場合ノ手數料ハ前各條ニ定ムル額ノ三倍以内ニ於テ之ヲ定ム

第四條　一時ニ同種多數ノ事項ヲ依頼スル者ニ對シテハ手數料ヲ減額スルコトヲ得

第五條　手數料ハ之ヲ前納セシム但シ官公署ノ依頼ニ係ルトキ又ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ハ後納セシムルコトヲ得

第六條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

衛生試驗所規程

大正十二年九月二十一日
告示第百四十七號

改正　大正十三年四月二日告示第八十七號　昭和三年四月二十一日告示第百九十四號

第一條　名古屋市衛生試驗所ハ衛生上ノ試驗及調査ニ關スル事項ヲ取扱フモノトス

第二條　本所ニ前條ノ試驗、調査ヲ依頼セムトスルモノハ依頼書ニ供試

品ヲ減ぜヲ願出ツヘシ但シ變敗シ易キ場合其他必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シテ供試品ヲ提出セシム

第三條　依頼者ヨリ提出ニ係ル供試品ニシテ不可抗力ノ爲メ毀損又ハ滅失スルコトアルモ本所ハ其責ニ任セス

供試品ニ剩餘ヲ生スルモ之ヲ還付セサルコトアルヘシ

第四條　本所ノ檢査濟封緘ヲ爲シタル物以外ノ物品ノ廣告掲示又ハ其ノ容器包紙ニ名古屋市衛生試驗所ノ保證又ハ試驗濟其ノ他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス

第五條　依頼事務ノ爲メ職員ノ出張ヲ要スル場合ニ於テハ本市旅費規程ニ定ムル旅費竝ニ試驗用器具運搬費等ヲ依頼者ニ於テ負擔スヘシ

第六條　本所ハ事務都合ニ依リ依頼ニ應セサルコトアルヘシ

第七條　手數料竝供試品量ハ別表ノ通定ム

附　則

本規程ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

試驗成績ヲ表示セントスル者ハ其ノ成績書ノ全文ヲ記載シ之ヲ變改スルコトヲ得ス

圖一表

區分	種別	料金	供試品量
喀痰	簡易ナル檢査	一種	三〇匁（凡五才）
	複雜ナル檢査	同	一、〇〇〇
糞便	簡易ナル檢査（寄生虫、卵等）	同	一、三〇〇
	複雜ナル檢査	同	一、〇〇〇
尿	簡易ナル檢査	同	一、三〇〇
	複雜ナル檢査	同	一、〇〇〇
顯微鏡的及細菌學的檢査	寄生虫卵檢査	同	一、五〇〇
血液及血清	血球ノ計算	同	一、〇〇〇
	ワッセルマン氏反應	同	一、五〇〇
	チフス菌凝集反應	同	一、三〇〇
細菌ノ診定	顯微鏡的檢査	同	一、〇〇〇
	培養試驗	同	一、五〇〇
	動物試驗其ノ他特別ナル檢査	同	五、〇〇〇
培養基類	人乳性狀檢査	一種	五〇匁（凡五才）
	牛乳ノ飲料適否	同	二〇匁以上（凡五合以上）
	牛乳及乳製品（其ノ他類似ノモノ）	一種	一立以上（凡五合以上）
	酒、醋、醤油、葡萄酒等	同	二立以上（凡一升以上）
	清涼飲料水	一種	一鈔以上（凡五勺以上）
實費			

區分	種別	料金	供試品量
飲食物	穀類、蔬菜、果實等定量分析	同	六、〇〇
	麺類、麩、素麺等	一種	三、〇〇
	茶、珈琲等	一口	一、〇〇
	砂糖、水飴、菓子等	一種	二、〇〇
	肉（其他類似ノモノ）類	同	三、〇〇
	罐詰	同	六、〇〇
	衛生的試驗	一種	一、五〇（二斤以上） 五〇〇瓦以上（一斤以上） 二五〇〇瓦以上（半斤以上） 五〇〇〇瓦以上（一斤以上） 一罐以上
化學的檢査	藥品	藥局方適否試驗	同
		藥局方外藥品試驗	二〇瓦以上
		不明藥品ノ簡易ナル定性分析	同
		同定量分析	一〇、〇〇〇
		特別ナル試驗	同
	消毒藥殺菌藥殺蟲劑等	簡易ナル試驗	同
		複雜ナル試驗	二、〇〇〇
	水及氷雪	飲料用及食料用適否	同
		同定量分析	六、〇〇
		細菌數計算	一〇、五〇〇
		清涼飲料用釀造用汽罐用原水等ノ適否	同
		同定量分析	一、〇〇〇
	鑛泉	療養泉タルヲ得ルヤ否ノ檢定	二、〇〇〇
		定性分析	三、〇〇〇
		定量分析	五、〇〇〇
		「ラヂウム」放射能作有無ノ定性試驗	一〇、〇〇〇
		同定量試驗	二〇、〇〇〇
	飲食物用器具同原料ノ衛生的試驗	同	二立以上（凡一升以上）
	胃内容物檢査	同	同
	化粧品及着色料	衛生上適否試驗	同
		簡易ナル定性分析	五〇匁以上（凡三勺以上）
		複雜ナル定性簡易ナル定量分析	二立以上（凡一升以上）
	尿	簡易ナル檢査	同
		蛋白質ノ定量	四立以上（凡二升以上）
		糖ノ定量	二立以上（凡一升以上） 四立以上（凡二升以上）
		一成分ニ付	一〇〇瓦以上（凡五勺以上）
		一種	三〇
		同	三、〇〇〇
		同	五、〇〇〇
		一鈔以上（凡五勺以上）	
		同	二十四時間ノ全量

肥料類ノ定性定量分析	同	五、〇〇〇
含有成分ノ定性分析	一成分ニ付	一、〇〇〇
同定量分析	同	三、〇〇〇
裁判關係諸品ノ簡易ナル試驗	一件	五、〇〇〇
同　複雜ナル試驗	同	一〇、〇〇〇
醫器　檢査	一個	三、〇〇〇
衛生材料試驗	原價ノ百分ノ最低	一、〇〇〇
身體檢査　血壓檢査	一件	三〇
同　健康診斷	同	五〇
同　普通檢査	同	一、〇〇〇
同　複雜ナル手數ヲ要スルモノ	同	一、〇〇〇

本所製品實費

檢査濟封緘　邦文　一枚以内	一通	二〇
同　二枚以内	同	三〇
同　五枚以内	同	七〇
同　十枚以内	同	一、五〇〇
同　十二枚以内	同	三、〇〇〇
同　三十枚以内	同	一、〇〇〇
同　三十一枚以上一枚ニ付	百枚	一〇
檢査成績書及鑑定書謄本　疏譯文一枚ニ付	同	三〇
清酒、葡萄酒、醬油、酢、消毒劑及之ニ準スヘキ飲食物器類藥品油脂衛生材料　第一號紙	同	五〇
第二號紙	同	一、〇〇〇
第三號紙	同	二、〇〇〇
第四號紙	同	三、〇〇〇
第五號紙	同	五、〇〇〇

一、本表所載以外ノモノニ對スル料金ハ本表中各其ノ類似スル所ニ依リ之ヲ徵收ス

二、一時ニ同種多數ヲ依賴スル場合及本市保健衛生上特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ所長ハ其ノ手數料ヲ減免スルコトヲ得

三、特種ノ調査又ハ試驗鑑定ニ關スル手數料其ノ他特別ノ費用ハ其ノ都度所長之ヲ定ム

四、供試品ハ試驗上ノ必要ニ應シ其ノ分量ヲ增減スルコトアルヘシ

五、急速施行ヲ要スル事項ノ手數料ハ本表所定ノ二倍額トス

衛生試驗所處務規程

大正十二年九月二十一日
達第六十六號

改正　昭和三年五月二日
達第四十二號

第一條　名古屋市衛生試驗所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ市長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督ス

所長事故アルトキハ次席技師ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

所長ハ毎年一月十五日限リ前一ケ年間ノ事務成績ヲ市長ニ報告スヘシ

第二條　本所ニ於テ取扱フ試驗調査ニ關スル事項ヲ處理スル爲メ二部ヲ設ケ各部ニ部長ヲ置キ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ所長ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部員ヲ指揮監督ス

部長事故アルトキハ其ノ部ノ次席技師又ハ技手ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

各部ニ屬スル事務ノ概目左ノ如シ

第一部

一、病理細菌ニ關スル事項
二、身體檢査ニ關スル事項
三、其ノ他醫事ニ關スル事項

第二部

一、上水、下水ノ他水質ニ關スル事項
二、飲食物ニ關スル事項
三、其ノ他理化學ニ關スル事項

第三條　技師及技手ハ主司ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四條　書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　前各條ニ定ムルモノヽ外顧問、囑託員等ヲ置キ必要ナル事務ヲ委託スルコトヲ得

第六條　宿直ハ一名トシ書記又ハ技手其ノ他所長ニ於テ特ニ命セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ市長ノ認可ヲ經テ所長之ヲ定ム

第八條　本規程ニ定ムルモノヽ外名古屋市處務規程ヲ準用ス

附則

本規程ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

汚物掃除傭人規程

大正十五年三月五日
達第二十號

改正　昭和十年四月一日
達第六號

第一條　傭人ヲ常傭及臨時ニ區別ス

常傭人ハ傭入ノ日ヨリ滿六ケ月以上經過シ成績優良ニシテ辭令ヲ交付シタルモノヲ謂フ

第二條　傭人ハ忠實勤勉ヲ旨トシ吏員ノ指揮ヲ承ケ其ノ業務ニ從事シ器具其ノ他物品ノ清潔保持ニ努ムヘシ

第三條　傭人ノ勤務時間ハ通常午前七時ヨリ午後五時迄トス

業務ノ狀態ニ依リ前項ノ勤務時限ニ據リ難キモノハ此ノ限リニアラス

第四條　傭人ハ始業時間十分前迄ニ所定ノ場所ニ參着シ係員ノ点呼ヲ受クヘシ

第五條　傭人自己使用ノ器具物品ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ速ニ係員ニ屆出ツヘシ但シ自己ノ過失ニ基キ毀損亡失シタルモノハ辨償セシムルコトアルヘシ

第六條　傭人ハ業務ノ都合ニ依リ第三條ノ勤務時間外ニ亘リ服務セシムルコトアルヘシ此ノ場合ハ一時間毎ニ日給額ノ十分ノ一以内ヲ加給ス

第七條　傭人始業時間ニ遲參シ又ハ就業中早退シタルトキハ一時間ニ付日給額ノ十分ノ一ヲ減ス

第八條　常傭人ニハ業務ニ支障ナキ限リ毎月二日ノ休暇ヲ與フ

前項ノ休暇ハ之ヲ翌月ニ繰越スコトヲ得ス

休暇ヲ爲サムトスルモノハ前日迄ニ所屬掃除監督ニ申出テ承認ヲ受クヘシ

第九條　傭人ニシテ成績優良ノモノニ對シテハ賞詞又ハ模範章ヲ交付スルコトアルヘシ

模範章ノ有効期間ヲ六ヶ月間トス但シ本期間ヲ過キタルモノト雖モ再交付スルコトヲ得

第十條　傭人ニシテ不都合ノ行爲アリタル時ハ解傭シ模範章ヲ有スルモノハ之ヲ返還セシム

附　則

本規程ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規程發布以前ニ傭入シタルモノニシテ第一條第二項該當者ニハ辭令ヲ交付ス

汚物掃除事務規程

昭和三年五月二十五日
達第四十五號

改正　昭和六年四月十六日達第十五號　昭和九年七月二十八日達第十號　昭和十年五月三十一日達第十六號

第一條　汚物掃除ニ關スル事務ヲ處理スル爲保健部清掃課ニ出張所ヲ設ケ掃除監視吏員ヲ配屬シ其ノ事務ニ從事セシム出張所ノ名稱、位置及管轄區域ハ別ニ定ムルトコロニ依ル

第二條　清掃課內勤務ノ掃除監視吏員ハ上司ノ命ヲ承ケ內務並ニ出張所事務ノ監査ニ從事スヘシ

第三條　出張所ニ所長ヲ置キ清掃監督ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督ス

所長ヲ補佐シ所長差支ヘアルトキ其ノ職務ヲ代理スル爲別ニ監督補ヲ置ク

巡視部長ハ掃除監視ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　出張所ニ於ケル擔任事務ノ概目左ノ如シ

一、塵芥ノ蒐集搬出等ノ監視及同假置場ノ整理

二、塵芥燒却場ノ整理

三、直營屎尿汲取搬出ノ監視

四、農民區域屎尿汲取搬出ノ監視及代執行

五、屎尿處理所ノ整理及屎尿量ノ査定

六、公共便所ノ監視

七、屎尿船及塵芥船ノ配給

八、曳船ノ監督

八ノ二、屎尿汲取手數料ノ徵收

九、受付

第五條　所長ハ事務ノ分擔ヲ定メ清掃課長ニ報告スヘシ

第六條　所長ハ常ニ所員ノ素行勤怠ニ注意シ其ノ成績ヲ清掃課長ニ報告スヘシ

第七條　所長ハ人夫ヲ傭入レ又ハ解傭スルノ要アルトキハ其ノ旨清掃課長ニ申出ツヘシ

第八條　所長ハ毎年豫算編成期前其ノ區內ノ汚物處分計畫ヲ定メ八月末日迄ニ清掃課長ニ提出スヘシ但シ急ヲ要スル事項ハ其ノ都度提出スヘシ

第九條　所長ハ毎年其ノ區內衛生組合長ト清潔法施行ノ日割ヲ協定シ二月末日迄ニ清掃課長ニ報告スヘシ

第十條　出張所ノ執務時間及休日左ノ如シ

執務時間

一、自四月一日至七月二十日　午前七時ヨリ午後四時迄

一、自七月二十一日至八月三十一日　午前七時ヨリ午後五時迄

一、自九月一日至十月三十一日　午前七時ヨリ午後四時迄

一、自十一月一日至三月三十一日　午前八時ヨリ午後四時迄

休日

一、一月一日ヨリ三日迄現定員ノ三分ノ二

一、新年宴會、紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、天長節、秋季皇靈祭、神嘗祭、明治節、新嘗祭、大正天皇祭ハ現定員二分ノ一

一、九日勤續一日非番

第十一條　所長ノ勤務時間及休日ハ一般吏員ノ例ニ依ルヘキモ左ノ區分ニ依リ休日毎ニ交代出務スヘシ

一、東區東部、東區西部出張所ニ於テ一名

一、西區、中區西部出張所ニ於テ一名

一、中區東部、中區中部出張所ニ於テ一名

一、南區南部、南區北部出張所ニ於テ一名

第十二條　本規程ニ定ムルモノノ外市處務規程ニ依ル

名古屋市掃除監視吏員設置條例

昭和五年九月六日
條例第八號

改正　昭和六年三月三十一日條例第四號　昭和七年三月二十五日條例第五號　昭和十年三月三十日條例第六號

第一條　汚物掃除法第五條ニ依リ本市ニ設置スル掃除監視吏員左ノ如シ

清掃主事　一人

清掃監督　八人

清掃監視　百二十三人

第二條　掃除監視吏員ノ給料額左ノ如シ

清掃主事　年俸一千圓以上　二千五百圓以下

清掃監督　月俸四十圓以上・百五十圓以下

清掃監視　月俸三十圓以上　百圓以下

第三條　掃除監視吏員ノ權限及職務章程ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

掃除監視吏員權限及職務章程

昭和五年九月六日
達第十八條

第一條　掃除監視吏員ハ保健部ニ屬シ其ノ權限左ノ如シ

一、清掃主事ハ上司ノ命ヲ受ケ汚物掃除ノ施行及實況ヲ監視シ清掃監督及清掃監視ヲ指揮監督ス

二、清掃監督ハ清掃主事ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌シ所屬ノ清掃監視ヲ指揮監督ス

三、清掃監視ハ清掃監督ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從事ス

第二條　清掃主事ハ清掃監督以下ノ進退賞罰給與其ノ他身分ニ關スル事項ヲ取扱フ

第三條　清掃主事ノ處理スヘキ事項左ノ如シ

一、清掃監督以下ノ配置、勤務ニ關スル事項

二、清掃監督以下ノ請暇除服其ノ他出願事項ノ拒否ニ關スル事項

三、公共便所、汚物處分場、汚物取扱所等ノ清掃並築造修繕ニ關スル事項

四、私人ノ義務ニ屬スル掃除狀況ノ調査ニ關スル事項

第四條　清掃主事ハ汚物掃除法第七條ノ戒告及代執行ヲ爲ス但シ代執行ニ付キ費用ヲ要スルト認ムルトキハ上司ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條　清掃主事汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキハ二十四時間以內ニ清掃監督又ハ清掃監視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ラ臨檢シ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第六條　清掃主事ハ清掃事業上必要アリト認ムルトキ又ハ清掃傭人ニシテ不都合ノ行爲アリタルトキハ清掃傭人ニ就業ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七條　清掃主事ハ臨時必要アルトキ清掃監督ヲシテ擔任以外ノ事務ニ從事セシメ又ハ清掃監視ヲシテ清掃監督ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第八條　清掃主事ハ汚物掃除法又ハ之ニ基キ發セラルル命令ニ違反シタル者アルトキハ之ヲ告發スヘシ

前項ノ場合ハ直ニ上司ニ報告スヘシ

第九條　清掃主事ハ上司ノ承認ヲ受ケ其ノ職務ノ一部ヲ清掃監督ニ委任スルコトヲ得

第十條　清掃主事事故アルトキハ豫メ市長ノ定ムル者之ヲ代理ス

第十一條　清掃主事ハ清掃事務月報ヲ調製シ翌月十五日迄ニ市長ニ提出スヘシ

第十二條　清掃主事ハ清掃事務年報ヲ調製シ翌年三月迄市長ニ提出スヘシ

第十三條　清掃監督ハ分擔區域內ニ於ケル汚物掃除ニ關スル一切ノ事項ヲ視察指示スヘシ

第十四條　清掃監督ハ分擔區域內ニ於ケル左ノ事項ヲ處理スヘシ

但シ重要ト認ムル場合ニ於テハ豫メ清掃主事ノ指揮ヲ受クヘシ

一、清掃監視以下ノ配置勤務ニ關スル事項

二、傭人ノ請暇除服其ノ他出願事項ノ拒否ニ關スル事項

第十五條　清掃監督處務上意見アルトキハ清掃主事ニ之ヲ開陳スヘシ

第十六條　清掃監督汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ對シ戒告ノ必要アリト認ムルトキハ清掃主事ニ具申スヘシ

第十七條　清掃監督汚物掃除法施行規則第十五條ニ依リ申告ヲ受ケタルトキハ二十四時間以內ニ自ラ臨檢シ又ハ清掃監視ヲシテ臨檢セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ結果ヲ清掃主事ニ具申スヘシ第二十七條ニ依リ清掃監視ノ具申ヲ受ケタルトキ亦同シ

第一項ノ場合及第二十五條第一項但書ニ依リ清掃監視ノ申告ヲ受ケタル場合ニ於テ重要ト認ムルモノニ付テハ事前ニ清掃主事ニ具申スヘシ

第十八條　清掃監督ハ所屬ノ清掃監視以下ノ進退賞罰ヲ清掃主事ニ具申スヘシ

第十九條　清掃監督ハ毎月報告書ヲ翌月七日迄ニ清掃主事ニ提出スヘシ

第二十條　清掃監視ハ受持區內又ハ配屬場所ニ於ケル掃除ニ關スル作業ヲ監視スヘシ

第二十一條　清掃監視ハ清掃傭人ニ對シ指揮ヲ爲シ必要ト認ムル事項ニ付テハ其ノ意見ヲ清掃監督ニ開陳スヘシ

第二十二條　清掃監視ハ公共便所汚物處分場汚物取扱所等ヲ視察シ其ノ狀況ヲ清掃監督ニ報告スヘシ其ノ改修ヲ要スト認ムルトキ亦同シ

第二十三條　清掃監視ハ受持區內ヲ巡回シ塵芥容器、溝渠、便所、井戸流シ其ノ他私人ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ家人ニ注意ヲ與ヘ又時宜ニ依リ團體衛生組合役員ニ交渉シ其ノ狀況ヲ清掃監督ニ報告スヘシ

第二十四條　清掃監視ハ汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ對シ戒告ノ必要アリト認ムルトキハ清掃監督ニ之ヲ具申スヘシ

第二十五條　清掃監視ハ受持區內ニ於ケル塵芥、汚泥、屎尿ノ排出並處分狀況及其ノ重量若ハ容量ヲ清掃監督ニ報告スヘシ

第二十六條　清掃監視ハ汚物掃除法施行規則第十五條ニ依リ申告ヲ受ケタルトキハ二十四時間以內ニ臨檢スヘシ但シ重要ト認ムルモノニ付テハ事前ニ清掃監督ニ具申スヘシ

前項ノ期間內ニ臨檢シ難キ事由アルトキハ其ノ旨清掃監督ニ具申スヘシ

第二十七條　清掃監視ハ前條ニ依リ臨檢シタルトキハ其ノ結果ヲ清掃監督ニ具申スヘシ

第二十八條　清掃監視ハ受持區內ノ戶數、塵芥容器、淨化便所、水洗便所、汲取便所等ノ數ヲ調査シテ之ヲ記錄シ且常ニ加除更正スヘシ

第二十九條　清掃監視ハ受持區內ニ於テ汚物掃除法及之ニ基キ發セラルル命令ニ違反シタル者アルトキハ其ノ旨清掃監督ニ申告スヘシ

第三十條　汚物掃除法施行規則第十二條ニ依リ掃除監視吏員ノ携帶スヘキ證票左ノ如シ

職　氏　名

名古屋市
名古屋市掃除監視吏員證
役所印

附　則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正元年十月一日名古屋市達第六號掃除監視吏員職務章程ハ之ヲ廢止ス

掃除監視吏員被服給與規程

昭和六年四月八日
達第十二條

第一條　掃除監視吏員ニハ本規程ニ依リ被服ヲ給與ス但シ時宜ニ依リ代料ヲ給與スルコトアルヘシ

給與品其ノ制式、員數、保存期間、着用季節ハ別表ニ依ル但シ支給上ノ都合ニ依リ保存期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第二條　代料ノ額ハ必要ノ都度之ヲ定ム

第三條　給與品ハ新任ノトキハ任命ノ際、保存期間滿了ノトキハ其ノ翌月初ニ於テ新品ヲ給ス

代料ヲ以テスル場合ハ前項ニ準ス但シ其ノ額ハ月割ヲ以テス

新任者ニハ保存期間未了ノ返納品ヲ給與シ其ノ保存期間ヲ繼續セシムルコトアルヘシ

第四條　給與品ノ修補ハ各自辨トス

第五條　保存期間未了ノ給與品ハ退職休職轉職死亡ノ際ハ之ヲ返納セシム

前項ノ場合代料ハ月割ヲ以テ計算シ返納ノ事由ノ生シタル月ノ翌月以後ノ分ヲ返納セシム

第六條　保存期間中ノ給與品ヲ自己ノ過失又ハ怠慢ニ依リ毀損若ハ亡失シタルトキハ毀損品ハ之ヲ返納セシメテ更ニ新品ヲ給ス但シ代料給與ノ場合ハ此ノ限リニ在ラス

前項ノ場合調製原價ヲ保存期間ノ月數ヲ以テ除シテ得タル金額ニ毀損又ハ亡失ノ月以後保存期間滿了ニ至ル迄ノ月數ヲ乘シタル金額ヲ賠償スヘシ

第七條　保存期間ノ計算ハ給與ノ月ヨリ起算シ滿期ノ月ノ末日迄トス

別　表

一、制　式

	清掃主事	清掃監督	清掃監視
帽	地質	黑又ハ濃紺絨	同上
	製式	四形ニシテ黑色ノ眼疵及頭紐ヲ附シ頭紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ各一個ノ紐釦ヲ以テ留ム	同上
	徽章	前章ハ市徽章帽ノ周圍ニ幅五分ノ黑蛇腹組線二條ヲ經フ各線ノ間一分五厘	同上但シ組線ノ幅一寸三分ニシテ一條
	紐釦	金色圓形艶消	同上
	日覆	白布ニシテ帽ノ上部ヲ覆フ	同上
冬上	地質	黑又ハ濃紺サージ	同上
	製式	長ジヤケット	同上
	釦	胸五個一行金色圓彫艶消	同上
	襟章	ナシ	同上
	袖章	幅五分ノ黑蛇腹組線三條各線ノ間一分五厘	同上但シ組線二條
	衣ズボン	製式	普通長ズボン
		地質	上衣ニ同シ
夏上	衣	製式	冬服ニ同シ
		地質	黑又ハ濃紺ニル
		釦	冬服ニ同シ
		襟章	ナシ
		袖章	冬服ニ同シ
	ズボン	製式	冬服ニ同シ
		地質	上衣ニ同シ
外套	地質	黑又ハ濃紺絨	同上
	製式	通常マント形長サ手甲ノ隱ル、程度	同上
	帽覆	黑又ハ濃紺絨	同上
雨用外套	地質	黑ゴム引防水地	同上
	製式	通常マント形	同上
	釦	黑ゴム引防水地	同上
	襟章	ナシ	同上
	袖章	幅五分ノ黑蛇腹組線三條各線ノ間一分五厘	同上但シ組線二條
雨用外套	帽覆	黑ゴム引防水地	同上
	短靴	地質	黑革
	長靴	地質	黑革又ハ黑ゴム

二、員數、保存期間、着用季節

給與品	員數	保存期間	着用季節	備考
帽	一	一年		
冬服	一	二年	自十月至五月	
夏服	一	一年	自六月至九月	
外套	一	三年		
雨用外套	一	三年		
短靴	一	一年		
長靴	一	一年		

屎尿汲取手數料條例

昭和六年四月十四日
條例第六號

改正　昭和九年一月二十五日條例第三號　昭和十年三月三十日條例第四號

第一條　市ハ屎尿ノ汲取ニ付手數料ヲ徵收ス

第二條　汲取手數料ハ普通ノ便壺一箇若ハ便房一ケ所ニ付一箇月二十四

錢トシ便壺ノ容量市所定ノ容器一荷ヲ超ユルモノニ在リテハ一箇ニ付金四十八錢以上金二圓四十錢以内トス但シ市街地建築物法施行規則第十二條第一項ニ依ル下水道指定ノ爲地方長官ノ告示シタル區域外ニ在リテハ各其ノ半額ヲ免除ス

前項ノ計算ハ便房數ガ便壺數ヨリ多キトキハ便房數ニ依ル

第三條　汲取手數料ハ之ヲ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　市長ハ手數料納付ノ資力ナシト認ムル者特別ノ事由ニ依リ必要アリト認ムル者ニハ汲取手數料ヲ減免スルコトヲ得

第五條　本條例適用ノ區域並本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和十年三月三十日告示第五十八號ヲ以テ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス）

屎尿汲取手數料條例施行細則

昭和六年四月十四日
告示第七十八號　改正　昭和七年三月二十五日告示第二百十九號　昭和十年四月二日告示第七十號

第一條　屎尿汲取手數料條例（以下單ニ條例ト稱ス）ハ法令ニ依リ市カ屎尿汲取ノ義務ヲ負擔スル區域（市カ契約ヲ締結シテ屎尿ヲ無償汲取ラシムル區域ヲ除ク）ニ適用ス

第二條　條例第二條ニ規定スル便壺ノ容量市所定ノ容器一荷ヲ超ユルモノニ在リテハ一箇ニ付金四十八錢トシ、二荷ヲ超ユルモノニ在リテハ二荷以上一荷ヲ增ス毎ニ一箇月ニ付金二十四錢ヲ加算シ金二圓四十錢ヲ超ユルトキハ金二圓四十錢トス

第三條　汲取手數料ハ毎月翌月分ヲ前納セシム但シ納人ノ都合ニ依リ一時ニ二箇月分以上ヲ納付スルヲ妨ケス

汲取手數料ノ徵收ニ付テハ掃除監視吏員ヲシテ之カ手續ヲ爲サシム

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ願出ニ依リ汲取手數料ヲ免ス但シ第二號ニ該當スル者ニ對スル免除ハ祭祀、宗教、慈善事業ニ專用スル家屋ノ便壺傾房ニ屬スルモノニ限ル

一、救護法若ハ軍事救護法ニ依リ救護ヲ受クル者又ハ方面カード第一種若ハ第二種該當者其ノ他屎尿汲取手數料ヲ納付ノ資力ナシト認ムル者

二、祭祀、宗教、慈善事業ニ專用シ住宅ニ供セサル家屋ノ所有者若ハ占有者

三、本市屎尿處分上特ニ必要アリト認ムル者

第五條　前條ノ規定ニ依リ汲取手數料ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ住所、氏名、職業、月收額、收入ノ生ズル場所、借家賃、家族數其ノ他免除ヲ要スル事由ヲ具シ所轄區長ヲ經テ市長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

附　則

本細則ハ屎尿汲取手數料條例ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市民病院條例

昭和六年六月八日
條例第十號

第一條　名古屋市民病院ハ本市住民ニシテ醫療ノ資ニ乏シキ患者及本市電氣局現業員並其ノ家族ノ診療ヲ爲ス所トス

前項ニ掲クル以外ノ者ニシテ市長ニ於テ特別事情アリト認ムルトキハ之カ診療ヲ爲スコトアルヘシ

第二條　本院ノ診療患者ハ外來、入院ノ二種トス

第三條　診療ヲ受ケムトスル者ハ市長ノ承認ヲ受クヘシ但シ必要ニ應シ證明書ヲ提出セシメ且身元調査ヲ爲スコトアルヘシ

第四條　本院ニ左ノ診療科ヲ置ク

内　科
外　科
小　兒　科
產　婦　人　科
眼　科
耳鼻咽喉科
皮膚性病泌尿器科
齒　科
理學療法科

第五條　診療ヲ受クル者ニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル使用料手數料ヲ徵收ス但シ本市電氣局現業員並其ノ家族及市長ニ於テ納付ノ資力ナシト認ムル本市住民ニ對シテハ之ヲ減免スルコトアルヘシ

一、入　院　料　一日金五十錢以上金二圓以下
二、手術又ハ處置料　一回金十錢以上金三十圓以下
三、齒科技工料　一件金五十錢以上金三十圓以下
四、藥價又ハ療材料　一種又ハ一日金五錢以上金二十錢以下
五、檢　査　料　一件金二十錢以上金一圓以下
六、文　書　料　一件十錢以上金一圓以下

診療上前各號ニ依リ難キ場合ハ別ニ市長ノ定ムル料金ヲ徵收ス

第六條　使用料及手數料ハ之ヲ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラス

第七條　虛僞ノ申立ニ依リ使用料又ハ手數料ノ減免ヲ受ケタルコトヲ發見シタルトキハ之カ料金ヲ追徵ス

第八條　市長ハ本條例若ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタル者又ハ市長ニ於テ其ノ必要アリト認メタル者ニ對シテハ診療若ハ入院ヲ拒否シ又ハ退院ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　市長必要アリト認ムルトキハ健康保險法ニ依ル保險者ノ委託ヲ受ケ其ノ被保險者ノ診療ヲ爲スコトアルヘシ

第十條　本院ハ必要ニ應シ產婆看護婦ノ養成ヲ爲スコトヲ得

第十一條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和六年七月一日告示第百三十五號ヲ以テ昭和六年七月十日ヨリ之ヲ施行ス）

名古屋市民病院條例施行細則

昭和六年六月八日
告示第百十八號
改正　昭和九年二月五日
告示第十七號

第一條　名古屋市民病院條例（以下單ニ條例ト稱ス）第一條第二項ノ規定ニ依ル診療ハ市長ニ於テ應急處置ノ必要アリト認ムル者及診療費ノ本市負擔ニ屬スル患者ニ對シ之ヲ行フ

第二條　診療ヲ受ケムトスル者ハ自身出頭シテ診察券ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ受療資格ヲ調査シ診察券ヲ交付ス但シ必要アリト認ムルトキハ身元調査ヲ行ヒ又ハ所轄區長、警察署長若ハ方面委員ノ證明書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第三條　診療券ヲ受ケタル者ハ條例及條例ニ基ク規定ノ定ムル所ニ從ヒ診療ヲ受クヘシ

第四條　入院ヲ望ム者ハ院長ニ願出承認ヲ受クヘシ

第五條　前條ニ依ル出願ハ世帶主又ハ本人ヨリ之ヲ爲スヘシ

前項ノ者ヨリ出願スルコト能ハサルトキハ親族其ノ他關係者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第六條　入院期間ハ三十日以内トス但シ院長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第七條　條例第五條ノ使用料及手數料ハ左ノ通トス

一、入院料　一日　金一圓四十錢

普通治療費及食費ヲ含ム但シ條例第一條第二項ノ規定ニ依リ診療ヲ受クル者ニ對シテハ條例ノ定ムル範圍内ニ於テ百分ノ五十迄ヲ增徵スルコトアルヘシ

二、手術料

大手術料	一回	金十圓以上金三十圓以下
中手數料	一回	金三圓以上金十圓以下
小手術料	一回	金五十錢以上金三圓以下

三、處置料

普通處置料	一回	金十錢以上金五十錢以下
特別處置料	一回	金五十錢以上金十圓以下
注射料	一回	金二十錢以上金五圓以下
理學療法料	一回	金二十錢以上金十圓以下

四、齒科技工料

充塡料	一件	金五十錢以上金五圓以下
義齒料	一件	金一圓以上金三十圓以下

五、藥劑

一種一劑	一日分	金十錢以上金十五錢以下
一種一劑	一回分	金五錢以上金十錢以下
六、治療材料	一種	金十錢以上金二十錢以下

七、檢査料

簡易檢査	一件	金二十錢以上金五十錢以下
複雜檢査	一件	金五十錢以上金一圓以下

八、文書料

普通文書	一通	金十錢以上金五十錢以下
精密文書	一通	金五十錢以上金一圓以下

診療上各號ニ依リ難キトキハ別ニ院長ノ定ムル料金ヲ徵收スルコトアルヘシ

第八條　名古屋市民病院診療規程所定ノ手續ヲ經テ診療ヲ受クル者ニ對シテハ使用料手數料ヲ免除ス但シ入院料ニ付テハ院長ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ減免ス

第九條　入院料ノ納付期日ハ入院當日、毎月十日、二十日、末日トシ次ノ納付期日迄ノ分ヲ前納セシム但シ納付期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰下ク

第十條　入院料納付後退院又ハ死亡シタルトキハ其ノ翌日分以後ニ相當スル既納ノ料金ハ之ヲ還付ス

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一、診療ノ結果ニ非サレハ料金ヲ算定シ難キトキ

二、應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ

三、院長ニ於テ前納セシメ難キ事情アリト認メタルトキ

第十二條　院長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ診療若ハ入院ヲ拒否シ又ハ退院ヲ命スルコトアルヘシ

一、患者定數ニ充チタルトキ

二、入院治療ノ必要ヲ認メサルトキ

三、入院期間ヲ經過シ又ハ入院治療ノ必要ナキニ至リタルトキ

四、風紀若ハ秩序ヲ紊シ他人ニ迷惑ヲ與フル等ノ行爲アリタルトキ

五、使用料手數料ヲ滯納シ其ノ他諸規定ニ違反シタルトキ

六、診療ヲ受クル資格ナキコトヲ發見シタルトキ

七、市カ特ニ設置セル他ノ診療所ニ於テ診療スルヲ適當ト認ムルトキ

第十三條　本細則施行ニ關シ必要ナル規定ハ市長ノ認可ヲ經テ院長之ヲ定ム

附　則

第十四條　電氣局現業員並其ノ家族ノ診療ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十五條　本細則ハ名古屋市民病院條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市民病院處務規程

和和六年六月二十四日
達第十九號

第一條　名古屋市民病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
副院長
部長
藥局長
事務長
副部長
醫員
事務員
藥劑員
技術員
看護婦長

前項ノ外必要ナル補助員ヲ置ク

第二條　院長ハ上司ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員以下ヲ指揮監督ス
副院長ハ院長ヲ補佐シ院長事故アルトキハ之ヲ代理ス
部長ハ其ノ科ノ診療事務ヲ掌リ所屬員ヲ指揮監督ス
藥局長ハ調劑並藥品及治療用品ニ關スル事務ヲ掌リ所屬員ヲ指揮監督ス
事務長ハ庶務及會計ヲ掌リ所屬員ヲ指揮監督ス
副部長ハ其ノ科ノ部長ヲ補佐シ診療ニ從ヒ部長事故アルトキハ之ヲ代理ス
醫員ハ診療ニ從事ス
事務員ハ庶務及會計事務ニ從事ス
藥劑員ハ調劑並ニ藥品及治療用品ニ關スル事務ニ從事ス
技術員ハ技術ニ關スル事務ニ從事ス
看護婦長ハ患者ノ看護、病室ノ整理ニ從事シ看護婦附添人等ヲ指揮監督ス
第三條　宿直ハ醫員、書記、藥劑員又ハ補助員ヲシテ之ヲ爲サシム
第四條　本規程ニ定ムルモノノ外名古屋市處務規程ヲ準用ス
第五條　院長ハ市長ノ決裁ヲ經テ本規程施行ニ關シ必要ナル細則ヲ定ムルコトヲ得

名古屋市衛生工事事務所處務規程

昭和七年十二月二十三日
達第二十一號
改正　昭和九年十二月二十七日達第十七號

第一條　名古屋市衛生工事事務所ハ水道部ニ屬シ水洗便所築造ノ設計並工事ニ關スル事務ヲ處理ス

第二條　事務所ニ左ノ係ヲ置ク
庶務係
工務係
第三條　事務所ニ所長、係ニ係長ヲ置ク
第四條　所長ハ上司ノ指揮ヲ承ケ所內ノ事務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督ス
第五條　所長差支アルトキハ係長ハ其ノ主管事務ニ付所長ヲ代理ス
第六條　各係ノ分掌事項左ノ如シ

庶務係

一、文書ノ收發並例規ノ編纂保存ニ關スル事項
一、事業運營計畫ニ關スル事項
一、所員及傭人ノ進退賞罰其ノ他身分ニ關スル事項
一、歲入出豫算、決算並收支計算ニ關スル事項
一、物品ノ出納保管及土地建物ノ管理借入ニ關スル事項
一、工事材料品器具機械並物品ノ購入賣却及工事請負其ノ他勞力供給契約ニ關スル事項
一、工費手數料、立替金ノ調定收納還付ニ關スル事項
一、他係ノ主管ニ屬セサル事項

工務係

一、工事ノ設計調査並實施監督及精算ニ關スル事項
一、工事材料品ノ試驗檢査ニ關スル事項
一、器具機械其ノ他ノ製作修繕ニ關スル事項
一、其ノ他工事ニ關スル事項

第七條　工事施行上ノ必要ニ依リ出張所、檢査所、派出所又ハ詰所ヲ設クルコトアルヘシ
第八條　前各條ニ定ムルモノノ外名古屋市處務規程ニ依ル

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水洗便所築造ニ關スル條例

昭和七年十二月二十三日
條例第十六號

第一條　市ハ衛生狀態改善ノ爲メ希望者ノ請求ニ應シ水洗便所築造ノ設計並工事ヲ行フ
第二條　水洗便所ノ築造工事又ハ設計ニ要スル費用（以下單ニ費用ト稱スヽ）ハ請求者ヨリ之ヲ徵收ス
第三條　費用ハ之ヲ前納スルモノトス但シ官公署其ノ他前納ノ必要ナシト認ムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第四條　費用ヲ一時ニ納付スルコト能ハサル者ハ市長ノ許可ヲ得テ六年ヲ超エサル期間內ニ分納スルコトヲ得
第五條　費用ヲ分納スル場合ニ於テハ完納ニ至ル迄市長ノ定ムル利息ヲ納付スルヲ要ス
第六條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和八年一月十日告示第四號ヲ以テ昭和八年一月十日ヨリ施行）

水洗便所築造ニ關スル條例施行細則

昭和九年九月二十七日
告示第二百七號

第一條　本則ニ於テ條例ト稱スルハ水洗便所築造ニ關スル條例ヲ謂フ
第二條　條例第三條ニ依ル費用ハ工事竣功ノ際之ヲ精算シ過不足ヲ生シタルトキハ之ヲ還付又ハ追徵ス但シ其ノ額十錢未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
第三條　條例第四條ニ依ル分納工費及前條ニ基ク追徵金ハ之カ完納ニ至ル迄ハ水洗便所裝置ノ所有權ヲ本市ニ留保シ申込者ヲシテ保管ノ責ニ任セシメ之ヲ滯納シタルトキハ「シスターン」內「サイホン」ヲ取外シ又ハ其ノ他適當ト認ムル處置ヲ爲スコトアルヘシ但シ之カ爲生シタル損害ニ付テハ本市其ノ責ニ任セス
第四條　條例第四條ニ依リ工費分納ノ場合ニ於テハ月賦證書ノ提出アリタル後工事ニ着手スルモノトス
月賦證書ニハ保證人ノ連署ヲ要ス
保證人ハ分納者ト連帶シテ分納工費ヲ納入スルノ責ニ任ス
保證人ハ市內ニ居住スル能力者ニシテ不動產ヲ所有スル者ニ限ル但シ分納者カ借家、借地人ナルトキハ其ノ家屋又ハ土地所有者ヲ以テ保證人ト爲スヘシ
保證人其ノ住所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨市長ニ屆出ツヘシ

保證人其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ水洗便所築造工事請求者ハ更ニ保證人ヲ定メ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第五條　條例第五條ニ依ル利息ハ工費總額ニ對シ年利率五朱五厘以内トス

第六條　分納期間ハ工事竣功ノ月ヨリ起算ス

第七條　條例第四條ノ許可ヲ得タル者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ速ニ届出ツヘシ

一、水洗便所築造工事請求者、保管者、管理者、使用者又ハ其ノ代理人（以下單ニ係者ト稱ス）ノ異動若ハ資格ノ喪失ニ關スル事由ノ生シタルトキ

二、關係者ノ住所氏名ヲ變更シタルトキ

第八條　分納金完納前左記各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ未納額ヲ即時完納セシム

一、水洗便所カ不用ニ歸シタルトキ

二、變災其ノ他ノ事故ニ依リ水洗便所ノ滅失毀損シタルトキ

三、條例並ニ本則ノ規定ニ違背シタルトキ

第九條　使用開始後ニ於ケル水洗便所ノ修繕ニ付テハ關係者ニ於テ處理スルモノトス

第十條　水洗便所ノ新設、增設、位置變更又ハ改造ノ爲請求者ヨリ提供シタル器具其ノ他ノ材料ハ所定ノ檢査ヲ經タルモノニ限リ其ノ使用ヲ認ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ別ニ定ムル所ノ檢査ニ關スル費用ヲ納付スヘシ

第十一條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ別ニ定ムル所ノ設計ニ要スル費用ヲ徵收ス

一、工事ノ設計ノミヲ請求シタルトキ

二、工事ノ設計上特別ノ勞費ヲ要シタルトキ

三、工事ノ請求ヲ取消シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テ工事施行ノ準備ニ要シタル費用アルトキハ別ニ之ヲ徵收ス

第十二條　水洗便所裝置ニ關スル標章及請求申請諸屆ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本則ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

水洗便所裝置ニ關スル標章及請求申請諸屆樣式ノ件

昭和九年十月三十一日
告示第二百三十四號

下記目的ニ關シ別紙樣式ヲ以テ水洗便所裝置請求書ヲ出入スベシ

第一號樣式（水洗便所裝置請求書）

水洗便所裝置新設請求書

一水洗便所裝置場所　區　町　丁目　番地

一水洗便所使用者

一職業　人口

一便所ノ數　大便所　小便所　箇所　箇所

右新設工事施行相成度請求候也

追テ設計手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定次第納附可致候

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地
請求者

名古屋市長殿

右水洗便所裝置新設ノ儀承諾候也

名古屋市　區　町　丁目　番地
家屋所有者

名古屋市　區　町　丁目　番地
給水裝置所有者

（注意）家屋所有者ニ非サル者ノ請求ニ係ルトキハ家屋所有者ノ承諾ヲ要ス
給水裝置所有者ニ非サル者ノ請求ニ係ルトキハ給水裝置所有者ノ承諾ヲ要ス

日號	月	年	昭和
受付			第

工費						
設計		積算	差引			
			不足	過剩		
金額	円	円	円	円		
通知月日	月　日		月　日	竣工	年　月　日	
通知番號	第　號		第　號（　）	裝置番號	第　號	
納付期日	月　日		月　日	摘要		
收入期日	月　日		月　日			

第四號樣式

受付	昭和 年 月 日 第 號

名古屋市長殿

昭和 年 月 日

水洗便所有者 住所 名古屋市 区 町 番地 丁目 番地 氏名

一、事由 一、水洗便所設置場所 水洗便所設置 区 町 丁目 番地

一、水洗便所設置番號 第 號

右水洗便所設置ニ付テハ手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定次第納附可致候

工事施行相成度請求候也

名古屋市 区 町 丁目 番地

請求者

保證人

住所 氏名

便所竣工年月日	住所	氏名	保證人	住所	氏名

（注意）一、保證人ハ市内ニ住所ヲ有スル能力者ニシテ家屋又ハ土地ヲ有スル者ニ限ル 二、家屋所有者ニ非サル者ノ請求ニ係ル家屋所有者ヲ要ス 三、給水裝置所有者ニ非サル者ノ請求ニ係ル給水裝置所有者ノ承諾ヲ要ス

第九類 衛生

名古屋市長殿

昭和 年 月 日

水洗便所有者 住所 名古屋市 区 町 番地 丁目 氏名

一、水洗便所裝置場所 水洗便所裝置 区 町 番地 丁目 番地

一、水洗便所裝置番號 第 號

右水洗便所裝置ニ付テハ手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定次第納附可致候

工事施行相成度請求候也

名古屋市 区 町 丁目 番地

請求者

保證人

住所 氏名

便所竣工年月日	住所	氏名	保證人	住所	氏名

（注意）一、保證人ハ市内ニ住所ヲ有スル能力者ニシテ家屋又ハ土地ヲ有スル者ニ限ル 二、家屋所有者ニ非サル者ノ請求ニ係ル家屋所有者ノ承諾ヲ要ス 三、給水裝置所有者ニ非サル者ノ請求ニ係ル給水裝置所有者ノ承諾ヲ要ス

第三號樣式

殿	計	納	第	差足	不	過	引剩
工金額	円	円		円		円	
通知月日	月 日	月 日		月 日		竣工 年 月 日	
通知番號	第 號		第 號			裝置番號 第 號	
納付期日	月 日	月 日		月 日		摘要	
收入月日	月 日	月 日		月 日		要	

水洗便所裝置請求者

住所 氏名 保證人 住所 氏名

便所竣工年月日

裝置年月日

裝置番號第 號

竣功昭和 年 月 日

分納期間 自昭和 年 月 至昭和 年 月

第 号

平 月 日

交付

水洗便所裝置場所

一、便所ノ數 小便所 箇所 一、便所ノ數 大便所 箇所

右水洗便所裝置年賦分納ニ係リ納設相成度奥功ノ上ハ左記各項ヲ行可致候條依ヲ保證人連署ヲ以テ本書差出候也

一、分納期間中水洗便所裝置不用トナリタル場合ハ未納額ハ即時一、分納期間中水洗便所裝置ヲ亡失シタル場合ハ其費用ヲ負擔可致候

完納可致候

一、分納期間中保管者變更ノ必要生シタル場合ハ直ニ分納繼續者ヲ定メ屆出可申候

一、水洗便所裝置請求者ニ於テ保管ノ管理ヲ怠リタル時ハ保証人ノ權利義務ヲ履行セサル場合ハ手續ヲ履行セサル場合ハ保證人ニ於テ該裝置ニ關スル一切

一、水洗便所裝置ニシテ規定ノ工費ヲ超過シタル部分ハ即時可致候

一、前各號ノ外御市水洗便所裝置ニ關スル條例及同施行細則ヲ遵守可致候

名古屋市 区 町 丁目 番地

昭和 年 月 日 請求者

名古屋市 区 町 丁目 番地

保證人

名古屋市長殿

右水洗便所裝置ノ儀承諾候也

名古屋市 区 町 丁目 番地

第五號樣式

設計變更請求書

一、水洗便所裝置場所　區　町　丁目　番地

一、水洗便所裝置番號　第　號

一、工事ノ種類　工事

一、前請求ノ年月日　昭和　年　月　日

右設計變更相成度請求候也

追テ設計手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定ニ從ヒ納附可致候

名古屋市　區　町　丁目　番地

昭和　年　月　日　請求者

名古屋市長殿

受付	昭和　年　月　日 第　號

工費						
設計	金額	円	精算	円	差引 不足	円
					差引 過剰	円
通知月日	月　日		月　日	竣工	年　月　日	
通知番號	第　號		第　號	裝置番號	第　號	
納付期日	月　日		月　日	摘要		
收入月日	月　日		月　日			

第六號樣式

水洗便所裝置設計請求書

一水洗便所裝置場所　區　町　丁目　番地

一便所ノ數　大便所　箇所　小便所　箇所

右設計相成度請求候也

追テ設計手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定ニ從ヒ納附可致候

名古屋市　區　町　丁目　番地

昭和　年　月　日　請求者

名古屋市長殿

受付	昭和　年　月　日 第　號

工費						
設計	金額	円	精算	円	差引 不足	円
					差引 過剰	円
通知月日	月　日		月　日	竣工	年　月　日	
通知番號	第　號		第　號	裝置番號	第　號	
納付期日	月　日		月　日	摘要		
收入月日	月　日		月　日			

第七號樣式

水洗便所工事請求取消屆

一水洗便所裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一水洗便所裝置番號　　第　　號

一工事ノ種別　　工事

一前請求年月日　昭和　年　月　日

右取消相成度御屆候也

追テ設計手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定ニ從ヒ納附可致候

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

昭和　年　月　日　　請求者

名古屋市長殿

受付	昭和　年　月　日
	第　　號

工費						
設計		特算	差引 不足	差引 過剰		
金額	円	円	円	円		
通知月日	月　日		月　日	竣工	年　月　日	
通知番號	第　　號		第　　號	裝置番號	第　　號	
納付期日	月　日		月　日	摘要		
收入月日	月　日		月　日			

第八號樣式

水洗便所裝置材料品檢査申請書

受付	昭和　年　月　日
	第　　號

拙者所有ノ左記材料品水洗便所裝置用トシテ使用致度候間檢査ノ上御承認相成度申請候也

追テ檢査手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定ニ從ヒ納附可致候

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

昭和　年　月　日　　申請者

名古屋市長殿

第九號樣式

受付	昭和　年　月　日 第　號

區分	處理月日	印
分納證書	月　日	
分納臺帳	月　日	
區整理	月　日	

保證人變更届

一水洗便所裝置場所　區　町　丁目
一水洗便所裝置番號　第　號
一工費總額金　圓　錢
內納附濟金
差引未納額金
一舊保證人
一新保證人

右工費分納證書昭和　年　月　日付ヲ以テ差出置候該保證人資格喪失ニ付新保證人ニ於テ工費ニ關スル一切ノ義務ヲ承繼致候間以連署此段及御届候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地
水洗便所裝置保管者
名古屋市　區　町　丁目　番地
保證人
名古屋市　區　町　丁目　番地
保證人

名古屋市長殿

第十號樣式

受付	昭和　年　月　日 第　號

區分	處理月日	印
索引	月　日	
分納證書	月　日	
分納臺帳	月　日	
區整理	月　日	

水洗便所裝置保管者ニ付承認申請

一水洗便所裝置場所　區　町　丁目　番地
一水洗便所裝置番號　第　號
一分納期間　自昭和　年　月　至昭和　年　月　箇月間
一工費總額金　圓　錢
內納附濟金
差引未納額金

右水洗便所裝置保管者左記ノ通リ致候ニ就テハ舊保管者ヨリ提出ニ係ル昭和　年　月　日附工費分納證書ニ依ル一切ノ權利義務ヲ新保管者ニ於テ承繼致保證人ハ連帶ノ責ニ可任候間御承認相成度關係者連署ヲ以テ此段申請候也

名古屋市　區　町　丁目　番地
舊保管者
名古屋市　區　町　丁目　番地
新保管者
名古屋市　區　町　丁目　番地
保證人
名古屋市　區　町　丁目　番地
保證人

名古屋市長殿

擔保證券

（注意）新保管者ヨリ擔保證券ヲ提供セムトスルトキハ其ノ種類員數券面額ヲ記載シ舊保管者ヨリ提供シアル擔保證券ト引換相成度旨追記スヘシ

區分	處理月日印	索引	分納臺帳	設計書	區整理	
	月日	月日	月日	月日	月日	

受付	昭和 年 月 日	第 號

第十一號樣式

代理人届

一水洗便所裝置場所　區　町　丁目　番地

一水洗便所裝置番號　第　號

一代理人氏名

右代理人ナシテ水洗便所裝置ニ關スル一切ノ行爲ヲ處辨セシメ候間御届候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地
水洗便所裝置請求者所有者

名古屋市　區　町　丁目　番地
代理人

名古屋市長殿

區分	處理月日印	索引	分納臺帳	設計書	區整理	
	月日	月日	月日	月日	月日	

受付	昭和 年 月 日	第 號

第十二號樣式

代理人變更届

一水洗便所裝置場所　區　町　丁目　番地

一水洗便所裝置番號　第　號

一舊代理人氏名

一新代理人氏名

右變更致候間御届候也

一遡テ新代理人ノ權限ハ從前通リニ有之候

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地
水洗便所裝置請求者所有者

名古屋市　區　町　丁目　番地
新代理人

名古屋市長殿

受付	昭和　年　月　日 第　號

區分	處理月日	索引	分納臺帳	設計書	區整理
印		月日	月日	月日	月日

第十三號樣式

代理人解除届

一水洗便所裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一水洗便所裝置番號　　第　　號

一代理人氏名

右解除致候間御届候也

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

水洗便所裝置所有者

昭和　年　月　日

名古屋市長殿

受付	昭和　年　月　日 第　號

區分	處理月日	索引	設計書
印		月日	月日

第十四號樣式

水洗便所裝置所有權移轉届

一水洗便所裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一水洗便所裝置番號　　第　　號

一事　由

右水洗便所裝置ハ所有權移轉致候ニ付該裝置ニ關スル一切ノ權利義務ハ新所有者ニ於テ承繼致候間此段御届候也

昭和　年　月　日

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地　　舊所有者

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地　　新所有者

名古屋市長殿

第十五號樣式

受付	昭和　年　月　日
	第　　號

區分	處理月日	印
索引	月日	

水洗便所使用者變更届

一水洗便所裝置場所　　區　　町　丁目　番地

一水洗便所裝置番號　　第　　號

一舊使用者

右水洗便所使用者左記ノ通リ變更致候間御届候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

水洗便所裝置所有者
保管者

名古屋市長殿

新使用者

職業人口

便所ノ數

大便所　箇所
小便所　箇所

受付	昭和　年　月　日
	第　　號

區分	處理月日	印
索引	月日	
分納證書	月日	
分納臺帳	月日	
設計書	月日	
區整理	月日	

第十六號樣式

住所
氏名　變更届

一水洗便所裝置場所　　區　　町　丁目　番地

一水洗便所裝置番號　　第　　號

一舊住所　氏名　　區　　町　丁目　番地

一新住所　氏名　　區　　町　丁目　番地

右御届候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

昭和　年　月　日

名古屋市長殿

區分	處理月日	印
索引	月日	
設計書	月日	
分納臺帳	月日	

受付	昭和	年	月	日
	第			號

第十七號樣式

水洗便所裝置管理屆

一水洗便所裝置場所　區　町　丁目　番地

一水洗便所裝置番號　第　號

一水洗便所裝置所有者　區　町　丁目　番地

一事由

右水洗便所裝置ハ拙者ニ於テ管理致候間御屆候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

管理者

名古屋市長殿

受付	昭和	年	月	日
	第			號

第十八號樣式

水洗便所裝置減失屆

一水洗便所裝置場所　區　町　丁目　番地

一水洗便所裝置番號　第　號

一事由

一年　月　日　昭和　年　月　日

右御屆候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

水洗便所裝置所有者

名古屋市長殿

第九類 衛生

第十九號様式

受付	昭和　年　月　日 第　　號

名古屋市長殿

昭和　年　月　日

右本年一使用水洗便所設置番號　第　號

一水洗便所設置場所　名古屋市　區　町　丁目　番地

水洗便所設置廃止届

右水洗便所設置廃止致候間御届候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

水洗便所有者

設計	精算	差引剰不足	過	
工金額	円	円	円	
通知月日	月　日	月　日	竣工	年　月　日
通知番號	第　號	第　號	装置番號	第　號
納付期日	月　日	月　日	摘要	
収入月日	月　日	月　日		

四五〇

（注意）

一、家屋番號ヲ有スル家屋ニ付テハ家屋番號ヲ、家屋番號ヲ有セサル家屋ニ付テハ其ノ所在地ヲ、土地ニ付テハ其ノ所在地ヲ、所有者ニ付テハ住所ヲ、氏名ヲ、保證人ニ付テハ住所ヲ、氏名ヲ、保證年月日ヲ、記スヘシ

二、水洗便所設置ノ場合ニ於テハ其ノ水洗便所ノ構造ヲ、汲取便所ノ場合ニ於テハ其ノ便所ノ構造ヲ、便所ノ平面図ヲ添付スヘシ

三、水洗便所ノ場合ニ於テハ其ノ水洗便所ノ構造ヲ、便所ノ場合ニ於テハ其ノ便所ノ構造ヲ、便所ノ平面図ヲ添付スヘシ

四、水洗便所ノ場合ニ於テハ其ノ水洗便所ノ構造ヲ、便所ノ場合ニ於テハ其ノ便所ノ構造ヲ、便所ノ平面図ヲ添付スヘシ

五、水洗便所ノ場合ニ於テハ其ノ水洗便所ノ構造ヲ、便所ノ場合ニ於テハ其ノ便所ノ構造ヲ、便所ノ平面図ヲ添付スヘシ

水洗便所設置届書	年　月　日	氏名	住所	保證人	氏名	住所	保證年月日

装置番號第	號
竣功昭和　年　月　日 分納期間 自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日	

受付	年　月　日 第　號

第九類 衛生

第十九號様式

水洗便所装置届書

一、水洗便所設置場所　区　町　丁目　番地

一、便所ノ数　小便所　箇所

右昭和　年　月　日　名古屋市長殿

相成度候也

記

一金　円　内訳　工賃　円　材料費　円

分納期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日

分納額　毎月金　円

竣功昭和　年　月　日

装置番號第　號

第　年　月　日　納付

第　號

第三十號様式（罫線）

名古屋市家畜病院條例

昭和九年三月三十一日
條例第五號

第一條 名古屋市家畜病院ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ家畜ノ診療ヲ行フ

本條例ニ於テ家畜ト稱スルハ牛馬其ノ他市長ノ指定シタル畜類ヲ謂フ

第二條 家畜ノ診療ヲ依賴スル者ニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル使用料手數料ヲ徴收ス

一、入　院　料　一日五十錢以上三圓以下
二、手術又ハ處置料　一回十錢以上五圓以下
三、藥劑又ハ治療材料　一種又ハ一日五錢以上五十錢以下
四、檢　査　料　一件二十錢以上一圓以下
五、文　書　料　一通十錢以上一圓以下
六、裝　蹄　料　一蹄十錢以上一圓以下
七、剃　毛　料　一頭一圓以上二圓以下

診療上前各號ニ依リ難キ場合ハ別ニ市長ノ定ムル料金ヲ徴收ス

第三條 使用料及手數料ハ之ヲ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 市長ニ於テ管理上必要アリト認メタル者ニ對シテハ家畜ノ診療ヲ拒絶スルコトアルヘシ

第六條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和九年三月三十一日告示第五十四號ヲ以テ昭和九年四月一日ヨリ施行）

名古屋市家畜病院條例施行細則

昭和九年三月三十一日
告示第五十三號
改正　昭和十年六月三日告示第二百七十四號

第一條 名古屋市家畜病院條例（以下條例ト稱ス）第一條第一項ニ依リ家畜ノ診療ヲ依賴セントスル者ハ院長ノ承認ヲ受クヘシ

第二條 條例第一條第二項ニ依ル家畜ハ左ニ指定スル畜類ノ外院長ノ指定スル所ニ依ル

緬羊、山羊、豚、犬、猫、鷄

第三條 條例二條ノ使用料、手數料ハ左ノ通トス

一、入　院　料
牛　馬　一日二圓以上三圓以下
緬羊、山羊、豚　一日一圓以上二圓以下
犬、猫、鷄　一日五十錢以上一圓二十錢以下
二、手　術　料
牛　馬　一回五十錢以上五圓以下
緬羊、山羊、豚　一回二十錢以上四圓以下
犬　猫　一回二十錢以上四圓以下
鷄　一回二十錢以上五十錢以下
三、處　置　料
牛　馬
普通處置　一回五十錢以上一圓以下
特別處置　一回一圓以上三圓以下
注　射　一回一圓以上四圓以下
緬羊、山羊、豚
普通處置　一回三十錢以上一圓以下
特別處置　一回一圓以上二圓以下
注　射　一回一圓以上三圓以下
犬　猫
普通處置　一回十五錢以上一圓以下
特別處置　一回五十錢以上二圓以下
注　射　一回五十錢以上三圓以下
鷄
普通處置　一回十錢以上二十錢以下
特別處置　一回二十錢以上三十錢以下
注　射　一回十錢以上三十錢以下
四、藥　劑
牛　馬
一種一劑　一日分三十錢以上五十錢以下
一種一劑　一回分二十錢以上四十錢以下
緬羊、山羊、豚
一種一劑　一日分二十錢以上三十錢以下
一種一劑　一回分十錢以上二十錢以下
犬　猫
一種一劑　一日分十錢以上二十錢以下
一種一劑　一回分五錢以上五錢以下
鷄
一種一劑　一日分八錢以上十錢以下
一種一劑　一回五錢以上八錢以下
五、治療材料　一種五錢以上五十錢以下
六、檢　査　料
簡易檢査　一件二十錢以上五十錢以下
復雜檢査　一件五十錢以上一圓以下
七、文　書　料
普通文書　一通十錢以上五十錢以下
精密文書　一通五十錢以上一圓以下
診　察　券　一通十錢
往　診　券　一通一圓
八、裝　蹄　料
新蹄鐵裝蹄　一蹄三十錢以上一圓以下
舊蹄鐵打換　一蹄二十錢以上八十錢以下
削　蹄　一蹄十錢以上三十錢以下
九、剃　毛　料　一頭一圓以上二圓以下

診療下前各號ニ依リ難キトキ及院長ノ指定シタル家畜ニ對スル使用料手數料ハ院長ノ定ムル所ニ依ル

第四條 前條ノ使用料手數料ハ勞役傳用犬ニ對シテハ條例ノ範圍内ニ於テ百分ノ五十迄ヲ減シタル額トシ本市住民ニ非サル者ノ所有セル家畜ニ對シテハ條例ノ範圍内ニ於テ百分ノ五十迄ヲ增シタル額トス

第五條 入院料ノ納付期日ハ入院當日、毎月十日、二十日、末日トシ次

ノ納付期日迄ノ分ヲ前納セシム但シ納付期日休日ニ當ル日キハ之ヲ繰下ク

第六條　入院料納付後退院又ハ斃死シタルトキハ其ノ翌日分以後ニ相當スル既納ノ料金ハ之ヲ還付ス

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ院長ハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一、診療ノ結果ニ非サレハ料金ヲ算定シ難キトキ

二、應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ

三、院長ニ於テ為納セシメ難キ事情アリト認メタルトキ

第八條　院長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ診療若ハ入院ヲ拒絶シ又ハ退院ヲ命スルコトアルヘシ

一、患畜定數ニ充チタルトキ

二、入院治療ノ必要ヲ認メサルトキ

三、入院治療ノ必要ナキニ至リタルトキ

四、使用手數料ヲ滯納シ其ノ他諸規程ニ違反シタルトキ

五、其他院長ニ於テ管理上必要ト認メタルトキ

第九條　診療ノ爲要スル職員ノ出張旅費、家畜輸送費及診療用器具材料運搬費ハ依頼者ノ負擔トス

第十條　本細則施行ニ關シ必要ナル規程ハ市長ノ認可ヲ經テ院長之ヲ定ム

附則

本細則ハ名古屋市家畜病院條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市家畜病院處務規程

昭和九年三月三十一日
達第二一號

第一條　名古屋市家畜病院ニ左ノ職員ヲ置ク

一、院長　一人

二、獸醫員　若干人

三、事務員　若干人

前項ノ外必要ナル補助員ヲ置ク

第二條　院長ハ上司ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

院長事故アルトキハ上席職員之ヲ代理ス

獸醫員ハ獸醫務ニ從事ス

事務員ハ庶務及會計事務ニ從事ス

第三條　宿直ハ獸醫員事務員又ハ補助員ヲシテ之ヲ爲サシム

第四條　本規程ニ定ムルモノノ外名古屋市處務規程ヲ準用ス

第五條　本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ市長ノ認可ヲ經テ院長之ヲ定ム

第十類　水道

水道部派出所竝出張所設置ノ件

大正十年五月十三日
告示第四十七號

改正 昭和四年四月十九日 告示第六十九、七十號　昭和四年五月七日 告示第七十三號　昭和六年十二月八日 告示第三百六十九號
昭和六年十二月十六日 告示第三百七十六號　昭和八年八月二十六日 告示第二百六十九號　昭和八年四月十九日 告示第百七十二號
昭和十年五月二十四日 告示第二百二號

名古屋市南區熱田白鳥町二十七番地ノ一（白鳥橋東詰）ニ名古屋市役所水道部南派出所ヲ設置シ大正十年六月一日ヨリ左記事務ノ取扱ヲ開始ス

一、水道ノ申込及諸屆
一、共用給水鑑札鍵ノ交付引換
一、給水裝置ノ修繕
給水事務取扱ノ爲左記ノ通名古屋市水道部出張所ヲ設置ス

水道部高辻出張所　位置　名古屋市中區東郊通九丁目一八二〇番地
事務取扱開始　昭和四年四月二十日
取扱事務
一、給水及給水工事ノ請求受付竝ニ實施ニ關スル事項
一、給水裝置ノ修繕ニ關スル事項
一、給水鑑札、鍵ノ交付引換ニ關スル事項
一、給水關係者ノ異動其他諸屆受付ニ關スル事項

水道部米野町出張所　位置　名古屋市中區米野町仲田一三五番地ノ二、一三六番地ノ三、一三七番地ノ一
事務取扱開始　昭和四年四月二十日
取扱事務（高辻出張所ニ同シ）

水道部大曾根出張所　位置　名古屋市東區大曾根町百五十七番地ノ六
事務取扱開始　昭和四年五月十日
取扱事務（高辻出張所ニ同シ）

水道部南武平町出張所　位置　名古屋市中區南武平町一丁目一番地
事務取扱開始　昭和八年八月二十九日
取扱事務（高辻出張所ニ同シ）

水道部築地出張所　位置　名古屋市南區千年町字二ノ割六九二番地
事務取扱開始　昭和八年四月二十日
取扱事務（高辻出張所ニ同シ）

水道部富川町出張所　位置　名古屋市南區富川町二丁目一番地
事務取扱開始　昭和十年六月一日
取扱事務（高辻出張所ニ同シ）

水道檢査員任用規程

大正十五年二月十二日
達第十一號

第一條　名古屋市水道檢査員ノ任用ハ本規程ノ試驗ニ合格セシ者ニシテ職務修習ヲ終リタル者ニ限ル

第二條　試驗ハ必要ニ應シ隨時之ヲ行フ

第三條　試驗ハ學科及口述ノ二種トス

學科試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ施行ス

水道ニ關スル法規

讀書
作文
筆寫
算術

口述試驗ハ應答及常識試問トシ前項學科試驗ノ合格者ニ對シ之ヲ行フ

第四條 受驗者ハ年齡滿二十歳以上四十五歳未滿ノ男子ニシテ身體强健且左記各號ニ該當セサル者ニ限ル

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二、破産者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 受驗者ハ左記樣式ニ依ル自筆ノ試驗願書ヲ市長ニ提出スヘシ

第六條 試驗ニ合格シタル者ハ直ニ之ヲ本人ニ通知スヘシ

第七條 本試驗ニ合格シタル者ハ其ノ任命前二十日間以内水道檢査員ノ職務ヲ修習セシム

第八條 職務修習中ノ者ニシテ其成績不良ナルカ若クハ必要アリト認メタルトキハ直ニ修習ヲ中止セシムルコトアルヘシ

記

試驗願書

現住所
氏　　生年月日
名

名古屋市水道檢査員志願ニ付試驗相受度別紙履歷書、身元證明書、戸籍謄本及健康診斷書相添ヘ此段及御願候也

大正　年　月　日　右　氏　名㊞

名古屋市長殿

履歷書

本籍地、族稱
現住所、戸主又ハ戸主トノ續柄
氏　　生年月日
名

學事
一、、、、、、、
職業
一、、、、、、、
賞罰
一、、、、、、、

右ノ通ニ候也

右　氏　名㊞

檢査員及檢査監督服務規程

昭和十年五月十七日
達第十二號

第一條 上水道事務ニ從事スル檢査員（以下單ニ檢査員ト稱ス）ハ上司ノ命ヲ承ケ本規程ノ定ムル所ニ據リ各受持區域内ノ職務ニ從事スヘシ

第二條 檢査員ハ水道工作物及附屬物ノ保全ニ努メ破損又ハ破損ノ慨アルトキハ直ニ適切ナル措置ヲ施シ其ノ旨上司ニ報告スヘシ

第三條 檢査員ハ給水及導水裝置ノ檢査其ノ他水道使用ノ取締ニ任シ給水條例違反ノ行爲アリタルトキハ無切ニ注意シ實行ヲ具シ上司ニ報告スヘシ

第四條 檢査員ハ給水關係者ノ使用水量ノ點檢及戸口、給水種別ノ異動其ノ他給水狀況ノ調査ヲ爲スヘシ

第五條 檢査員ハ工事其ノ他ノ事故ニ依リ斷水ヲ要スル場合ハ速ニ關係給水使用者ニ告知スヘシ

第六條 市長ハ必要ニ應シ檢査監督ヲ置キ主事補、書記又ハ檢査員中ヨリ之ヲ命ス

第七條 檢査監督ハ上司ノ命ヲ承ケ檢査員ヲ補導監督シ其ノ職務執行ノ聯絡統制ヲ圖リ毎月五日迄ニ其ノ成績ヲ水道部長ニ報告スヘシ

水道管理心得

大正三年五月四日
達第二十號

第一章 通則

第一條 水道各構内（水源地、沈澱池、濾過池、配水池）ハ晝夜監視ヲ嚴重ニシ塵埃其他不潔物ノ除去酒掃ニ勉メ清潔ヲ保ツヘシ

第二條 水道構内ハ猥リニ人畜ヲ出入セシムヘカラス但シ上司ノ許可ヲ得タルモノニ對シテハ特ニ注意ヲ加ヘ縱覽セシムヘシ

第三條 暴風雨其他事變ノ場合ハ直ニ構内ヲ巡回シ其ノ狀況顚末ヲ係主任ニ報告スヘシ

第四條 「バルブ」ノ開閉等他ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ハ豫メ打合ノ上施行スヘシ

第五條 斷水ハ淨水係主任ノ指揮アルニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六條 天災其他ノ事故ニ因リ水源ニ不潔ヲ來シ衞生上危害アリト認メタルトキ及緊急斷水スルニアラサレハ損害又ハ危險ノ程度ヲ增大スルノ虞アリト認メタルトキハ速ニ斷水ヲ行ヒ即時淨水係主任ニ報告スヘシ

第七條 水源地濾過池ニアリテハ「レベルレコーダー」ニ依リ配水池ニアリテハ「ペツチエリミーター」ニ就キ左ノ各項ヲ注意スヘシ

一、自記用「インキ」ノ補充

一、一週一回「スプリング」ヲ卷クコト

一、一週一回「レコード」用紙ヲ取換フルコト

一、使用濟ノ「レコード」ハ整理シテ保管スルコト

第二章 水源地

第八條 取入口附近ニ於テハ繫船、洗濯、屎放、遊泳、捕魚、塵埃投棄ヲ嚴禁シ其他不潔ノ行爲ヲナサシムヘカラス

第九條 本會川出水若クハ出水ノ兆アルトキハ特ニ注意ヲ加ヘ必要ノ場合ハ番人ヲ附シテ晝夜監視シ其狀況ヲ時々淨水主任ニ報告スヘシ

第十條 第一水門ハ破損其他事故ナキ限リ立切ルヘカラス

第十一條 第二水門制水扉ハ「レベルレコーダー」ニ依リテ加減スルモ

ノニシテ常ニ三門平均シテ使用スヘシ

第十二條　第三水門ハ常ニ全開シ第二門ニ故障ナキ限リ閉鎖スヘカラス

第十三條　送水量ハ沈澱池ヨリ請求アル場合ノ外猥リニ増減スヘカラス

第三章　沈澱池

第十四條　沈澱池ノ掃除ハ淨水係主任ノ指揮ニ依リ之ヲ行ヒ定時掃除ハ一年二回トシ水源汚濁其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ臨時掃除ヲ行フモノトス

第十五條　沈澱池ノ水面ハ送水中ノモノヲ除ク外ハ常ニ清水面ヲ維持セシムヘシ

第十六條　取水塔ノ芥除ハ日々掃除ヲ怠ルヘカラス

第十七條　取水塔「バルブ」ノ開放ハ上部ヨリ順次下部ニ及ホスモノニシテ第一池ヨリ第二池ニ送水ヲ交換スル場合ハ先ツ第二池取水塔「バルブ」ヲ開放シタル後第一池取水塔「バルブ」ヲ閉鎖スヘシ第二第三又ハ第三第一ノ場合亦仝シ

第十八條　沈澱時間二晝夜以内ノ水ヲ送水スヘカラス

第四章　濾過池

第十九條　濾過池ハ上水道ニ於ケル最モ主要ナル施設ナレハ特ニ慎重ノ取扱ヲナスヘシ

第二十條　濾過池ハ使用スルニ從ヒ漸次土砂ノ沈澱物ヲ生シ水ノ濾過ヲ妨ギ濾水井ノ水面ハ漸次下降シ或ル落差ヲ生スヘシ此落差二尺ニ至リタルトキハ砂面ヲ掃除スヘキ時期ニ達シタルモノナレハ其旨淨水係主任ニ報告シ指揮ニ依リ掃除スルモノトス

第二十一條　濾過池ヲ掃除スルニハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一、池内ノ水ヲ排除スルニハ先ツ給水渠ノ「フラットバルブ」及調整管ニ取付ケアル「バルブ」ヲ閉塞シ然ル後排水用「バルブ」ヲ徐々ニ開放シ排水スルコト

一、濾過池内ノ水ヲ排除シ終リタルトキハ先ツ側壁ヲ清掃シ次ニ沈澱物ヲ砂ト共ニ溝ヲ掘キ取リ砂捨場ニ搬出スヘシ

一、運搬通路ハ敷板ヲ設ケ砂層ノ動搖ヲ防キ且ツ其跡ヲ平坦ニ掻均シ置クモノトス

一、池内ニ立入ラシムヘキ工夫人夫等ハ總テ履物ヲ脱セシメ且ツ池内ニハ吐唾其他不潔ノ所爲ナカラシムルコト

第二十二條　空虚ナル濾過池ハ如何ナル場合ヲ問ハス直ニ水ヲ注入スヘカラス必ス調整管ノ「バルブ」ヲ開放シ濾水井ヨリ逆ニ送水シ給水渠送水管ノ「ベルマウス」ト平均スル程度ニナリシ後「フラットバルブ」ヲ開放シ送水スヘシ

第二十三條　濾過池掃除ノ後始メテ使用スル場合ニハ砂層ノ動搖ニ因リ濁濁ヲ生スルモノナレハ適當ノ時間排水シ清淨ニ至リタル後送水スヘシ

第二十四條　濾過砂取替後始メテ使用スルニハ一晝夜以上排水シ水質良好ト認メタル上ニ於テ送水スヘシ

第二十五條　濾過速度ハ各池ヲ通シテ常ニ等一ヲ要スルモノナレハ任意ニ調整管ヲ加減スヘカラス

第二十六條　停止シタル喞筒ヲ運轉セントスルトキハ必ス呼水入レノ漏斗若クハ排出管ノ取付ケアル「スルースバルブ」及「チエツキバルブ」ノ「バイパツス」ヲ開キテ「エイヤコツタ」ヨリ流出スル水ノ泡ヲ

含マサルマテ注入スヘシ

第二十七條　喞筒ノ運轉ヲ止ムル場合ハ其前ニ必ス「バイパツス」及「スルースバルブ」ヲ閉塞スヘシ

第二十八條　喞筒ノ運轉及停止ハ「レベルレコーダー」ニテ表示スル「ヘツド」ニ依リ任意其係員ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十九條　配水池「ヘツド」ハ十尺ヨリ減水セシムヘカラス

第五章　配水池

第三十條　配水池ノ水面ハ常ニ十尺ヨリ減水セシムヘカラス

第三十一條　配水池ノ池壁ニ水垢其他自然ノ作用ニ因リ不潔ノ傾向ヲ呈シタルトキハ淨水係主任ノ指揮ヲ受ケ掃除スヘシ

第三十二條　配水池ニアリテハ常ニ市内給水ノ狀況ヲ知悉シ出火ノ場合増水ノ要求ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク配水スヘシ

第三十三條　「レベルレコーダ」用電池ハ一ケ月二回掃除スヘシ

第六章　關渠送水路

第三十四條　開渠内ノ芥除ハ日々掃除ヲナシ塵埃等ヲ停滯セシムヘカラス

前項ニ依リ取除タル塵芥ハ所定ノ所ニ搬出シ散逸セサル樣注意スヘシ

第三十五條　砂溜掃除期ハ水ノ清濁ニ因リ一定スルヲ得ザルモノナレハ常ニ注意シテ溜砂ナカラシムルテ要ス

第三十六條　餘水吐門扉ハ淨水係主任ノ指揮アルニアラサレハ開閉スルコトヲ得ス但シ緊急必要アリト認メタルトキハ臨機ノ處置ヲナシ直チニ淨水係主任ニ報告スヘシ

第三十七條　橋渠、掛樋、暗渠、伏越、其他附帶道路等水道附屬ノ施設物ハ常ニ監視ヲ怠ルヘカラス

第七章　鐵管送水路

第三十八條　「バルブ」ハ總テ淨水係主任ノ指揮アルニアラサレハ開閉スルコトヲ得ス但シ非常ノ場合ハ此限リニアラス

第三十九條　前條但書ニ依リ「バルブ」ヲ閉塞シタル場合ハ直ニ淨水係主任並ニ關係各所ニ報告スヘシ

第四十條　「バルブ」ヲ閉塞スル場合ハ特ニ指揮ナキ限リハ下流ヨリ順次上流ニ及フモノトス

第四十一條　「バルブゲージ」ハ常ニ取付ケ置キ開閉ノ度ヲ明カナラシムモノナリハ絶對ニ取外スヘカラス

第四十二條　第三十七條ノ規定ハ本章ニ之ヲ準用ス

水道給水條例

大正十四年五月六日
條例第四號

改正　昭和六年五月一日　昭和九年七月十一日
条例第七號　條例第十七號

第一章　總則

第一條　本市水道ノ給水區域ハ市ノ行政區劃ニ依ル但シ水量ニ剩餘アル場合ニ於テ公益ノ爲メ若クハ本市ニ於テ必要アリト認ムルトキハ市外ニ給水スルコトヲ得

第二條　本市水道ハ特ニ指定シタルモノヽ外計量法ヲ用ヒ給水裝置ヲ左ノ三種トス

一、專用栓　一戸又ハ一事業ノ用ニ供スルモノ

二、共用栓　私設又ハ公設トシ二戸以上ノ共用若クハ公衆ノ用ニ供スルモノ

三、消火栓　私設又ハ公設トシ防火ノ用ニ供スルモノ

公設共用栓又ハ消火栓ハ別ニ規定スル所ニ依リ臨時他ノ目的ノ爲メ使用スルコトヲ得

第三條　給水裝置ノ種別及用途ノ決定ハ市長ノ認ムル所ニ依ル

第四條　本條例ニ於テ給水裝置ト稱スルハ給水ノ爲配水管ヨリ分岐シタル給水管及之ニ附屬スル給水用具ヲ以テ構成スル設備ヲ謂ヒ導水裝置トハ既設給水栓又ハ水槽ヨリ他ニ導水スル設備ヲ謂フ

第五條　本條例ニ於テ給水工事ト稱スルハ給水裝置ノ新設、增設、修繕其ノ他給水裝置ノ移動變更ニ關スル一切ノ工事ヲ謂フ

第六條　本條例ニ於テ給水ノ中止トハ止水栓ニヨル遮斷ヲ、廢止トハ給水管連絡ノ切斷ヲ、撤去トハ給水裝置ノ除却ヲ謂フ

第七條　本條例ニ於テ給水關係者ト稱スルハ給水裝置所有者、給水裝置保管者、給水裝置管理者、給水請求者、給水使用者、總代人、代理人ヲ謂フ

第八條　給水關係者ハ本條例及之ニ基キテ發シタル規定ヲ承認シタルモノト看做ス

第九條　給水關係者ハ家族、雇人若クハ同居者ノ行爲ニ對シ自己ノ意思ニ非サルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルヽコトヲ得ス

第二章　給水工事

第十條　給水工事ハ本市之ヲ施行ス但シ別ニ定ムル所ノ規定ニ依ルモノハ此ノ限リニ在ラス

第十一條　給水工事ハ之ヲ市長ニ請求スヘシ但シ撤去又ハ廢止ノ請求ヲ爲ストキハ末納ニ係ル工賃、給水料其ノ他ノ費用ヲ完納スヘシ

第十二條　給水工事（消火栓工事ヲ含ム）ニ要スル費用ハ總テ請求者ノ負担トス但シ別ニ規定スル所ニ依リ道路ニ屬スル部分ハ本市ニ於テ負担スルコトヲ得

第十三條　給水工事ハ工費ヲ前納スルニ非サレハ施行セス但シ官公署其ノ他前納ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　一時ニ工費ヲ納付スルコト能ハスト認ムルモノハ給水裝置新設ノ場合ニ限リ六箇年以内ニ於テ分納ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ハ分納證書ヲ提出セシ後ニ非サレハ施行セス

前項ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ保證人ヲ設ケ若クハ担保品ヲ提供スルヲ要ス

前項保證人ハ分納者ト連帶責任トス

分納額ニハ工費總額ニ對スル利息ヲ加算ス其ノ利率ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第十五條　給水工費ヲ指定期間内ニ納付セス又ハ分納證書ヲ提出サルトキハ給水工事ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第十六條　給水工事竣功ノ上工費ニ過不足ヲ生シタルトキハ之ヲ還附又ハ追徵スル但シ其ノ額壹圓未滿ナルトキハ此ノ限リ在ラス

前項ノ追徵金及分納工費ハ之ヲ完納スルニ至ル迄給水裝置ノ所有權ヲ本市ニ留保シ請求者ヲシテ保管ノ責ニ任セシメ之ヲ滯納シタルトキハ給水裝置ヲ撤去スルコトアルヘシ但シ之カ爲ニ生シタル損害額ハ之ヲ賠償セシム

第十七條　他人ノ給水裝置ヨリ分岐シテ給水裝置ヲ爲サムトスル者ハ其ノ所有者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

前項ニ依リ承諾ヲ爲シタル者給水裝置ヲ撤去又ハ廢止セムトスルトキハ像メ分岐給水裝置所有者ニ通知スヘシ

第十八條　給水裝置ノ爲請求者ヨリ提供シタル器具其ノ他ノ材料ハ所定ノ檢査ヲ經タルモノニ限リ其ノ使用ヲ認ムルコトヲ得

導水裝置ヲ爲サムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ其ノ改造、修繕撤去ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

本條ノ場合ニ於テハ市長ノ定ムル檢査手數料ヲ納付スヘシ

第十九條　給水裝置ノ位置ハ請求者ニ於テ指定スルコトヲ得但シ指定ノ位置不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ既設給水裝置若クハ導水裝置ニシテ其ノ位置不適當ト認メタル場合亦同シ

前項但書ニ依リ位置不適當ト認メ移轉セシメタル費用並給水工事施行ノ結果工作物ノ復舊ニ要スル費用ハ請求者ノ負担トス

本條ノ場合ニ於テ第三者ノ異議アルモ本市其ノ責ニ任セス

第二十條　給水工事竣施後三箇月以内ニ於テ給水請求者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因ル瑕疵アルヲ發見シタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ之ヲ修繕ス

第二十一條　給水裝置ノ故障又ハ水質ニ異狀アルヲ發見シタルトキハ直ニ修繕其ノ他必要ノ處置ヲ請求スヘシ若シ請求ヲ爲サヽルトキハ本市之ヲ施行ス

前項修繕ニ要シタル費用ハ給水關係者ノ負担トス但シ事由ニ依リ之ヲ減免スルコトアルヘシ

給水裝置ノ破損漏水ニ因ル損害ハ直接間接ヲ問ハス本市其ノ責ニ任セス

第二十二條　給水裝置所有者水道ノ不用ニ歸シタルトキハ直ニ給水裝置ノ撤去又ハ廢止ヲ請求スヘシ

本市ニ於テ給水不用ノ常態ニアリト認メタル場合ハ廢止スヘキ旨所有者ニ通知シ若シ通知ヲ爲スコト能ハスト認ムルトキハ公告ヲ以テ之ニ代ヘ給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

第二十三條　道路ノ新設、擴築、改築、修繕其ノ他ノ事由ニ因リ水道配水管並附屬具及之ニ關聯セル給水裝置ノ移轉、改造、撤去其ノ他ノ變更ヲ要スルトキハ請求ヲ俟タス本市ニ於テ之ヲ施行シ之ニ要スル一切ノ費用ハ其ノ工事ヲ爲スノ必要ヲ生セシメタル者ノ負担トス配水管及給水管ノ防護工事ニ必要ナル費用ヲ要スルトキ亦同シ

第二十四條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ノ定ムル設計手數料ヲ徵收ス

一、給水工事ノ設計ノミヲ請求シタルトキ

二、給水工事ノ設計上特別ノ勞費ヲ要スルトキ

三、給水工事ノ請求ヲ取消シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テ工事施行上ノ準備ニ要シタル費用アルトキハ別ニ之ヲ徵收ス

第三章　給　水

第二十五條　給水ハ不可抗力又ハ水道ニ關スル工事若クハ配給上止ムコトヲ得サル場合ノ外之ヲ制限又ハ停止スルコトナシ但シ市外給水ニアリテハ像メ期間及水量ヲ限定シ又ハ隨時制限、停止スルコトアルヘシ

給水ノ制限又ハ停止ヨリ生スル一切ノ損害ニ對シテハ本市其ノ責ニ任セス

第二十六條　船舶用水ヲ販賣シ又ハ專用船舶給水所ヲ設置セムトスルモノハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條　共用給水ハ一栓ヲ以テ一組合トシ現住ノ各戸ニ鑑札、鍵ヲ交付ス

鑑札、鍵ヲ亡失毀損シタルトキハ市長ノ定ムル手數料ヲ納付シテ再交付ヲ受クヘシ

第二十八條　給水關係者ハ量水器ノ試驗ヲ請求スルコトヲ得

前項試驗ノ結果水量百分ノ五以内ノ差異ナルトキハ市長ノ定ムル試驗手數料ヲ徵收シ使用水量ヲ更訂セス

水量百分ノ五ヲ超過シタル差異ナルトキハ前回點檢以後ノ使用水量ヲ訂正ス

量水器取外、取附、運般ノ費用ハ別ニ之ヲ徵收ス但シ試驗ノ結果水量百分ノ五ヲ超ユル時ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　本市ハ吏員ヲシテ其ノ證票ヲ携帶セシメ給水裝置、導水裝置ノ檢査及量水器ノ點檢、戸數、人口、職業、建坪其ノ他給水上ノ取締ニ關スル調査ヲ爲サシム

第三十條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ三日以内ニ屆出ツヘシ

一、戸數、建坪、職業其ノ他料金算定ノ標準ニ異動アリタルトキ

二、給水關係者ノ異動若ハ資格ノ變更喪失ニ關スル事由ノ生シタルトキ

三、給水關係者ノ住所氏名ヲ變更シタルトキ

四、火災ノ爲消火栓ヲ使用シタルトキ又ハ給水裝置ノ減失シタルトキ

五、標章、鑑札、鍵ヲ亡失、毀損シ又ハ亡失セシ標章、鑑札、鍵ヲ發見シタルトキ若クハ標章、鑑札、鍵ノ不用ニ歸シタルトキ

第三十一條　左記各號ノ一ニ該當シタルトキハ給水ヲ中止ス

一、一時給水ノ不用トナリタルトキ

二、給水關係者給水裝置ノ管理ヲ爲ササルモノト認メタルトキ

三、給水裝置ノ損傷其ノ他ノ事由ニ依リ必要ヲ認メタルトキ

第四章　料　金

第三十二條　給水料ハ左記種別及用途ニ依リ之ヲ區別シ給水使用者ヨリ之ヲ徵收ス但シ給水關係者ニ於テ特ニ給水料納付者ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

專用栓

一、家事用

最低料金　一ヶ月十一立方米突迄金六十錢

超過料金　十一立方米突ヲ超ユル一立方米突毎ニ金七錢八厘

二、官公署、學校、社寺、病院、會社、其ノ他營業用

最低料金　一ヶ月十三立方米突迄金八十錢

超過料金　十三立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金八錢

二ノ二、工場用

最低料金　一ヶ月十五立方米迄金八十錢

超過料金　十五立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金七錢五厘

三、湯屋營業用

最低料金　一ヶ月百三十立方米突迄金八圓

超過料金　百三十立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金六錢五厘

四、原動力（水壓ヲ利用スルモノ）土木建築ニ關スル工事、撒水、其他一時用

最低料金　一ヶ月二十立方米突迄金五圓

超過料金　二十立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金二十六錢

五、噴水、瀧、園池、遊泳場、其ノ他娯樂用

最低料金　一ヶ月十三立方米突迄金五圓

超過料金　十立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金四十錢

六、船舶（イ）自船用　一立方米突ニ付金拾貳錢
（ロ）販賣用　一立方米突ニ付金拾五錢

七、營業用自動車洗濯用

最低料金　一ヶ月二十五立方米突迄金四圓

超過料金　十六立方米ヲ超ユル一立方迄毎ニ金拾八錢

共用栓

一、私設共用

最低料金　一ヶ月一戸ニ付六立方米突迄金貳拾貳錢

超過料金　六立方米突ヲ超ユル一立方米突迄毎ニ金六錢五厘

二、公設共用　無料

支栓ノ設アル場合

第三十三條　給水ノ開始、中止、廢止、撤去ヲ爲シタル月ノ使用水量カ最低料金ニ滿タサルトキト雖前條ノ規定ヲ適用ス

前項規定ノ適用ヲ受ケタルモノ其ノ月ニ於テ更ニ給水ヲ開始シタル場合使用水量ヲ通シテ最低料金ニ滿タサルトキハ給水料ヲ徵收セス最低料金ヲ超ユルトキハ其ノ超過セル料金ハ之ヲ翌月分ニ合算ス

第三十四條　前二條ノ規定ハ一戸又ハ一構内ニ二箇以上ノ量水器ヲ裝置

消火栓

一、私設消火栓
（イ）供給準備料
（一）内徑二吋（双口ハ以上一隙（二箇トス）金二圓　一ヶ月（專用栓ノ料率ニ依リ給水料ヲ徵收スルモノヲ除カ）
（二）内徑二吋未滿一吋（同）金一圓（同）
（ロ）演習其他臨時給水
（一）量水器裝置ナキモノ　演習其他臨時給水一回二十分時迄毎ニ一箇（双口ハ二箇トス）金貳圓五十錢
（二）量水器裝置アルモノ
（イ）演習一回二十分時迄毎ニ表示（ス）水量ノ外一箇（双口ハ二箇トス）金壹圓五十錢
（ロ）第二條第二項ニ依ル專用栓ノ料率ニ依ル給水料ハ

二、公設消火栓

臨時給水　一回二十分時迄毎ニ一箇（双口ハ二箇トス）金參圓

前項最低料金又ハ供給準備料ハ開栓中使用ノ有無ニ拘ラス之ヲ徵收ス

給水裝置ノ種別及用途ヲ變更シタル月ノ給水料ハ舊種別又ハ舊用途ニ依リ之ヲ徵收ス

市外給水料ハ總テ倍額ヲ徵收ス

第三十三條　給水ノ開始、中止、廢止、撤去ヲ爲シタル月ノ使用水量カ最低料金ニ滿タサルトキト雖前條ノ規定ヲ適用ス

前項規定ノ適用ヲ受ケタルモノ其ノ月ニ於テ更ニ給水ヲ開始シタル場合使用水量ヲ通シテ最低料金ニ滿タサルトキハ給水料ヲ徵收セス最低料金ヲ超ユルトキハ其ノ超過セル料金ハ之ヲ翌月分ニ合算ス

第三十四條　前二條ノ規定ハ一戸又ハ一構内ニ二箇以上ノ量水器ヲ裝置

シタルトキハ各量水器ニ對シ之ヲ適用ス

共用栓又ハ二栓以上ノ給水裝置ニ對シ一箇ノ量水器ヲ裝置シタルトキノ使用水量ハ各均等ニ使用シタルモノト看做ス

第三十五條　共用栓ヲ使用スル資格ニ非サル者共用栓又ハ他ノ專用栓ヲ聯用スルトキハ專用栓ニ依ル給水料ヲ徵收ス但シ最低料金ハ一箇月九立方米突迄金五拾錢トス

前項ノ場合ニ於ケル使用水量ハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十六條　使用水量ハ毎月量水器ヲ點檢シテ之ヲ計算ス其ノ點檢以後ニ於ケルモノハ次月ノ使用水量ニ算入ス

量水器ノ故障ニ依リ使用水量ニ疑ヒアルトキハ市長ノ認定ニ依ル

第三十七條　給水料ハ毎年度左ノ四期ニ分チ之ヲ徵收ス但シ必要アリト認ムルモノハ一箇月毎ニ之ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　自四月　至六月　　第二期　自七月　至九月　　第三期　自十月　至十二月

第四期　自一月　至三月

給水開始ノ際ハ期間ヲ以テ徵收スルモノハ一期間、毎月徵收スルモノニアリテハ一箇月分ニ相當スル給水料ヲ前納セシム但シ官公署官公立學校病院ハ前納セシメザルコトヲ得

前納給水料ニ增減ノ必要アリト認ムルトキハ之ヲ追徵又ハ還付ス

給水料ハ毎月末ニ於テ計算シタル使用水量ニ依リ次期ノ初月、毎月徵收スルモノニアリテハ翌月中ニ其ノ計算額ヲ徵收ス

給水ノ廢止、中止ヲ爲シタルトキ又ハ公設共用栓其ノ他臨時ノ給水料ハ隨時之ヲ徵收ス

給水ヲ廢止、中止シタルトキ又ハ給水關係者變更シタルトキハ使用水量ニ依リ精算シ該差額ヲ追徵又ハ還附ス但シ新給水關係者ニ於テ權利義務ヲ承繼セシトキ又ハ共用栓使用者中一部異動ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第三十三條第一項ノ適用ヲ妨ケス

第三十八條　市有ノ量水器（保護筐ヲ含ム）ハ給水關係者ヲシテ保管セシメ內徑二分ノ一吋ハ無料トシ其ノ他ハ左ノ區別ニ從ヒ給水料徵收ノ例ニ依リ裝置中使用料ヲ徵收ス

內徑			
八分ノ五吋	一箇月	金貳拾錢
同　四分ノ三吋	同	金參拾錢
同　一吋	同	金四拾錢
同　一吋四分ノ一	同	金五拾錢
同　一吋二分ノ一	同	金壹圓
同　二吋	同	金貳圓
同　二吋二分ノ一	同	金貳圓五拾錢
同　三吋	同	金四圓
同　四吋	同	金五圓
同　六吋	同	金拾圓
同　八吋	同	金拾五圓
同　十吋	同	金貳拾圓

給水關係者量水器（保護筐ヲ含ム）ヲ亡失、毀損シタルトキハ時價相當ノ辨償金ヲ徵收ス

第三十九條　給水料納付後其ノ料金ニ增減ヲ爲ス必要ヲ生シタルトキハ

次回徵收ノ給水料ニ於テ增減ス

第四十條　給水料ハ第二十五條ニ依リ給水ノ停止、制限ヲ爲シタルトキト雖之ヲ減免ス

第四十一條　給水使用者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ給水料ヲ減免スルコトアルヘシ

一、慈善事業ヲ經營スル財團法人

二、貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケル者

三、第三十二條專用栓第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル用途ニ給水ヲ使用シ其ノ使用量各當該號ニ定ムル最低水量ノ二倍ヲ超過シタル者

四、私設消火松二箇以上設置者

五、其ノ他特別ノ事由アル者

第四十二條　第十八條、第二十四條、第二十七條、第二十八條ノ規定ニ依リ市長ノ定ムル手數料ノ額ハ金拾圓以下トシ實費拾圓ヲ超ユル場合ニ於テハ實費ニ依ルコトヲ得

第五章　違反處分

第四十三條　左記各號ノ一ニ該當スル行爲アルトキハ三箇月以內給水ヲ停止ス

一、給水ヲ濫用又ハ他ニ分與シ若クハ許可ナクシテ販賣又ハ用途外ニ使用シタルトキ

二、量水器ヲ破損又ハ其ノ作用ヲ妨害シ若クハ其ノ他ノ方法ニ依リ給水料ノ逃脫ヲ圖リタルトキ

三、規定ノ手續ヲ經スシテ給水裝置ノ增設、加工又ハ變更ヲ爲シ若クハ導水裝置ヲ爲シタルトキ

四、給水ノ中止、停止若クハ閉栓中濫リニ止水栓、制水辨ヲ開栓シ又ハ市ノ封緘ヲ破毀シタルトキ

五、鑑札、鍵ヲ貸借賣買シ若クハ不正ノ鑑札、鍵ヲ貸借賣買シ又ハ使用シタルトキ

六、當該吏員ノ職務執行ヲ抗拒又ハ妨害セシトキ

七、給水料、工費其ノ他本條例又ハ之ニ基キテ發シタル規定ニ依ル納付金ヲ期間內ニ納付セサルトキ

八、本條例又ハ之ニ基キテ規定シタル事項ニ違反シタルトキ

前項第一號乃至第五號ニ該當スルモノハ其ノ行爲アリタル期間規定料率ノ五倍以內ヲ增徵ス其ノ逃脫シタル水量ハ市長之ヲ査定ス

第一項第三號ノ違反者ニ對シテハ本市ニ於テ之ヲ撤去シ其ノ費用ヲ徵收ス

第一項第一號乃至第六號ニ該當スルモノハ其ノ情狀ニヨリ五圓以下ノ過料ニ處シ尙損害アルトキハ之ヲ賠償セシム

第四十四條　同一給水系統ニ依リ給水ヲ受クヘキ給水關係者數人アル場合ニ於テ其ノ一部給水關係者カ本條例違反ニ依リ停水處分ヲ受クルカ爲他ノ給水關係者カ同時ニ停水セラルヽコトアルモ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十五條　停水處分ヲ解除スル場合ニ於テハ開栓手數料トシテ金壹圓以內ヲ徵收ス

前項ノ外處分ニ要シタル費用アリタルトキハ之カ徵收ヲ妨ケス

第六章　附　則

第四十六條　本條例施行期日及本條例施行ニ必要ナル規定ハ市長之ヲ定ム

第四十七條　大正九年三月二十六日條例第二號名古屋市水道給水條例及同年同月同日條例第三號名古屋市水道市外給水條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四十八條　本條例施行前從前ノ規定ニ依リ許可、承認ヲ受ケタルモノハ別段ノ規定アルモノヽ外本條例ニ依ル許可承認ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ納付シタル給水料見積讓納金ハ本條例ニ依ル前納給水料トス

第四十九條　第三十七條第三項ノ規定ハ本條例施行ニ因リ前納給水料ニ增減ノ必要ヲ生シタル場合ニ適用ス

第五十條　第三十二條第一項各號ニ依ル給水料ニシテ本條例施行ノ際現ニ立方尺又ハ石ヲ以テ水量ヲ計量スルモノニアリテハ市長ニ於テ適宜之ヲ換算ス

水道給水條例施行細則

大正十四年五月六日告示第五十九號

改正　昭和六年五月四日告示第九十五號　昭和六年八月二十六日告示第百七十六號　昭和九年七月十二日告示第百五十九號　昭和九年十一月一日告示第二百三十七號

第一條　本則ニ於テ條例ト稱スルハ名古屋市水道給水條例ヲ謂フ

第二條　水道ニ關スル工事、調査及量水器ノ點檢ハ日出ヨリ日沒迄ノ間ニ於テ之ヲ施行ス但シ急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　條例第二條第二項ニ依リ市長ニ於テ公設共用栓又ハ消火栓ヲ臨時他ノ目的ノ爲使用セシムル場合左ノ如シ

一、公設共用栓

イ、貧困ノ爲條例第四章所定ノ料金ヲ納付シ能ハスト認ムル者

ロ、特ニ承認ヲ受ケタル者

ハ、衞生上又ハ不可抗力ニ依ル場合ニシテ區域期間ヲ定メ一時給水ノ必要ヲ認ムルトキ

二、消火栓

演習其ノ他ノ用ニ供スルトキ

第四條　消火栓ハ本市ニ於テ封緘ヲ施ス但シ條例第三十二條ニ依リ專用栓ノ料率ヲ以テ給水料ヲ徵收スル消火栓ニアリテハ專用栓ト看做シ封緘ヲ施サス同一構內ニ數箇ノ消火栓ヲ設置スル場合ニ於テ其ノ一部ヲ專用栓ニ使用スルモノニ付亦同シ

消火栓ヲ防火用以外ニ使用セムトスルトキハ其ノ前日迄ニ屆出テ本市吏員ノ立會ヲ請求スヘシ

第五條　數人共同シテ給水工事ヲ請求セムトスル者ハ總代人ヲ給水關係者其ノ區內ニ現住セサルトキハ給水裝置所在區ノ現住者ヨリ代理人ヲ選定シ連署屆出ツヘシ

總代人、代理人ハ條例又ハ本則ニ依リ本人ノ爲スヘキ一切ノ事務ヲ處辨スルモノトス

總代人、代理人ヲ市長ニ於テ不適當ト認ムルトキハ變更セシムルコトアルヘシ

第六條　條例第三十條第二號該當ノ場合ニ於テハ新舊給水關係者雙方連署スヘシ此場合ニ在リテハ新給水關係者ハ一切ノ權利義務ヲ承繼シタルモノト看做ス

前項ニ依リ連署ヲ得ル能ハサルトキハ其事由ヲ具シ市長ノ承認ヲ受クヘシ

給水裝置ノ所有權ハ之ニ關聯スル義務ト分離シテ移轉スルコトヲ得ス

第七條　條例第十條ニ依リ本市ニ於テ給水工事ヲ施行スル場合ニ於テハ之ニ要スル材料及勞力等ハ總テ本市ニ於テ供給ス但シ條例第十八條ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　條例第十二條但書ニ依リ本市ニ於テ負擔スヘキ部分ハ內徑二〇粍ヲ超ヘサル給水工事ニシテ土地ノ狀況ヲ參酌シ一戶、一組合又ハ一構內一線ニ限ル但シ消火栓工事及第四條第一項但書ニ依リ專用栓ノ取扱ヲ受クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九條　條例第三十八條第二項ニ依リ給水關係者ヨリ量水器亡失毀損辨償金ヲ徵收スル場合ハ左ノ順位ニ依ル但シ情狀ニ依リ順位ヲ變更スルコトアルヘシ

一、給水裝置所有者又ハ保管者

二、給水裝置管理者

三、總代人、代理人

四、給水請求者

五、給水使用者

第十條　四〇粍ヲ超ユル量水器ヲ設置スルニ必要ナル保護裝置ハ請求者ノ負擔トス

第十條ノ二　條例第十四條第一項ニ依ル分納期間ハ特別ノ場合ヲ除カノ外五ヶ年トス

第十一條　條例第十四條第二項ニ依ル保證人ハ市內ニ住所ヲ有スル能力者ニシテ不動產ヲ所有スル者ニ限ル但シ分納請求者カ借家人又ハ借地人ナルトキハ給水裝置ヲ爲スヘキ家屋又ハ土地ノ所有者ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

保證人其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ保證人變更ノ屆出ヲ爲スヘシ

第十二條　條例第十四條第二項ニ依ル擔保品ハ左ノ有價證券ニ限ル

一、無記名國債證券

二、無記名地方債證券

三、復興貯蓄債券

四、株式會社日本勸業銀行債券

前項有價證券擔保價格ノ算定ハ券面額ノ百分ノ六十ヲ以テ計算シタル總額カ分納スヘキ工費總額ト同額以上タルコトヲ要ス

工費總額ヲ完納シタルトキハ五日以內ニ擔保證券ヲ還付ス

第十三條　條例第十四條第四項ニ依ル利率ハ工費總額ニ對スル年四朱八厘トス

第十四條　分納期間ハ五ヶ年ノモノニ在リテハ工事竣功ノ月ヨリ、其ノ他ノモノニ在リテハ分納許可ノ日カ月ノ二十日以前ナルトキハ其ノ月ヨリ、月ノ二十日ヲ過クルトキハ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第十五條　分納工費ニシテ條例第十六條第一項ノ場合ハ第二回分以後ニ於テ之ヲ增減ス

同條第二項後段ニ依リ撤去シタル場合ハ既納工費ハ還付セス其ノ既納

工費ヲシテ撤去費垂其ノ他ノ損害ヲ償フニ足ラサルトキハ之ヲ追徵ス

第十六條　分納金完納前左記各號ノ一ニ該當スルトキハ未納額ヲ即時完納セシム

一、給水裝置ノ不用ニ歸シタルトキ

二、變災其ノ他ノ事故ニ由リ給水裝置減失毀損シタルトキ

三、條例並本則ノ規定ニ違背シタルトキ

第十七條　第十五條第二項ノ追徵金及前條ニ依ル未納額ノ徵收ハ市長ニ於テ擔保證券ヲ任意ニ處分シテ其ノ金額ニ滿ツル迄之カ辨濟ニ充當シ尚殘餘アリタルトキハ之ヲ分納請求者又ハ擔保提供者ニ還付シ不足アルトキハ追徵ス

第十八條　條例第十八條第二項ノ許可ヲ受クムトスルモノハ申請書ニ圖面ヲ添付シテ提出スヘシ

前項ノ許可ヲ得テ導水裝置ヲ爲シタル者ハ三日以內ニ屆出テ檢査ヲ受クヘシ但シ裝置後ニ於テ檢査シ能ハサルモノニ在リテハ施行ノ際檢査ヲ受クヘシ

第十九條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ導水裝置ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一、前條第二項ノ規定ニ違背セシトキ

二、目時ヲ指定シテ改造修補若クハ一部ノ撤去ヲ命スルモ之ヲ施行セサルトキ

三、附近狀況ノ變化ニ依リ其ノ存置カ他ニ障害ヲ及ホスト認ムルトキ

第二十條　給水裝置ノ修繕ニ關シ給水使用者ヨリ請求アリタルトキハ當該給水裝置所有者、保管者ヨリノ請求ト看做ス

第二十一條　給水ヲ受クル建物ニハ本市ニ於テ標章ヲ掲示ス

第二十二條　給水ノ開始又ハ中止セムトスルトキハ其ノ前日迄ニ之ヲ請求スヘシ但シ開始ニシテ給水請求者カ給水裝置所有者保管者ニ非サル場合ハ其ノ承諾ヲ要ス

第二十三條　條例第三十二條第一項專用栓中第一號第二號ノ內病院、其ノ他營業用第二號ノ二第四號ノ內一時用及第五號ノ內娛樂用ニ該當スヘキ種目左ノ如シ

一、家　事　用

日常炊爨用水、洗濯其ノ他生活ニ必要サル用水

二、病院、其ノ他營業用

病院（病院ト稱セサルモ病室ノ設備アルモノ）本條第二號ノ二ニ該當セサル工場、商工會議所、銀行集會所、公會堂、圖書館、教會、說教所、講習所、倶樂部、各種組合及團體事務所（其ノ他之ニ準スル事務所集會所ノ類ヲ含ム）、水族館、動物園（之ニ類似スルモノヲ含ム）植物栽培業、劇場、寄席、前茶屋、旅館、寄宿又ハ下宿業、牛馬宿業、牛馬車營業、料理店業、飲食店、貸座敷業（待合揚屋等ヲ含ム）貯蓄貸業、理髮店、寫眞業、寫眞製版業、洗濯業、牛乳搾取又ハ販賣業、牧畜業、養鷄業（孵化業ヲ含ム）、屠畜業、酒醬油類小賣商、青物商、生魚商、金魚商、鷄肉商、氷小賣商、製材、製絲、製紙、製藥、製煙、製氷、製餡製飴、製糖、製米麥、酒類味噌醬油酢醬造、漬物製造、清凉飲料水製造、豆乳、玄米乳其ノ他之ニ準スル飲料品製造、菓子製造、餅製造、蒲鉾、竹輪類製造、麩製造、椛製造、蒟蒻製造、麵類製造、豆腐、湯葉製造、海苔製造、ソース製造、罐詰製造、佃煮製造、澱粉製造、化粧品製造、石鹼製造、護謨製造、明礬製造、糊製造、織物製造、炭團、煉炭製造、繃帶、脫脂綿其ノ他衞生材料品製造、硝子及硝子器具製造、クレー製造、陶磁器、陶磁器原料製造、混凝土、膠泥、叩類製造、コークス製造、塗料顏料及インキ製造、蠟燭製造、瓦、煉瓦、其ノ他土器類製造、染物及絞業、各種晒業、漆張及洗張業、鍍金業其他前各業種ニ準スルモノ

三、工　場　用

前號並前號以外ノ業種ニ屬スル工場ニシテ常時職工十人以上ヲ使用シ工場法ノ適用ヲ受クルモノ

四、一　時　用

臨時興業ニ使用スルモノ祭禮其ノ他必要ニ依リ臨時使用スルモノ

五、娛　樂　用

釣魚遊戲場

第二十三條ノ二　支柱ノ設アル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依リ最低料金ヲ增加ス

一、專用栓第二號及第二號ノ二用　五箇迄ハ一箇ニ付　一ヶ月金八錢

六箇以上ハ一箇ニ付　一ヶ月金六錢

二、前號以外ノモノ　一　箇　ニ　付　一ヶ月金拾錢

前項第一號ニ依リ算出シタル給水料ハ使用總水量ヲ支栓ナキモノトシテ計算シタル金額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十四條　給水ハ市長ノ認定シタル用途以外ニ使用スルコトヲ得ス但シ條例第三十二條專用栓第二號及第三號乃至第七號ノ用途ニ屬スル給水使用者カ之ヲ家事用ニ使用水スルヲ妨ケス

第二十五條　二以上ノ用途ニ渉リ給水ヲ受クムトスル場合ニ於テハ用途毎ニ量水器ヲ設置スルコトヲ要ス此場合ニ於テ用途ノ一カ家事用水ナルトキハ其ノ使用水量ハ最低使用水量ノ二倍ヲ以テ最大限度ト看做ス

前項後段ニ依ル料金ノ計算ハ最低使用水量ノ二倍迄ヲ條例第三十二條第一號ニ依リ爾餘ノ使用水量ハ各當該用途ノ料率ニ依リ算定ス

裝置場所ノ關係其ノ他ノ理由ニ依リ一箇ノ量水器ヲ以テ料金ノ異ル用水ヲ併用スル場合ノ料金ハ其ノ率ノ高キニ依ル

第二十六條　給水裝置ノ狀況ニ依リ市長ハ前條ニ拘ラス各用余毎ノ量水器ノ指示水量ヲ以テ料金ヲ算定スルコトヲ得

第二十七條　條例第二十五條ニ依ル給水ノ制限又ハ停止ハ急迫ナル場合ニ非サル限リ其ノ日時、區域等ヲ告知ス

第二十八條　條例ニ於テ一箇月ト稱スルハ量水器ニ依リ使用水量ヲ査定スルモノニ在リテハ量水器點檢ノ時ヨリ次ノ點檢ノ時ニ至ル期間ヲ謂ヒ其ノ他ニ在リテハ曆月ヲ謂フ

量水器ノ點檢ヲ爲シタルトキハ使用水量ヲ告知ス

量水器ノ設置場所ハ點檢修理若クハ試驗等ニ支障ヲ生スヘキ物件ヲ堆積シ又ハ工作物ヲ設クル事ヲ得ス

第二十九條　給水關係者ハ量水器ノ指示水量ニ對シ異議ヲ唱フルコトヲ得ス但シ條例第二十八條ニ依ル場合ハ此ノ際ニ在ラス

第三十條　共用栓ニ依リ給水ヲ受ケムトスル者ハ建築面積四六、二平方米未滿ノ家屋居住者ニ限ル

前項建坪ノ算出ハ建物ノ階上階下（附屬建物ヲ含ム）ヲ通算シタル延坪數トス

第三十一條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ前條ニ拘ラス總テ專用栓トス

一、給水關係者カ其ノ所有土地ノ上ニ建築シタル建築面積四六、二平方米未滿ノ家屋ニ居住スルトキ

二、給水關係カ他人ノ土地ノ上ニ建築シタル建築面積四六、二平米未滿ノ家屋ニ居住スルトキ

三、前各號ノ外特ニ專用栓ニ依ルヲ相當ト認ムルトキ

第三十二條　條例第二十七條同第三十五條ニ依リ共用栓又ハ專用栓ヲ使用スル者ハ現在中其組合ヨリ脫退スルコトヲ得ス

第三十三條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ニ依ル組合ニ加入スヘシ

一、共用栓又ハ專用栓（聯用）ノ組合家屋ヘ新規轉居セシトキ

二、共用栓又ハ專用栓（聯用）ノ給水範圍ニ於テ新ニ其ノ組合ニ加入セシムヘキ住居其ノ他ノ建物ヲ新築、改築、增築等ヲ爲シタルトキ

第三十四條　條例第二十七條第一項ニ依リ交付ヲ受ケタル鑑札、鍵ハ之ヲ連繫シ指定シタル水栓以外ニ使用スルコトヲ得ス

第三十五條　給水裝置ニシテ管理セラレサル狀況ニ在ル場合ニ於テ該裝置ヲ管理セムトスルモノハ其ノ旨屆出ツヘシ

前項ニ依リ給水シタル場合ニ於テ給水關係者其ノ他ニ損害ヲ及ホスコトアルモ本市其ノ責ニ任セス

第三十六條　給水支管アル本管所有者給水裝置ノ撤去若クハ廢止ヲ爲ス場合ニ於テ給水支管所有者其ノ裝置ノ改造又ハ本管取得ノ手續ヲ爲サヽルトキハ給水ヲ廢止シタルモノト看做ス

第三十七條　條例第二十二條第二項後段ニ依ル公告ハ十日間以內市役所及區役所ニ掲示シテ之ヲ爲ス

第三十八條　條例第三十七條第二項ニ依ル前納給水料ハ共用栓又ハ專用栓（聯用）ニ在リテハ其組合ヲ單位トシ之ヲ徵收ス此場合ニ於ケル前納給水料ノ算定ハ組合戶數ニ依ル

第三十九條　條例第三十條第一號ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ市長ハ適宜種別又ハ用途ヲ認定シ之ニ依リテ給水料ヲ徵收ス

第四十條　給水裝置ノ性質若クハ體樣ニ依リ量水器ノ設置ナキ場合ニ於テ給水ノ必要アリト認メタルトキハ市長ハ之カ使用水量ヲ認定ス

第四十一條　給水裝置破損漏水ノ場合ニ於テ（表現、不表現ヲ含ム）條例第二十一條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ其ノ請求ノ日ヨリ修繕完了ノ日迄日割ヲ以テ水量ヲ低減スルコトヲ得條例第二十條修繕ノ場合亦同シ但シ不表現ノ破損漏水ニシテ特別ノ事情アリト認ムルトキハ市長ノ認定ニ依ルコトヲ得

第四十二條　條例第十八條ニ依ル檢査手數料左ノ如シ

一、水栓類	一箇ニ付	金五拾錢
二、鉛管	一條二十米迄每ニ	金七拾錢
	二十米ヲ超ユル三米迄每ニ	金拾五錢
三、鐵管及同附屬具（水栓柱ニシテ水壓試驗ヲ要スルモノヲ含ム）內徑五十五粍迄	一本又ハ一箇ニ付	金七拾錢
四、同（內徑二百粍迄）	同	金五拾錢
五、同（內徑二百粍ヲ超ユルモノ）	同	金貳圓
六、消火栓	一箇ニ付	金貳圓五拾錢
七、制水弁（二百粍迄）	同	金參圓
八、同（二百粍ヲ超ユルモノ）	同	金參圓
九、管類	同	金四圓
一〇、水栓柱（水壓試驗ヲ要セサルモノ）	同	金貳拾錢
一一、量水器（內徑二十五粍迄）	一本ニ付	金貳拾錢
一二、同（內徑六十五粍迄）	一箇ニ付	金貳圓
一三、同（內徑百二十五粍迄）	同	金四圓
一四、同（內徑百二十五粍ヲ超ユルモノ）	同	金八圓
一五、導水裝置（導水裝置ヲ給水裝置ニ變更スル場合ヲ含ム）內徑三十粍迄	同	金拾圓
一六、同（內徑三十粍ヲ超ユルモノ）	一件ニ付	金五圓以內
	同	金拾圓以內

前項ニ依リ難キモノ及鐵管又ハ鉛管ニシテ名古屋市內ノ製造工場ニ於テ檢査ヲ受クルモノハ其ノ實費ヲ徵收シ導水裝置ニ關シ二回以上出張ヲ要セシトキハ金拾圓以內ヲ累加シ運搬費ヲ要スルトキハ該實費ヲ加算ス

第四十三條　條例第二十四條ニ依ル設計手數料左ノ如シ

一、鉛管工事	一工事ニ付水栓三箇所迄	金五拾錢
	水栓一箇所ヲ增ス每ニ	金貳拾錢
二、鐵管工事（內徑七十五粍迄）一工事ニ付		金參圓
三、同（內徑百五十粍迄）同		金六圓
四、同（內徑百五十粍ヲ超ユルモノ）同		金拾圓

一設計中鐵管及鉛管工事ヲ併行スル場合ニ於ケル手數料ノ認定ハ其ノ主タル工事ニ依ル

第四十四條　條例第二十七條第二項ニ依ル手數料ハ鑑札、鍵各一箇ニ付金貳拾錢トス

第四十五條　條例第二十八條第二項ニ依ル量水器ノ試驗手數料左ノ如シ

一、內徑二十粍迄	一箇ニ付	金壹圓
二、內徑六十五粍迄	同	金貳圓
三、內徑百二十五粍迄	同	金四圓
四、內徑百二十五粍ヲ超ユルモノ	同	金五圓

同條第三項ノ費用ハ市長別ニ之ヲ決定ス

第四十六條　條例第四十五條ニ依ル開栓手數料ハ其ノ情狀ニ依リ金六拾錢ヲ徵收ス

同條第二項ノ費用ハ前條第二項ヲ準用ス

第四十七條　水道ニ關スル各種標章及請求、申請、諸届ハ別表第一號乃至第四十五號ノ樣式ニ依ル

附　則

第四十八條　本則ハ大正十四年五月六日條例第四號名古屋市水道給水條例施行ノ日ヨリ之ヲ實施ス

第四十九條　大正九年三月告示第三十六號名古屋市水道給水條例施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第五十條　條例第三十二條ニ依ル給水料ハ條例第三十六條及本則第二十八條ニ依リ大正十四年六月分トシテ使用水量ヲ査定シタル分ヨリ之ヲ徴收ス

第五十一條　條例施行ノ際從前ヨリ存置スル專用栓及共用栓ニ對シテハ給水關係者ニ別段ノ通知ヲ發スルコトナク左記各號ニ依リ之ヲ處理ス

一、專用栓ノ各用途ハ條例第三十二條及本則第二十三條ニ依リ市長之ヲ認定ス

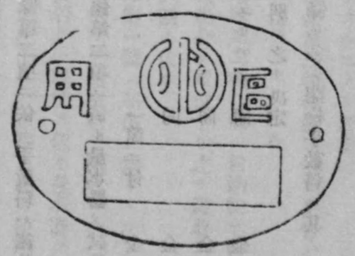
二、共用栓ニシテ其ノ組合全戸カ專用栓使用資格者ナルトキハ本則施行ノ日ヨリ專用栓聯用給水トス

第一號樣式（給水家屋標章）（黑擂）

鐵材琺瑯製

專用（薄藍色地白字）

共用（紫紺色地白字）



下部白地ニ羅馬數字以テ水栓番號ヲ記入シ聯用專用（R）特別專用ハ（T）ヲ冠ス

第二號樣式（水道吏員標章）（黑擂）

表面

名古屋市水道檢査員之章

裏面

名古屋市役所（印）

第三號樣式（黑擂）

專用栓新設請求書

一　裝置場所　區　町　丁目　番地

一　給水使用者

一　職業人口

一　用途

右新設工事施行相成度請求候也

追テ量水器（保護筐ヲ含ム）ハ市有品ヲ揭付御貸與相成度設計手數料其他規定ノ費用ハ御指定次第納付可致ハ勿論御市水道給水條例及同施行細則ヲ遵守可致候

昭和　年　月　日

名古屋市長殿

請求書

右給水裝置新設ノ儀承諾候也

名古屋市　區　町　丁目　番

家屋所有者

受付	昭和　年　月　日 第　號

給水工費							
設計	金額	円	精算	円	差引 不足	円	剩過 円
	通知月日	月　日			月　日	竣工	年　月　日
	通知番號	第　號			第　號	栓號 水番	第　號
	納付期日	月　日			月　日	摘要	
	收入月日	月　日			月　日		

（注意）家屋所有者ニ非サル者ノ請求ニ係ルトキハ家屋所有者ノ承諾ヲ要ス

第十號様式

（注意）

家屋所有者ニ非サルモノ請求ニ係ルトキハ家屋所有者ノ承諾ヲ要ス

受付	大正　年　月　日 第　　號
名古屋市長殿	右新設工事施行相成度請求候也 一個所　私設消火栓 一内　屋外内　新設請求者 個　区　町　番地 丁目
右給水装置新設ノ義承諾也	追テ設計手数料其ノ他規定ノ費用ハ御指定次第納付可致候 大正　年　月　日 名古屋市　請求者　区　町　番地 丁目
家屋所有者	名古屋市　区 家屋所有者

第五號様式（無料）

（注意）家屋所有者ニ非サルモノ請求ニ係ルトキハ家屋所有者ノ承諾ヲ要ス

第十號様式

氏名　職業用途　建物坪数　人口　備考

（注意）数人共同ヲ以テ請求ノ場合ハ総代人ヲ選ミ其ノ氏名ヲ記入シ請求ノ印ヲ捺シ代表者ノ資格ヲ証スル書面ヲ添付スベシ

第四號様式

受付　明和　年　月　日　號

有料給水装置設計書

一、給水使用者　区　町　丁目　番地

一、給水使用者　戸数人口左記ノ通リ

有料設工事施行相成度請求候也

追テ量水器（保護筒ヲ含ム）ハ市有品ヲ借付御使用相成度設計手数料其他ノ費用ハ御指定次第納付可致候

明和　年　月　日

名古屋市長殿

請求者

名古屋市水道給水條例及同施行細則ヲ遵守可致候

案内所有者

名古屋市　区　町　丁目　番地

有給水装置設計書ノ通相違也

名古屋市　区　町　丁目　番地

設計	金額	通知書番號	納付期日	納入月日	第號	月日
特算	円					
差引	不足	円	月日	第號（	）	月日
	過剰	円	竣工	年月日	第號	水栓番號

給水工費

（注意）家屋所有者ニ非ザル者ノ請求ニ係ル家屋所有者ノ承諾ヲ要ス

氏名	職業	続柄	人口	備考

有給水装置者職業	雇傭人	雇傭人ノ住所	雇傭人ノ職業

第七號様式（裏面）

有給水装置者ノ氏名住所職業

名古屋市　区　町　丁目　番地

家屋所有者

名古屋市　区　町　丁目　番

給水工費	設計	検査	合計
金額	円	円	円

納付期日	第　号	第　号（　）	第　号
通知番号	月　日	月　日	月　日
通知月日	月　日	月　日	月　日

竣工年月日	水栓番号	滴数
年　月　日	第　号	

不足	過剰
円	円

第十號　水道

大正　年　月　日付

第　号

一本管（既設）　区　町　丁目　番地栓第　号

一支管（新設）　区　町　丁目　番地

但給水使用者左記ノ通リ

右本管ハ使用者分岐給水設置箇所ノ相成度工事施行可致

所有者ノ承諾ヲ得テ以テ此段請求候也

追テ其水器（保護管ヲ含ム）ハ有合品ヲ増付御供致

相成度計手数料共他ノ費用ハ御指定次第納付可致

ハ勿論御市水道給水條例及同施行細則ヲ遵守可致候

第八號様式（表面）

名古屋市長殿

昭和　年　月　日

名古屋市　区　町　番地

名古屋市　区　町　丁目　番

本管所有者

大正　年　月　日　給水装置所有者

名古屋市長殿

有給水装置者職業住所

一水栓（既設）　区　町　丁目　番地栓第　号

一支管（新設）　区　町　丁目　番地

一水栓番号　第　号

一事由

有給水使用者左記ノ通リ

追テ手数料ハ他ノ費用ハ御指定次第納付可致

大正　年　月　日　給水装置所有者

名古屋市　区　町　丁目　番地

（注意）撤去請求ノ場合他人ノ支管ヲ使用スル者ハ其ノ承諾ヲ得ルコト

各ノ通知済ノ旨附記スベシ

第七號様式（裏面）

品目	数量	単価	金額
給水栓		円	円
給水栓			
ベルマ口			
スピンドル			
鋳			
接合			
鉛工			
大工			
人夫			
合計			

大正　年　月　日施行

職工

摘要

大正　年　月　日竣功

日間経

第八號様式

一水栓番号　第　号

一事由

大正　年　月　日　番地

名古屋市　区　町　丁目

有給水装置者職業住所

一水栓（既設）　区　町　丁目　番地栓第　号

一支管（新設）　区　町　丁目　番地

但給水使用者左記ノ通リ

右本管ハ使用者分岐給水設置箇所ノ相成度工事施行可致

所有者ノ承諾ヲ得テ以テ此段請求候也

追テ其水器（保護管ヲ含ム）ハ有合品ヲ増付御供致

相成度計手数料共他ノ費用ハ御指定次第納付可致

ハ勿論御市水道給水條例及同施行細則ヲ遵守可致候

日號　月　年　大正
第
受附

給水工事設計請求書

一裝置場所　區　町　丁目　番地

一給水裝置種別　栓　工事

右設計相成度請求候也

追テ設計手數料其ノ他ノ規定ノ費用ハ御指定ニ從ヒ納付可致候

名古屋市　區　町　丁目　番地

大正　年　月　日　請求者

名古屋市長殿

日號　月　年　大正
第
受附

給水工事請求取消届

一裝置場所　區　町　丁目　番地

一給水裝置種別水栓番號　栓第　號

一工事ノ種類　工事

一前請求ノ年月日　大正　年　月　日

右取消相成度御届候也

追テ設計手數料其ノ他ノ規定ノ費用ハ御指定ニ從ヒ納付可致候

名古屋市　區　町　丁目　番地

大正　年　月　日　請求者

名古屋市長殿

日號　月　年　大正
第
受附

給水裝置種別變更届

一給水裝置場所　區　町　丁目　番地

一舊給水裝置種別　栓第　號

一新給水裝置種別　栓

一事由

右給水裝置種別變更相成度御届候也

追テ設計手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定次第納付可致候

名古屋市　區　町　丁目　番地

大正　年　月　日　給水裝置所有者保管者

名古屋市長殿

日號　月　年　大正
第
受附

設計變更請求書

一裝置場所　區　町　丁目　番地

一給水裝置種別　栓第　號

一工事ノ種類　工事

一前請求ノ年月日　大正　年　月　日

右設計變更相成度請求候也

追テ設計手數料其ノ他ノ規定ノ費用ハ御指定ニ從ヒ納付可致候

名古屋市　區　町　丁目　番地

大正　年　月　日　請求者

名古屋市長殿

第十三號樣式（黑摺）

日　月　年　大正
號　第
受附

給水裝置材料品檢査申請書

拙者所有ノ左記材料品　栓　用トシテ使用致度候間檢査ノ上御承認相成度申請候也

追テ檢査手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定ニ從ヒ納付可致候

名古屋市　區　町　丁目　番地
大正　年　月　日　申請者

名古屋市長殿

第十四號樣式（青摺）

日　月　年　大正
號　第
受附

導水裝置許可申請

一裝置場所　區　町　丁目　番地
一給水裝置種別水栓番號　栓第　號
一施行方法
一用途

右ハ拙者所有ノ材料ヲ用ヒ別紙設計書及圖面ニ依リ導水裝置致度候間檢査ノ上許可相成度候

追テ檢査手數料其ノ他規定ノ費用ハ御指定次第納付可致候

名古屋市　區　町　丁目　番地
大正　年　月　日　申請者

名古屋市長殿

第十五號樣式（青摺）

日　月　年　大正
號　第
受附

導水裝置竣成屆

一許可指令番號　第　號
一裝置場所　區　町　丁目　番地
一給水裝置種別水栓番號　栓第　號

右導水裝置工事竣成候ニ付檢査相成度候也

名古屋市　區　町　丁目　番地
大正　年　月　日

名古屋市長殿

第十六號樣式（青摺）

日　月　年　大正
號　第
受附

導水裝置撤去屆

一許可指令番號　第　號
一導水裝置場所　區　町　丁目　番地
一給水裝置種別水栓番號　栓第　號

右導水裝置撤去致度候間御屆候也

名古屋市　區　町　丁目　番地
大正　年　月　日

名古屋市長殿

第十七號樣式（墨摺）

受附	大正 年 月 日 第 號

給水工費分納申請書

大正　年　月　日請求致度候　栓新設工費ハ分納致度候

間許可相成度申請候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

大正　年　月　日　申請者

名古屋市長殿

保證人若ハ擔保品

第十八號樣式（墨摺）

金額相當印紙貼用

給水工費分納證書

一給水裝置場所　區　町　丁目　番地

一給水裝置種別　栓

一金　内譯　工費金　利子金

分納期間　自大正　年　月　日　至大正　年　月　日　箇月

分納額一箇月金　初月金　次月ヨリ　毎一箇月金

右新設工費前記分納ヲ以テ御指定ノ期日ニ無相違納付可致保證人ハ連帶ノ責ニ可任候（左記擔保品提供致候）依テ本書差出候也

追テ工事竣功ノ後工費ニ增減アリタル場合ハ第二回分以後ニ於テ精算可仕候

名古屋市　區　町　丁目　番地

大正　年　月　日　給水裝置新設請求者

名古屋市長殿

保證人若ハ擔保品

第十九號樣式（墨摺）

受附	大正 年 月 日 第 號

名古屋市長殿

一給水裝置場所　區　町　丁目　番地

一給水裝置種別水栓番號　栓第　號

一工費分納期間

一分納額

一新保證人

一舊保證人變更届

右工費分納證書大正　年　月　日付ヲ以テ差出置候該保證人資格喪失ニ付新保證人ニ於テ工費ニ關スル一切義務ヲ承繼致候間以連署此段及御屆候

大正　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地　給水裝置保管者

名古屋市　區　町　丁目　番地　新保證人

第二十號樣式（墨摺）

受附	大正 第	年	月	日
				號

給水裝置保管者　　區　　町　　丁目　　番地　　ニ付承認申請

一給水裝置場所

一給水裝置種別　　栓第　　號

一水栓番號

一分納期間　自大正　年　月　日　至大正　年　月　日　箇月間

一分納工費總額金

內納付濟額金　自第　回分　至第　回分

差引未納額金　自第　回分　至第　回分

右給水裝置保管者左記ノ通リ　　致候ニ就テハ舊保管者ヨリ提出ニ

係ル大正　年　月　日付給水工費分納證書ニ依ル一切ノ權利義

務ヲ新保管者ニ於テ承繼致保證人ハ連帶ノ責ニ可任候間御承認相成度關

係者連署ヲ以テ此段申請候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

舊保管者

名古屋市　區　町　丁目　番地

大正　年　月　日　新保管者

名古屋市　區　町　丁目　番地

保證人

名古屋市長殿

第二十一號樣式（墨摺）

受付	大正 第	年	月	日
				號

給水裝置保管者　　區　　町　　丁目　　番地　　ニ付承認申請

一給水裝置場所

一給水裝置種別　　栓第　　號

一水栓番號

一分納期間　自大正　年　月　日　至大正　年　月　日　箇月間

一分納工費總額金

內納付濟額金　自第　回分　至第　回分

差引未滿額金　自第　回分　至第　回分

右給水裝置保管者左記ノ通リ　　致候ニ就テハ舊保管者ヨリ提出ニ

係ル大正　年　月　日付給水工費分納證書ニ依ル一切ノ權利義

務ヲ新保管者ニ於テ承繼致候間御承認相成度此段連署ヲ以テ申請候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

舊保管者

名古屋市　區　町　丁目　番地

大正　年　月　日　新保管者

名古屋市長殿

擔保證券

（注意）新保管者ヨリ擔保證券ヲ提供セムトスルトキハ其ノ種類、員數、券面額ヲ記載シ舊保管者ヨリ提供シアル擔保證券ト引換相成度旨追記スヘシ

第十類　水道

第二十三號様式（第十條）

受付	大正　年　月　日 第　號

一給水装置種別

一装置場所

一給水装置工事

一総代人氏名

総代人選定ヲ水道ニ關スル一切ノ行為ヲ他ニ委任シタル証拠書類

名古屋市長殿

右ハ他者ヲ総代人ニ選定シ水道ニ關スル一切ノ行為ヲ委任シタル相違無也

大正　年　月　日

名古屋市　区　町　丁目　番地

請求者　名古屋市　区　町　丁目　番地

総代人

第十類　水道

第二十四號様式（第十條）

受付	大正　年　月　日 第　號

一給水装置場所　区　町　丁目　番地

一給水装置種別

一給水装置工事

一総代人氏名

総代人選定届

名古屋市　区　町　丁目　番地

新代理人

名古屋市　区　町　丁目　番地

代理人

名古屋市　区　町　丁目　番地

代理人

名古屋市　区　町　丁目　番地

第二十六號樣式（黑摺）

點檢簿	水栓臺帳	索引	給水原簿	區へ通知	設計書	分納臺帳
				月日		

受付	大正	年	月	日
	第			號

代理人解除届

一給水裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一給水裝置種別
一水栓番號　　栓第　　號

一代理人氏名

右解除致候間御届候也

大正　年　月　日　名古屋市　區　町　丁目　番地
給水裝置所有者

名古屋市長殿

庶務課長

第二十七號樣式（黑摺）

號　　第　　號ノトル番號メートル量水

突来方立

別　別　針
種　耗　指

受付	昭和	年	月	日

區	分	處理月日	印
甲閉栓		月　日	
調査		月　日	
點檢簿		月　日	
索引		月　日	
給水原簿		月　日	
區へ通知		月　日	

專用給水開始中止請求書

裝置場所　區　町　丁目　番地（　側）
水栓番號　第　號　職業人口
使用者　用途

御市水道給水條例並同施行細則遵守可致ニ付、右、市有量水器ヲ取付取外本年　月　日ヨリ給水開始中止相成度請求候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地
給水請求者

名古屋市　區　町　丁目　番地
給水裝置所有者
保管者

名古屋市長殿

（注意）開始ノ場合ニ於テ給水請求者ガ給水裝置所有者、保管者ニ非ザル場合ハ其ノ承諾ヲ要ス　移轉ノタメノ給水中止ノ場合ハ其ノ移轉先（區町丁目番地）（捺印ヲ御忘レナイヤウニ願ヒマス）

第二十八號樣式（黑摺）

調査	月日
點檢簿	
索引	
給水原簿	
水栓臺帳	

受付	大正	年	月	日
	第			號

給水使用者變更届

一裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一給水裝置種別
一水栓番號　　栓第　　號

右給水使用者左記ノ通リ變更致候間御届候也

追テ新使用者ハ舊使用者ノ給水ニ關スル一切ノ權利義務ヲ承繼致候

名古屋市　區　町　丁目　番地
舊使用者

名古屋市　區　町　丁目　番地
新使用者

大正　年　月　日

名古屋市長殿

新使用者	職業	人口	用途

（注意）舊使用者ノ連署ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スヘシ
新使用者ニ於テ權利義務ヲ承繼セザルトキハ追書ヲ抹消スヘシ

第二十九號樣式（黑摺）

受付	大正	年	月	日
	第			號

專用給水用途變更届

一裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一水栓番號　　第　　號

一舊用途

一新用途

右變更致候間御届候也

名古屋市　區　町　丁目　番地
給水使用者

大正　年　月　日

名古屋市長殿

第三十號樣式（赤摺）

共用栓開始請求書

裝置場所	區	町	丁目	番地	水栓番號	第	號
區別	戶	數	摘	要			

組合戶數	
現在	
空家	

現住戶數內譯

符號	職業	人口	建物坪數 階上	階下	計	氏名	符號	職業	人口	建物坪數 階上	階下	計	氏名

御市水道給水條例並同施行細則遵守可致ニ付、右、市有量水器ヲ取付給水開始相成度本栓ニ對スル給水料ハ特ニ拙者ニ於テ納付可致鑑札鍵御交付相成正ニ領收候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

給水裝置所有者
保管者

名古屋市長殿

受付	調査	點檢簿	水栓臺帳	給水原簿	集計
	月日				

受付　昭和　年　月　日

第三十一號樣式（赤摺）

共用栓使用戶數異動屆

裝置場所	區	町	丁目	番地	水栓番號	第	號
現在	舊						

組合戶數	
現在	
空屋	

異動內譯

符號	職業	人口	建物坪數 階上	階下	計	氏名	異動區分	符號	職業	人口	建物坪數 階上	階下	計	氏名	異動區分

右異動ニ付鑑札、鍵　候也

大正　年　月　日

名古屋市長殿

名古屋市　區　町　丁目　番地

給水裝置所有者
保管者

受付	調査	點檢簿	水栓臺帳	給水原簿	集計
	月日				

受附　大正　年　月　日

（注意）開栓後新交付、返納ハ本樣式ニ據ル

第十號　水藻　編

名古屋市長殿

大正　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

前記公設共用桟橋用ノ鎖錠ヲ以テ御許諾ヲ請フ御承認相成度申請候也

一申請事由

一用途

一環藻人口　第　號

一水桟番號

一設置場所　區　町　丁目　番地

公設共用桟橋使用申請

受付	大正　年　月　日

第三十五號様式（墨摺）

第　號	給水栓藻類除去願
名古屋市長殿	
大正　年　月　日	
名古屋市　區　町　丁目　番地	
給水装置所有者	
氏名	印
使用者	
氏名	印
使用目的	
藻類除去方法	
備考	
受付	大正　年　月　日

第三十四號様式（墨摺）

第　號	給水栓藻類除去願
名古屋市長殿	
大正　年　月　日	
名古屋市　區　町　丁目　番地	
給水装置所有者	
氏名	印
使用者	
氏名	印
使用目的	
藻類除去方法	
備考	
受付	大正　年　月　日

第三十五號様式（赤摺）

第　號	給水栓藻類除去願
名古屋市長殿	
大正　年　月　日	
名古屋市　區　町　丁目　番地	
給水装置所有者	
氏名	印
使用者	
氏名	印
使用目的	
藻類除去方法	
備考	
受付	大正　年　月　日

第三十四號様式（赤摺）

第　號	給水栓藻類除去願
名古屋市長殿	
大正　年　月　日	
名古屋市　區　町　丁目　番地	
給水装置所有者	
氏名	印
使用者	
氏名	印
使用目的	
藻類除去方法	
備考	
受付	大正　年　月　日

第三十二號様式（墨摺）

桟橋札鑑請求及領収書	
一給水装置場所	區　町　丁目　番地
一水桟番號	第　號
一鑑札、鑑番號	箇
一受付ヲ受ケタル理由	
右請求領収候也	
名古屋市　區　町　丁目　番地	
大正　年　月　日　給水装置所有者	
名古屋市長殿	
符號一使用者氏名一符號使用者氏名	
月日	
藻類除去	
水桟藻類除去願	
受付	大正　年　月　日

第三十一號様式（墨摺）

桟橋札鑑請求及領収書	
一給水装置場所	區　町　丁目　番地
一水桟番號	第　號
一鑑札、鑑番號	箇
一受付ヲ受ケタル理由	
右請求領収候也	
名古屋市　區　町　丁目　番地	
大正　年　月　日　給水装置所有者	
名古屋市長殿	
符號一使用者氏名一符號使用者氏名	
月日	
藻類除去	
水桟藻類除去願	
受付	大正　年　月　日

第三十六號樣式（青摺）

日號	大正	年	月	日
受付	第			

栓聯用屆

一給水裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一水栓番號　　第　　號

一戸數　左記ノ通リ

右專用栓ニ依ル給水料ヲ納付シ聯用致度候間關係者連署御屆候也

追テ聯用者ニ係ル給水料ハ本栓給水請求者ニ於テ納付可致候

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

大正　年　月　日　給水裝置所有者

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

給水請求者（納人）

名古屋市長殿

調査	月日
點檢簿	
索引	
水栓臺帳	
給水原簿	
集計	

聯用者

職業	人口	用途	建物坪數 階上	建物坪數 階下	建物坪數 計	住所	氏名	印

第三十七號樣式（青摺）

日	大正	年	月	日
受付				

專用栓聯用者脫退屆

一給水裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一水栓番號　　第　　號

一脫退者

一事由

右專用栓聯用者脫退致候間御屆候也

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

大正　年　月　日　給水請求者

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

脫退者

名古屋市長殿

受付	
檢査員	
料金	

（注意）給水請求者又ハ脫退者ヨリ屆出ツヘシ

第三十八號樣式（黑摺）

日號	大正	年	月	日
受付	第			

一住所變更屆

氏名

一給水裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一給水裝置種別

一水栓番號　　栓第　　號

一舊住所

氏名　　區　　町　　丁目　　番地

一新住所

氏名　　區　　町　　丁目　　番地

右御屆候也

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

大正　年　月　日

名古屋市長殿

點檢簿	
索引	
水栓臺帳	
給水原簿	
設計書	
分納臺帳	

第四十二號様式（黒摺）

一設置場所　區　町　丁目　番地
一水栓設置物別　栓第　號
右給水設置所有權移轉届

受付　大正　年　月　日　第　號

第四十三號様式（赤摺）

一消火栓所在地　區
一消火栓番號　第
一消火栓口徑　寸
一消火ノ場所　區　町　丁目　番地
右
大正　年　月　日
名古屋市長殿
立會吏員
請求者

第四十四號様式（黒摺）

一使用水器裝置ノ日時、
一使用ノ目的
一使用ノ栓番號
一使用ノ年月日
右使用ノ日時御立會相成度御届候也
大正　年　月　日
名古屋市長殿
請求者　區　町　丁目　番地

第十類　水道

第四十五號様式（赤摺）

一給水料金
一使用箇數及時間
至自至自至自至自
午午午午午午午午
時時時時時時時時
分分分分分分分分
前記ノ通リ相違無之候也
大正　年　月　日
右
立會吏員
請求者

第四十六號様式（黒摺）

一設置場所　區　町　丁目　番地
一水栓設置物別　栓第　號
右給水設置所有權移轉届

受付　大正　年　月　日　第　號

第四十七號様式（赤摺）

一消火ノ場所　區　町　丁目　番地
一消火栓番號　第　號
一消火栓口徑　寸
一消火栓所在地　區　町　丁目　番地
右
大正　年　月　日
名古屋市長殿
請求者

第四十八號様式（黒摺）

一使用箇數及時間
至自至自至自至自
午午午午午午午午
時時時時時時時時
分分分分分分分分
前記ノ通リ相違無之候也
大正　年　月　日
右
立會吏員
請求者

第四十九號様式（赤摺）

一給水料金
一使用箇數及時間
至自至自至自至自
午午午午午午午午
時時時時時時時時
分分分分分分分分
前記ノ通リ相違無之候也
大正　年　月　日
右
立會吏員
請求者

第四十九號様式（赤摺）

一消火ノ場所　區　町　丁目　番地
一消火栓番號　第　號
一消火栓口徑　寸
一消火栓所在地　區　町　丁目　番地
右
大正　年　月　日
名古屋市長殿
請求者

第四十九號様式（黒摺）

一使用箇數及時間
至自至自至自至自
午午午午午午午午
時時時時時時時時
分分分分分分分分
前記ノ通リ相違無之候也
大正　年　月　日
右
立會吏員
請求者

第四十九號様式（赤

第四十三號樣式（赤摺）

受付 大正 年 月 日 第 號

給水裝置管理屬

一 裝置場所 區 町 丁目 番地

一 水栓裝置番號 栓第 號

一 給水裝置所有者 區 町 丁目 番地

一 住所 市

右給水裝置ハ拙者ニ於テ管理致候間御屬候也

名古屋市 區 町 丁目 番地

大正 年 月 日 管理者

名古屋市長殿

第四十四號樣式（赤摺）

受付 大正 年 月 日 第 號

給水裝置滅失屬

一 裝置場所 區 町 丁目 番地

一 水栓裝置番號 栓第 號

一 住所 市

一 年 月 日 大正 年 月 日

右御屬候也

名古屋市 區 町 丁目 番地

大正 年 月 日 給水裝置所有者

名古屋市長殿

小ノ水道管ニ給水ノ為メ本文ノ件ニ付キ本人ノ承諾ヲ得タルモノニシテ所有者ノ承諾ヲ要スルモノトス

名古屋市 區 町 丁目 番地

大正 年 月 日

給水裝置所有者

名古屋市長殿

方本年 月 日ヨリ給水廢止相成度請求候也

追テ廢止實用ノ御指定ニ從ヒ直ニ納付可致候

一 使用者

一 水栓番號

一 裝置場所 區 町 丁目 番地

給水裝置管理者

名古屋市長殿

大正 年 月 日

受付 第 號

（備考）汚穢器五十戸以

取入印紙
參錢貼用

第四拾六號樣式（青摺）

年賦給水裝置新設請求並工費分納證書

一、給水裝置場所　　區　　町　　丁目　　番地

一、給水裝置種別　　專用　共用　栓　壹　基

右給水裝置年賦分納ニ依リ新設相成度竣功ノ上ハ左記各項履行可致候依テ保證人連署ヲ以テ本書差出候也

一、分納期間　　工事竣功ノ日ヨリ五ヶ年間

一、分納金毎月金參拾錢ハ指定ノ通リ納付可致候

一、給水裝置及量水器（保護筐ヲ含ム）ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ保管シ破損漏水等ニ依リ修繕ヲ要シ又ハ亡失シタル場合ハ其ノ費用ヲ負擔可致候

一、分納期間中給水裝置不要トナリタル場合ハ分納繼續者ヲ定メ屆出可申候

一、給水裝置請求者ニ於テ裝置ノ管理ヲ爲サザル時若クハ前項手續ヲ履行セザル場合ハ保證人ニ於テ該裝置ニ關スル一切ノ權利義務ヲ承繼可致候

一、給水裝置ニシテ御規定ノ工費ヲ超過シタルトキ又ハ支栓設置ノ費用ハ其ノ部分ヲ即納可致候

一、前各號ノ外御市水道給水條例及同施行細則ヲ遵守可致候

受付	年　月　日 第　號

水栓番號	專用 共用 第　號
竣功	昭和　年　月　日
分納期間	自昭和　年　月 至昭和　年　月

氏名			
住所			
保證人	氏名	住所	日月更變

給水裝置請求者

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

給水裝置請求者

名古屋市　區　町　丁目　番地

保證人

名古屋市長殿

本管（既設）　區　町　丁目　番地　栓　號

右本管ヨリ支管分岐給水裝置新設ノ儀承諾候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

本管所有者

給水使用者

氏名	職業	用途	摘要	氏名	職業	用途	摘要

注意

一、請求者カ給水裝置ヲナスヘキ家屋又ハ土地ノ所有者ニ非ルトキハ其ノ家屋又ハ土地所有者ヲ保證人トスルコト

一、請求者カ給水裝置ヲナスヘキ家屋又ハ土地ノ所有者ナルトキハ他ノ家屋又ハ土地所有者ヲ保證人トスルコト

導水裝置許可臺帳

第　號		第　號	
裝置場所	區　町　丁目　番地	裝置場所	區　町　丁目　番地
種別番號	用栓第　號	種別番號	用栓第　號
導水ノ目的		導水ノ目的	
管徑、延長		管徑、延長	
水栓又ハ水槽以下ノ栓數	水栓　水槽　以下　栓	水栓又ハ水槽以下ノ栓數	水栓　水槽　以下　栓
檢査手數料	金	檢査手數料	金
許可年月日	大正　年　月　日	許可年月日	大正　年　月　日
使用者		使用者	
摘要	許可指令水第　號	摘要	許可指令水第　號

給水工費月賦納付ニ對シ所定ノ利子錢位未滿切捨ノ件

大正三年五月二日 決裁

給水工費月賦納付ニ對シ所定ノ利子ヲ加算スル場合錢位未滿ノ端數ヲ切捨テ計算スル事

給水料査定ニ關スル件

大正十四年五月十二日 決裁

一、給水料ハ一箇月毎ノ使用量ニ依リ之カ用途ニ相當スル料率ヲ乘シ其算出額錢位未滿ノ端數ヲ生シタル場合ハ之ヲ切捨ツルコトナク三箇月分ヲ合計シ其額ニシテ壹錢未滿ノ場合ノミ其端數ヲ切捨ツルコトニ取扱フコト但シ一箇月毎ニ徴收スルモノハ此限ニ在ラス

二、私設消火栓共給準備料ハ後納扱トシ給水料徴收ノ例（一箇月毎ニ徴收スルモノハ一箇月毎）ニ依リ徴收スルコト

水道施設物使用料條例

大正十年五月六日 條例第三號

第一條 水道瓶設物中船舶給水設備ヲ使用シ又ハ公設共用給水栓ヲ廣告裝置ニ使用スルモノハ本條例ニ依リ使用料ヲ納ムヘシ

第二條 前條ノ使用料ハ左ノ金額ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

一、船舶給水設備年額一ヶ所金五百圓以内

二、公設共用給水栓廣告裝置一基年額金參拾圓以内

第三條 使用料ノ計算及徴收方法左ノ如シ

使用料ハ會計年度ニヨリ其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ年額トシ四月中ニ徴收シ五月以降新ニ使用ヲ許可シタルモノニ付テハ月割トシ隨時之ヲ徴收ス

第四條 使用料ハ使用許可年限中ト雖モ本市ノ都合ニ依リ之ヲ增減スルコトアルヘシ此場合ハ三箇月前ニ通告ス

第五條 使用期間中ト雖本市ノ必要ニ依リ使用許可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ月割ヲ以テ使用料ヲ還付ス

第六條 本條例施行ニ關シ必要ナル規定ハ市長之ヲ定ム

水道課員非常召集規程

大正十五年九月二十八日 訓示第七號

第一條 水道鐵管ノ破裂又ハ損傷其ノ他重大ノ事故發生ノ場合ハ課長ノ命ニ依リ臨時課員（雇傭人ヲ含ム）ヲ召集ス

第二條 前條召集ハ課員ヲ三班ニ分チ最初第一班ヲ召集シ狀況ニ依リ順次第三班ニ及フモノトス

第三條 召集ヲ受ケタル者ハ直ニ出勤シ緊急事務ニ從事スヘシ

第四條 向田町材料檢査所第二條第二項ノ通知ニ接シタルトキハ直ニ所

員（雇傭人ヲ含ム）ヲ召集シ材料器具運搬ノ準備ヲ爲シ課長ノ命ヲ俟ツヘシ

第五條 召集狀ハ左記樣式ニ依リ之ヲ作成シ宿直ニ常傭スルモノトス

（赤色） 五寸

表 二寸

第 班
非常召集 名古屋市役所保健部水道課
住所
職氏名 宛

裏

注意
一、出頭ノ際ハ本票ヲ携帶返納スヘシ
一、病氣其ノ他ノ事故ニ依リ召集ニ應スル能ハサル者ハ即時其ノ旨屆出ツヘシ

水道課員市內出火出務心得

大正三年四月十八日 達第十八號

第一條 水道課員ハ出火ノ報知ニ接シタルトキハ直ニ檢査員及工夫ヲ派出セシムヘシ

第二條 出火ノ狀況ニ依リ增水ノ必要アリト認メタルトキハ東山派出所ヘ通知シ之カ處置ヲナサシムヘシ

第三條 派出セシ檢査員ハ工夫ヲ督勵シ實地ニ臨ミ出火及鎭火ノ時間、燒失戶數、使用消火栓數其成績給水使用者中罹災ノ有無等ヲ調査シ市長ニ報告スヘシ

第四條 鎭火後ハ消防手ト協力シ使用消火栓ノ閉鎖並ニ其附近ニアル配水鐵管等ニ異狀ナキヤヲ檢査スヘシ

第五條 派出セシ檢査員及工夫ハ制服制帽ヲ着用シ尙夜間ハ左記樣式ノ提燈ヲ携帶スヘシ

第六條 水道課長、技師其他課員ハ市役所非常事變出務心得ニ依リ

水道檢査員

水道課工夫

水道課職工、工夫見習及定人夫規程

大正四年三月三十一日 達第十一號

改正 大正九年九月一日 達第五十六號 大正十年十月七日 達第三十三號

第一章 總則

第一條 職工、工夫、見習及定人夫ハ所屬掛員ノ指揮監督ヲ受ケ各其業務ニ從事スヘシ

第二條 工事上必要アルトキハ組長ヲ置キ職工、工夫中ヨリ業務ニ精勵シ技倆優秀、品行方正ナルモノヲ選ヒテ之ニ充ツ

第三條 職工、工夫見習ニシテ三ケ月以上ノ練習ヲ經相當ノ技倆アリト認ムルトキハ職工、工夫ニ採用ス

第二章 採用

第四條 職工、工夫ハ相當ノ技倆經驗ヲ有スル者ニアラサレハ採用スルコトヲ得ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ職工、工夫見習及定人夫ニ採用スルコトヲ得ス

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二、破產者ナハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者
三、不具又ハ身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘ難シト認ムル者
四、感染性ノ疾患アル者
五、素行不良ナル者
六、年齡十七歲未滿五十五歲以上ノ者但シ見習ハ之ヲ除ク

第六條 職工、工夫見習及定人夫ニ採用スル時ハ左記各項ノ事項ニ對シ市區町村長ノ身分證明書ヲ差出サシム

一、年齡
二、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトノ有無
三、破產者ナハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルコトノ有無

第七條 職工、工夫見習及定人夫ニ採用セラレタル者ニ別紙第一號樣式ニ依リ誓約書ヲ差出スヘシ

第八條 保證人ハ本市內ニ現住シ一戶ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム成年以上ノ男子タルコトヲ要ス

第九條 身元保證人前條ノ資格ヲ失ヒタルトキ又ハ主務課長ニ於テ不適當ト認メタルトキハ更ニ身元保證人ヲ引換ヘシム

身元保證人轉居シタルトキハ直チニ屆出ツヘシ

第十條 職工、工夫見習及定人夫ニ採用シタル者ニハ別紙第二號樣式ノ甲乙兩號ノ票札ヲ交付ス

第三章　服務及監督

第十一條　職工、工夫見習及定人夫ノ勤務時間及休暇日ハ水道課處務細則第三十條ヲ適用ス但シ喫飯時間ハ正午ヨリ三十分間休憩時間ハ午前午後ニ於テ各十五分間宛トス夜間ノ場合モ之ニ準ス

浄水係機關職工ノ勤務時間及休暇日ハ別ニ之ヲ定ム

天災事變等ノ場合ハ速ニ出勤シ係員ノ指揮ヲ待ツヘシ

第十二條　職工、工夫見習及定人夫出勤シタルトキハ直ニ出勤簿ニ捺印シ甲號ノ票札ヲ係員ニ差出シ乙號ノ票札ヲ受取リ退散ノトキハ乙號ノ票ト引換フヘシ

第十三條　勤務時間ニ達シタルトキハ直ニ業務ニ就キ終業退散ノ際ハ必ス器具器械ヲ掃除シ材料ヲ整ハ係員ノ檢査ヲ受クヘシ

第十四條　業務ノ種類ニ依リテハ宿直ヲ命スルコトアルヘシ宿直ヲ命セラレタル者ハ其ノ翌日業務上差支ナキ限リ所屬主任ノ許可ヲ得テ退散時限二時間前ニ早退スルコトヲ得

第十五條　出勤時限ニ遲レタルモノハ當日就業ヲ許サス但シ所屬係員ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニアラス

第十六條　職工、工夫見習及定人夫ハ就業時間中ハ所屬係員ノ許可ナクシテ業務ヲ中止又ハ其場所ヲ離ルヽコトヲ得ス若シ疾病其他已ヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ係員ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第十七條　疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ出勤シ難キトキハ當日午前中ニ其ノ旨書面又ハ口頭ヲ以テ屬出ツヘシ但シ前日ニ於テ豫知シ得ル場合ハ前日中ニ屬出ツルコトヲ要ス傷痍又ハ疾病ノ爲メ引續キ十五日以上缺勤スルモノハ十五日毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ屬出ツヘシ但シ第十九條ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第十八條　職工、工夫見習及定人夫ハ器具機械材料其他ノ物品ニ異狀アルコトヲ發見シ又ハ之ヲ亡失毀損セシメタルトキハ直ニ係員ニ申出指揮ヲ受ケ相當ノ手續ヲナスヘシ但シ亡失毀損ノ原因カ故意怠慢ニ出ルト認ムル時ハ其損害ヲ辨償セシム

第十九條　業務ニ基因シ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リタル場合ハ再ヒ執業ニ堪ユル迄休暇ヲ與フ但シ醫師ノ診斷書ヲ以テ證明シタルモノニ限ル

第四章　給　與

第二十條　職工、工夫、見習及定人夫ノ給料ハ總テ日給トシ其支勤額ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條　給料ハ出勤ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ休暇日ハ出勤數ニ計算ス

第二十二條　業務上ノ必要ニ依リ休暇日ニ臨時出勤ヲ命セラレタル者出勤セサルトキハ其日ノ給料ヲ支給セス

第二十三條　疾病其他ノ事故ニ依リ遲參又ハ早退シタルトキハ一時間毎ニ日給額ノ十分ノ一ヲ減ス

第二十四條　定時間以外ニ執業ヲ命シタル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ時間外勤務給料ヲ支給スルコトヲ得

一、出勤時限前早出三時間及終業時間ヨリ午後十二時迄ハ從業一時間毎ニ日給額十分ノ一翌日午前零時ヨリ始業時間マテハ一時間ニ付日給額ノ十分ノ二

二、工事ノ都合ニ依リ執務時間外ニ於テ臨時召喚作業ニ服セシメタル場合ニハ一時間ニ付日給額十分ノ一翌日午前零時ヨリ始業時間迄ハ一時間ニ付日給額ノ十分ノ二

第二十五條　非常ノ勞働又ハ特別困苦ヲ要スル業務ニ從事スル者アルトキハ係員ノ見込ヲ以テ毎一時間ニ付日給額ノ十分ノ二以内ノ範圍ニ於テ增給スルコトヲ得

第二十四條及前項ノ增給ヲ爲サントセルトキハ其都度係主任ヲ經テ課長ノ認可ヲ經ルモノトス

第二十六條　時間ノ計算ハ一時間未滿ハ切捨トス但シ時間外ノ計算ニ早出居殘ヲ區分ス

第二十七條　本規程施行ノ際ニ特ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル日給額ニ相當スル日給ヲ受ク

附　則

第二十八條　本規程ハ大正四年四月一日ヨリ施行ス

（第一號樣式）

誓約保證書

原　籍
寄　留
戸主又ハ續柄　氏　名

右者今般御市水道課（職工、工夫、見習、定人夫）ニ御採用相成候ニ付テハ左記各項遵守可仕ハ勿論在職中本人身上ニ關スル一切ノ行爲ハ保證人ニ於テ其責ニ任シ御迷惑相懸ケ申間敷依テ以連署本書差出候也

一、職工、工夫、見習定人夫規程及其他ノ御命令事項ハ堅ク服膺シ誠實ニ勤務スヘキコト

一、一箇年以内ニ於テ自己ノ便宜ニ依リ解傭ヲ願出タルトキハ相當御處分相受ケ候モ異議申立サルコト

一、市ノ御都合上御解傭相成候共異議申立サルコト

右

年　月　日　氏　名㊞

住　所

保證人　氏　名㊞

名古屋市役所御中

（第二號樣式）　（木製　長二寸二分、幅八分、厚二分）

甲號

表	裏
職　氏　名	名古屋市水道課

乙號

表	裏
職　氏　名	名古屋市水道課

水道直營工事ニ使役スル臨時勞働者服務及給與ノ件

大正十三年九月十一日 決裁

改正 昭和十年五月二十日 決裁

水道直營工事ノ爲臨時使役スル鐵工、木工、左官、人夫其他ノ勞働者（供給契約ニ依リ使役スルモノヲ除ク）ニ關シテハ水道部職工、工夫見習及定人夫規程中第三章服務第四章給與ニ關スル規定ヲ準用處理ス

水道諸收入金徵收事務取扱規程

大正三年六月八日 訓示第四號

改正 大正四年三月十七日 訓示第二號 大正八年二月二十一日 訓示第一號 大正九年二月十日 訓示第一號 大正九年五月四日 訓示第三號 大正十四年六月二十二日 訓令第四號 昭和六年六月二十九日 訓令第五號 昭和十年三月二十九日 訓令第二號

第一條 給水料、量水器使用料、給水工費、諸手數料及辨償金ノ徵收事務ハ本規程ニ依リ處理スヘシ

第二條 給水工費ハ工費臺帳ニ依リ給水料ハ使用水量點檢表（指定給水栓ハ水栓臺帳）ニ依リ量水器使用料特設分納金諸手數料及辨償金ハ願書申請書其ノ他ノ資料ニ依リ徵收兼收納簿ヲ調製スヘシ

第三條 納額告知書ハ前條ノ徵收兼收納簿ニ依リ調製シ市稅其ノ他一般取扱ニ倣ヒ水道使用料及分納工費納額告知書ハ區長ニ其他ノ納額告知書ハ之ヲ納人又ハ其ノ代理人ニ交付スヘシ

第四條 納付金ヲ指定納付期日迄ニ納入セサル者ニ對シテハ滯納整理簿ヲ設ケ徵收兼收納簿ヨリ轉記シ滯納金ノ整理ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ徵收兼收納簿ニ何月何日整理簿ヘ轉記ト記入スヘシ

第五條 督促狀ハ前條ノ整理簿ニ基キ納期日ヲ指定シ之ヲ發行スヘシ

第六條 督促狀指定期限內ニ督促手數料及滯納金ヲ完納セサル者ニ對シテハ名古屋市水道給水條例（以下單ニ條例ト稱ス）第四十三條第一項第七號及第十六條第二項ノ處分又ハ財產差押ノ處分ヲ執行スヘシ

第七條 條例第十四條ノ許可アリタルトキハ該工費ニ所定ノ利子ヲ附シ月割額ヲ定メ給水工事請求者ヲシテ分納證書ヲ差出サシムヘシ

第八條 本規程ニ依ル帳簿其ノ他ノ用紙ハ別記樣式ニ依リ調製スヘシ

第九條 本規程ニ定ムルモノヽ外市稅其ノ他諸收入徵收事務取扱規程及其ノ他一般ノ收入取扱手續ニ依ル

導水裝置許可取扱順序

大正十三年六月十九日 決裁

改正 昭和十年五月二十日 決裁 大正十五年九月二十八日

一、導水裝置ノ許可申請ハ料金課ニ於テ受理スルモノトス

二、給水課ハ實地ニ就キ管徑、延長、栓數及其適否ヲ調査スヘシ

三、料金課（受付）ハ檢査員（點檢係）ノ合議ヲ經テ決裁後別紙臺帳ニ登錄ノ上檢査手數料ヲ徵收許可ノ手續ヲ爲シ整理スルモノトス

四、檢査員（點檢係）ハ點檢簿ニ導水裝置ノ附屬スル旨附記スルコトヲ要ス

五、檢査手數料ノ標準左ノ如シ

內徑一吋四分ノ一以下一栓ニ對シテハ金壹圓トシ以上一栓ヲ增ス每ニ金五拾錢ヲ加ヘ最高金五圓トス

內徑一吋四分ノ一ヲ超ユルモノニ對シテハ金壹圓五拾錢トシ以上一栓ヲ增ス每ニ金五拾錢ヲ加ヘ最高金拾圓トス

本項檢査手數料ハ水道給水條例施行細則第四十二條第二項ノ適用ヲ妨ケス

第一號樣式

設計番號	第　號	裝置場所	區　町	番	月賦工費臺帳	第　號
給水種別		工事請求者住所氏名	區　町	番		
工事請求	年　月　日	代理人住所氏名	區　町	番		
工事竣功	年　月　日	保證人住所氏名（担保品提供者）	區　町	番		
水栓番號	第　號	設計工費	工費	利子	計	更正工費（實施） 工費 利子 計
月賦期間	年　月　個月		円	円	円	円 円 円

回數	通知番號	金額	納期日	納入月日	差引增減	不足	過剩	證書提出	年　月　日	更正通知	年　月　日	每月額	最終月增減
		円			円		円					円	円
1	第　號(1)	円	年　月　日	年　月　日									
2	第　號(2)		年　月　日	年　月　日									
3	第　號(3)		年　月　日	年　月　日									
4	第　號(4)		年　月　日	年　月　日									
5	第　號(5)		年　月　日	年　月　日									
6	第　號(6)		年　月　日	年　月　日									
7	第　號(7)		年　月　日	年　月　日									
8	第　號(8)		年　月　日	年　月　日									
9	第　號(9)		年　月　日	年　月　日									
10	第　號(10)		年　月　日	年　月　日									
11	第　號(11)		年　月　日	年　月　日									
12	第　號(12)		年　月　日	年　月　日									
13	第　號(13)		年　月　日	年　月　日									
14	第　號(14)		年　月　日	年　月　日									
15	第　號(15)		年　月　日	年　月　日									
16	第　號(16)		年　月　日	年　月　日									
17	第　號(17)		年　月　日	年　月　日									
18	第　號(18)		年　月　日	年　月　日									
19	第　號(19)		年　月　日	年　月　日									
20	第　號(20)		年　月　日	年　月　日									

専用給水裝置特設分納金調定兼收納簿帳

（第　號）

給水裝置所在地	區町丁目番地	證書提出	昭和　年　月　日	竣功月日	水栓番號	年月日
一ヶ月納金額	參拾錢	納住所氏名	年月日	區町丁番		
期間	自　年　月　日	保證人住所氏名	年月日	區町丁番		
	至　年　月　日		年月日	區町丁番		
			年月日	區町丁番		
			年月日	區町丁番		
			年月日	區町丁番		

（第二號樣式）

年度別	回數	告番知書號	調定年月日	納期日	領收年月日	摘要
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						

後納三保ヶ　簡易工賃、修繕費、手數料、辨償金　證收金納簿

名古屋市役所水道部

年度別	回數	告番知書號	調定年月日	納期日	領收年月日	摘要
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						

年度別	回數	告番知書號	調定年月日	納期日	領收年月日	摘要
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						
昭和第一期						
第二期						
第三期						
第四期						

專用給水料徵收兼收納簿

裝置所	區	町	丁目	番地	竣功 大正昭和 年 月 日	專用 水栓番號
納入住所氏名	年 月 日				量水器用途	前納給水料 年 月 日

年度		使用水量	料金	個數 支	料金 栓	領收月日	摘要	年度		使用水量	料金	個數 支	料金 栓	領收月日	摘要
昭和	第三期 計							昭和	第三期 計						
	12								12						
	11								11						
	10								10						
	第二期 計								第二期 計						
	9								9						
	8								8						
	7								7						
	第一期 計								第一期 計						
	6								6						
	5								5						
	4								4						
年度	第四期 計							年度	第四期 計						
	3								3						
	2								2						
	1								1						

年度		使用水量	料金	個數 支	料金 栓	領收月日	摘要	年度		使用水量	料金	個數 支	料金 栓	領收月日	摘要
昭和	第三期 計							昭和	第三期 計						
	12								12						
	11								11						
	10								10						
	第二期 計								第二期 計						
	9								9						
	8								8						
	7								7						
	第一期 計								第一期 計						
	6								6						
	5								5						
	4								4						
年度	第四期 計							年度	第四期 計						
	3								3						
	2								2						
	1								1						